RICOH

imagio

MP 9002/7502/6002シリーズ

使用説明書

〈ネットワークの接続/システム初期設定〉

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『はじめにお読みください』「安全上のご注意」をお読みください。

目次

1. システム初期設定

2. 接続と設定

3. プリントサーバーの準備

4. 機器の監視

5. 宛先・ユーザーを登録する

6. Windows からファイルを直接印刷する

7. UNIX で印刷する

8. 付録

初期設定を変更する

本機の運用に沿って、初期設定値や操作の条件を変更します。

補足

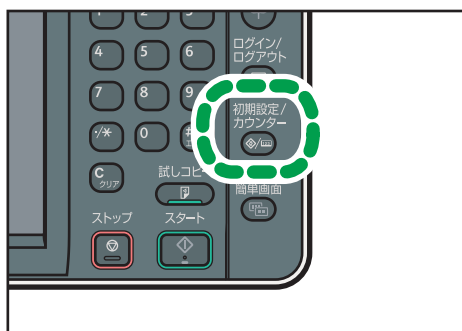
- 初期設定値の変更は、通常の機能とは別の機能で操作します。操作後は、通常の画面に戻してください。通常の画面への戻り方は、P.10「初期設定の終了」を参照してください。
- 設定／変更した内容は、設定し直さないかぎり有効です。主電源スイッチを切ったり、［リセット］キー、［省エネ］キーを押しても取り消されません。

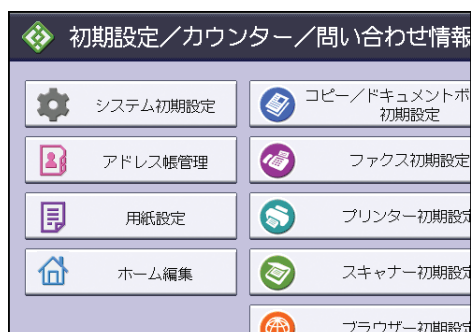
初期設定の変更

初期設定の変更方法を説明します。

重要

- 管理者認証が設定されているときは、管理者に確認してください。

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

2. 設定する初期設定を選択します。

システム初期設定を変更したいときは、［システム初期設定］を押します。

3. **設定する項目を選択します。**

4. **画面のメッセージにしたがって初期設定値を変更し、[設定] を押します。**

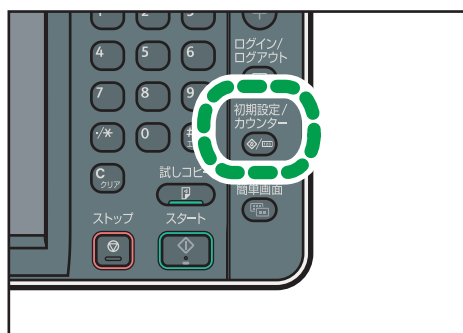
   初期設定値の変更を中止し通常の画面に戻したいときは、[初期設定／カウンター] キーを押します。

補足

- システム初期設定の各設定項目についてはP.11「システム初期設定」を参照してください。
- 言語切り替えについては、『本機のご利用にあたって』「表示言語を切り替える」を参照してください。
- 連絡先の確認については、『保守/仕様』「問い合わせ情報」を参照してください。
- カウンターの確認については、『保守/仕様』「カウンター」を参照してください。

初期設定の終了

初期設定の終了方法を説明します。

1. **[初期設定／カウンター] キーを押します。**

CJR003

補足

- 初期設定のメニュー画面の［終了］を押しても終了できます。

IP アドレスについて

本書で「IP アドレス」と表記されている場合は、IPv4 と IPv6 の両環境に対応していることを示しています。お使いの環境に合わせてお読みください。

1. システム初期設定

本機にある［システム初期設定］の各種項目について説明します。

基本設定

［システム初期設定］にある［基本設定］タブの各種項目について説明します。

定型文字列登録／変更／消去

各種設定で文字入力をするときによく使う文字列を登録します。

「.co.jp」や「いつもお世話になっております。」など、よく使われる文字列をあらかじめ登録しておくと、文字入力するときに便利です。

定型文字列は 40 件まで登録できます。

- 登録／変更
    1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
    2. ［システム初期設定］を押します。
    3. ［基本設定］タブが選択されていることを確認します。
    4. ［定型文字列登録／変更／消去］を押します。
    5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
    6. ［＊未登録］と表示されているキーを選択します。

       登録されている定型文字列を変更するときは、変更したい定型文字列のキーを選択します。
    7. 登録する文字列を入力し、［OK］を押します。

       登録する文字列は、全角 40 文字、半角 80 文字以内で入力してください。
    8. ［閉じる］を押します。
    9. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
- 消去
    1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
    2. ［システム初期設定］を押します。
    3. ［基本設定］タブが選択されていることを確認します。
    4. ［定型文字列登録／変更／消去］を押します。
    5. ［消去］を押します。
    6. 消去したい定型文字列のキーを選択します。
    7. ［消去する］を押します。
    8. ［閉じる］を押します。
    9. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

ブザー音

キーを押したときのブザー音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。

- 最小
- 小
- 中
- 大
- OFF

工場出荷時の設定：**中**

ウォームアップ通知音（コピー／ドキュメントボックス機能のみ）

予熱を解除したときや電源を入れたときに、コピーできるようになったことを知らせるウォームアップ通知音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。

工場出荷時の設定：**ON**

「ブザー音」を［OFF］に設定した場合、「ウォームアップ通知音」を［ON］に設定しても、ウォームアップ通知音は鳴りません。

用紙枚数カウンター表示（コピー／ドキュメントボックス機能のみ）

コピー枚数の表示方法を加算表示にするか減算表示にするかを設定します。

工場出荷時の設定：**加算**

優先機能設定

電源を入れた直後やシステムオートクリアされたときに、優先的に表示する機能を設定します。

- ホーム／アプリケーション
  - ホーム
  - コピー
  - ドキュメントボックス
  - ファクス
  - プリンター
  - スキャナー
  - ブラウザー
- 拡張機能
- URL

工場出荷時の設定：**ホーム**

機能キー割り当て設定

ファンクションキー（1〜5）に、よく使う機能やプログラム、Web ページを割り当てることが出来ます。

- コピー機能のみのモデルの場合（HDD 搭載）
  - 1
    工場出荷時の設定：**コピー**
  - 2
    工場出荷時の設定：**ドキュメントボックス**
- コピー機能のみのモデルの場合（HDD 非搭載）
  - 1
    工場出荷時の設定：**コピー**
- ファクス機能付きモデルの場合（HDD 非搭載）
  - 1
    工場出荷時の設定：**コピー**
  - 2
    工場出荷時の設定：**ファクス**
- スキャナー、プリンター機能付きモデルの場合
  - 1
    工場出荷時の設定：**コピー**
  - 2
    工場出荷時の設定：**スキャナー**
  - 3
    工場出荷時の設定：**プリンター**
  - 4
    工場出荷時の設定：**ドキュメントボックス**
- スキャナー、プリンター、ファクス機能付きモデルの場合
  - 1
    工場出荷時の設定：**コピー**
  - 2
    工場出荷時の設定：**ファクス**
  - 3
    工場出荷時の設定：**スキャナー**
  - 4
    工場出荷時の設定：**プリンター**
  - 5
    工場出荷時の設定：**ドキュメントボックス**

画面表示色切り替え

画面表示色を設定します。

- ブルーグレー
- グレー
- ブルー
- グリーン
- レッド

工場出荷時の設定：**ブルーグレー**

印刷優先機能設定

印刷を優先する機能を設定します。

- 表示機能

  画面に表示されている機能の印刷を優先します。

- コピー／ドキュメントボックス

  コピー／ドキュメントボックス機能の印刷を優先します。

- ファクス

  ファクス機能の印刷を優先します。

- プリンター

  プリンター機能の印刷を優先します。

- 割り込み印刷

  ［割り込み動作時の出力］で設定した枚数で切り替えて印刷します。

- 予約順印刷

  予約されている順に印刷します。ただし、ファクス機能からの印刷は予約されている印刷より優先されます。

工場出荷時の設定：**表示機能**

印刷機能移行時間

複数の機能を同時利用するときに、機能が切り替わるまでの待機時間を設定します。

1 枚ずつ設定を変えながらコピーをする機会が多い場合、印刷機能移行時間の値を大きくしておくと、途中で他機能の印刷が始まってしまうことを防止できます。

- 指定時間後
- 即時

工場出荷時の設定：**指定時間後**：**3 秒**

「指定時間後」を選択したときは、3-30（1 秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

［印刷優先機能設定］で［割り込み印刷］、または［予約順印刷］が設定されているときは、無効になります。

割り込み動作時の出力

［印刷優先機能設定］で［割り込み印刷］を選択した場合に、印刷する枚数を設定します。

工場出荷時設定：10 枚

排紙先：コピー（コピー機能のみ）

コピー機能の排紙先を設定します。

- 左トレイ
- シフトトレイ（シフトトレイ装着時）
- フィニッシャー・上トレイ（フィニッシャー装着時）
- フィニッシャー・シフトトレイ（フィニッシャー装着時）

工場出荷時の設定：**左トレイ**

排紙先：ドキュメントボックス（ドキュメントボックス機能のみ）

ドキュメントボックス機能の排紙先を設定します。

- 左トレイ
- シフトトレイ（シフトトレイ装着時）
- フィニッシャー・上トレイ（フィニッシャー装着時）
- フィニッシャー・シフトトレイ（フィニッシャー装着時）

工場出荷時の設定：**左トレイ**

排紙先：ファクス（ファクス機能のみ）

ファクス機能の排紙先を設定します。

- 左トレイ
- シフトトレイ（シフトトレイ装着時）
- フィニッシャー・上トレイ（フィニッシャー装着時）
- フィニッシャー・シフトトレイ（フィニッシャー装着時）

工場出荷時の設定：**左トレイ**

排紙先：プリンター（プリンター機能のみ）

プリンター機能の排紙先を設定します。

排紙先は、プリンタードライバーで設定した排紙先が優先されます。

- 左トレイ
- シフトトレイ（シフトトレイ装着時）
- フィニッシャー・上トレイ（フィニッシャー装着時）
- フィニッシャー・シフトトレイ（フィニッシャー装着時）

工場出荷時の設定：**左トレイ**

ADF 底板上昇設定

原稿を自動原稿送り装置（ADF）にセットしたときに ADF 板が上昇するタイミングを設定します。

- 原稿セット時
- スタート時

工場出荷時の設定：**原稿セット時**

状態確認/ジョブ一覧表示時間設定

システム状態画面とジョブ一覧画面の表示時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する**：**15 秒**

［する］に設定したときは、表示させる時間を 10-999（1 秒単位）の範囲で設定します。

予約印刷間隔時間

予約印刷の間隔を設定します。

- 指定時間後
- 時間指定しない

工場出荷時の設定：**3 秒**

「指定時間後」を選択した場合は、0〜999 秒の範囲でテンキーで入力します。

キーリピート設定

画面や操作部のキーを押しつづけたときに、操作をリピートするかしないかを設定します。

- リピートしない
- 通常
- リピート時間：中
- リピート時間：長

工場出荷時の設定：**通常**

リピートする操作は機能によって異なります。

Z 折り位置設定（紙折りユニット装着時）

Z 折りを設定したときの折り返し位置を 1mm 単位で設定します。

用紙サイズごとの折り位置の設定範囲は以下のとおりです。

- A3：2〜25mm
- B4：2〜17mm
- A4：2〜17mm
- 11×17：2〜20mm
- $8^1/_2$×14：2〜17mm

- $8^{1}/_{2}$×11：2～17 mm
- その他のサイズ：2～17mm

工場出荷時の設定：**2mm**

Z 折り位置設定（Z 折りユニット装着時）

Z 折を設定したときの折り返し位置を 1mm 単位で設定します。

用紙サイズごとの折り位置の設定範囲は以下のとおりです。

- A3：2～25mm
- B4：2～40mm
- A4：2～10mm
- 11×17：2～20mm
- $8^{1}/_{2}$×14：2～35mm

工場出荷時の設定：**2mm**

二つ折り位置設定

二つ折りを設定したときの折り返し位置を 1mm 単位で設定します。1 枚折り、または、重ね折りの折り返し位置を設定できます。

用紙サイズごとの折り位置の設定範囲は以下のとおりです。

- A3：-10～10mm
- B4：-10～10mm
- A4：-10～10mm
- 11×17：-10～10mm
- $8^{1}/_{2}$×14：-10～10mm
- $8^{1}/_{2}$×11：-10～10mm
- その他のサイズ：-10～10mm

工場出荷時の設定：**0 mm**

外三つ折り位置設定（紙折りユニット装着時）

外三つ折りを設定したときの折り返し位置を 1mm 単位で設定します。

用紙サイズごとの折り位置の設定範囲は以下のとおりです。

- A3：-10～10mm
- B4：-10～10mm
- A4：-10～10mm
- 11×17：-10～10mm
- $8^{1}/_{2}$×14：-10～10mm
- $8^{1}/_{2}$×11：-10～10mm
- その他のサイズ：-10～10mm

工場出荷時の設定：**4 mm**

内三つ折り位置設定（紙折りユニット装着時）

内三つ折りを設定したときの折り返し位置を1mm単位で設定します。1枚折り、または、重ね折りの折り返し位置を設定できます。

用紙サイズごとの折り位置の設定範囲は以下のとおりです。

- A3：2～7mm
- B4：2～7mm
- A4：2～7mm
- 11×17：2～7mm
- $8^{1}/_{2}$×14：2～7mm
- $8^{1}/_{2}$×11：2～7mm
- その他のサイズ：2～7mm

工場出荷時の設定：**4 mm**

四つ折り位置設定（紙折りユニット装着時）

単純四つ折りを設定したときの折り返し位置を1mm単位で設定します。

用紙サイズごとの折り位置の設定範囲は以下のとおりです。

- A3：-10～10mm
- B4：-10～10mm
- A4：-10～10mm
- 11×17：-10～10mm
- $8^{1}/_{2}$×14：-10～10mm
- $8^{1}/_{2}$×11：-10～10mm
- その他のサイズ：-10～10mm

工場出荷時の設定：**0 mm**

観音折り位置設定（紙折りユニット装着時）

観音四つ折りを設定したときの折り返し位置を1mm単位で設定します。

用紙サイズごとの折り位置の設定範囲は以下のとおりです。

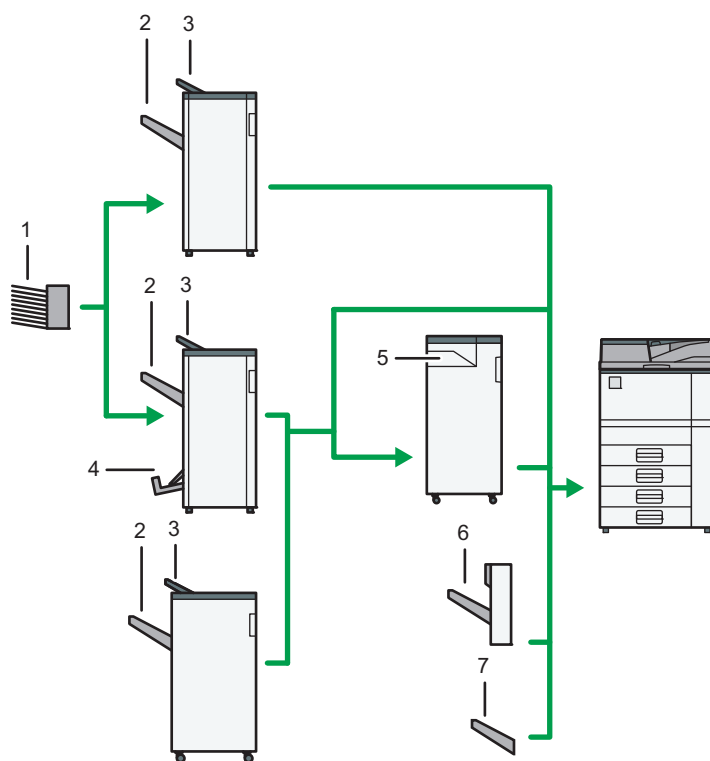
- A3：2～12mm
- B4：2～12mm
- A4：2～12mm
- 11×17：2～12mm
- $8^{1}/_{2}$×14：2～12mm
- $8^{1}/_{2}$×11：2～12mm
- その他のサイズ：2～12mm

工場出荷時の設定：4 mm

- ［システム初期設定］への入り方については、P.9「初期設定を変更する」を参照してください。

排紙先の表示と設定について

排紙先の表示と設定について説明します。

- 装着しているオプションにより表示されないトレイがあります。
    - ［シフトトレイ］は、シフトトレイを装着しているときに表示されます。
    - ［フィニッシャー・上トレイ］、［フィニッシャー・シフトトレイ］はフィニッシャーを装着しているときに表示されます。
- ステープル使用中に他の機能でステープルを指定しても、割り込むことはできません。
- フィニッシャー SR4060、SR4070、または SR4080 を装着している場合はステープルまたはシフトソートを選択すると、排紙先の設定に関係なく［フィニッシャー・シフトトレイ］のいずれかに排紙されます。
- フィニッシャー SR4080 を装着している場合は、排紙先として［フィニッシャー・シフトトレイ］を設定できません。

1. プリントポストトレイ 1～9
2. フィニッシャー・シフトトレイ
3. フィニッシャー・上トレイ
4. フィニッシャー・中とじトレイ
5. 折り機トレイ
6. シフトトレイ
7. 左トレイ

用紙設定

［システム初期設定］にある［用紙設定］タブの各種項目について説明します。

重要

- **実際にセットした用紙のサイズと異なる設定を「用紙サイズ設定」ですると、サイズが正しく判断されません。この場合、用紙がつまったり画像がずれてコピーされることがあります。**

給紙トレイ優先設定：コピー（コピー／ドキュメントボックス機能のみ）

コピー機能、およびドキュメントボックス機能で、優先する給紙トレイを設定します。

工場出荷時の設定：**トレイ 1**

給紙トレイ優先設定：ファクス（ファクス機能のみ）

ファクス機能で、優先する給紙トレイを設定します。

工場出荷時の設定：**トレイ 1**

給紙トレイ優先設定：プリンター（プリンター機能のみ）

プリンター機能で、優先する給紙トレイを設定します。

工場出荷時の設定：**トレイ 1**

用紙サイズ設定：トレイ 2-3

給紙トレイ 2-3 にセットする用紙のサイズを設定します。

- 設定できる用紙サイズ

「自動検知」「A3▭」「B4▭」「A4▯」「A4▭」「B5▯」「B5▭」「A5▯」「210×340m/m▭」「182×210m/m▯」「170×210m/m▯」「11×17▭」「11×15▭」「11×14▭」「10×15▭」「8$^{1}/_{2}$×14▭」「8$^{1}/_{2}$×13▭」「8$^{1}/_{2}$×11▯」「8$^{1}/_{2}$×11▭」「8$^{1}/_{4}$×14▭」「8$^{1}/_{4}$×13▭」「8×13▭」「8×10$^{1}/_{2}$▭」「7$^{1}/_{4}$×10$^{1}/_{2}$▯」「7$^{1}/_{4}$×10$^{1}/_{2}$▭」「5$^{1}/_{2}$×8$^{1}/_{2}$▯」「5$^{1}/_{2}$×8$^{1}/_{2}$▭」「8K▭」「16K▯」「16K▭」

工場出荷時の設定：**自動検知**

給紙トレイ 2-3 で「不定形サイズ指定」を選択するときは、用紙サイズを縦：139.7〜297.0mm、横：139.7〜432.0 の範囲で、テンキーで入力します。

トレイ 2-3 で自動検知される用紙サイズについては、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

用紙サイズ設定：トレイ 4

給紙トレイ 4 にセットする用紙のサイズを設定します。

- 設定できる用紙サイズ

「自動検知」「A3▭」「B4▭」「A4▯」「A4▭」「B5▯」「B5▭」「A5▭」「210×340m/m▭」「182×210m/m▯」「11×17▭」「11×15▭」「11×14▭」「10×15▭」「8$^{1}/_{2}$×14▭」「8$^{1}/_{2}$×13

▭」「$8^{1}/_{2}$×11▯」「$8^{1}/_{2}$×11▭」「$8^{1}/_{4}$×14▭」「$8^{1}/_{4}$×13▭」「8×13▭」「8×$10^{1}/_{2}$▭」「$7^{1}/_{4}$×$10^{1}/_{2}$▯」「$7^{1}/_{4}$×$10^{1}/_{2}$▭」「$5^{1}/_{2}$×$8^{1}/_{2}$▭」「8K▭」「16K▯」「16K▭」

工場出荷時の設定：自動検知

給紙トレイ 4 で「不定形サイズ指定」を選択するときは、用紙サイズを縦：139.7〜297.0mm、横：180.0〜432.0 の範囲で、テンキーで入力します。

トレイ 4 で自動検知される用紙サイズについては、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

用紙サイズ設定：大量給紙トレイ（大量給紙トレイ（LCT）装着時）

- 設定できる用紙サイズ

  「A4▯」

大量給紙トレイ（LCT）は、A4▯専用です。用紙サイズを「B5▯」、または「$8^{1}/_{2}$×11▯」に変更するときは別途設定が必要です。サービス実施店にお問い合わせください。

プリンター手差し用紙サイズ

手差しトレイにセットする用紙のサイズを設定します。

- 設定できる用紙サイズ

「自動検知」「A3▭」「B4▭」「A4▯」「A4▭」「B5▯」「B5▭」「A5▯」「A5▭」「B6▭」「A6▭」「11×17▭」「11×15▭」「11×14▭」「10×15▭」「10×14▭」「$8^{1}/_{2}$×14▭」「$8^{1}/_{2}$×13▭」「$8^{1}/_{2}$×11▯」「$8^{1}/_{2}$×11▭」「$8^{1}/_{4}$×14▭」「$8^{1}/_{4}$×13▭」「8×13▭」「8×$10^{1}/_{2}$▯」「8×$10^{1}/_{2}$▭」「8×10▯」「8×10▭」「$7^{1}/_{4}$×$10^{1}/_{2}$▯」「$7^{1}/_{4}$×$10^{1}/_{2}$▭」「$5^{1}/_{2}$×$8^{1}/_{2}$▯」「$5^{1}/_{2}$×$8^{1}/_{2}$▭」「郵便ハガキ▭」

工場出荷時の設定：自動検知

手差しトレイで「不定形サイズ指定」を選択するときは、用紙サイズを縦：139.7〜600.0、横：100.0〜305.0mm の範囲で、テンキーで入力します。

手差しトレイで自動検知される用紙サイズについては、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

用紙種類設定：手差しトレイ

手差しトレイにセットする用紙種類を設定します。

- 用紙種類
  - 表示しない
  - 再生紙
  - 色紙 1
  - 色紙 2
  - レターヘッド
  - ラベル紙
  - トレーシングペーパー
  - OHP

- 特殊紙

  工場出荷時の設定：**表示しない**

- 用紙厚さ
    - 普通紙（52-81 g/m^2）
    - 中厚口（82-103 g/m^2）
    - 厚紙 1（104-169 g/m^2）
    - 厚紙 2（170-216 g/m^2）

  工場出荷時の設定：**普通紙（52-81 g/m^2）**

- 両面印刷の対象

  工場出荷時の設定：**対象**

- 自動用紙選択の対象

  工場出荷時の設定：**対象**

「OHP」、「トレーシングペーパー」、または「ラベル紙」が選択されている場合、用紙厚さは選択できません。

コピー機能を使用する場合、「表示しない」または「再生紙」が選択されている場合のみ「自動用紙選択の対象」を設定できます。

「両面印刷の対象」が「対象外」に設定された場合や、用紙サイズが「不定形サイズ」に設定された場合、「自動用紙選択の対象」は設定できません。

設定できる用紙種類と用紙厚さとの関係については、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

用紙種類設定：トレイ 1

トレイ 1 にセットする用紙種類を設定します。

- 用紙種類
    - 表示しない
    - 再生紙
    - 色紙 1
    - 色紙 2
    - レターヘッド
    - トレーシングペーパー
    - 特殊紙

  工場出荷時の設定：**表示しない**

- 用紙厚さ
    - 普通紙（52-81 g/m^2）
    - 中厚口（82-103 g/m^2）

- 厚紙 1（104-169 g/m^2）

    工場出荷時の設定：**普通紙（52-81 g/m^2）**

    - 両面印刷の対象

    工場出荷時の設定：**対象**

    - 自動用紙選択の対象

    工場出荷時の設定：**対象**

「トレーシングペーパー」が選択されている場合、用紙厚さは選択できません。

コピー機能を使用する場合、「表示しない」または「再生紙」が選択されている場合のみ「自動用紙選択の対象」を設定できます。

「両面印刷の対象」が「対象外」に設定された場合や、用紙サイズが「不定形サイズ」に設定された場合、「自動用紙選択の対象」は設定できません。

設定できる用紙種類と用紙厚さとの関係については、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

用紙種類設定：トレイ 2

トレイ 2 にセットする用紙種類を設定します。

- 用紙種類
    - 表示しない
    - 再生紙
    - 色紙 1
    - 色紙 2
    - レターヘッド
    - トレーシングペーパー
    - 特殊紙
    - インデックス紙

    工場出荷時の設定：**表示しない**

- 用紙厚さ
    - 普通紙（52-81 g/m^2）
    - 中厚口（82-103 g/m^2）
    - 厚紙 1（104-169 g/m^2）

    工場出荷時の設定：**普通紙（52-81 g/m^2）**

- 両面印刷の対象

    工場出荷時の設定：**対象**

- 自動用紙選択の対象

    工場出荷時の設定：**対象**

「トレーシングペーパー」が選択されている場合、用紙厚さは選択できません。

コピー機能を使用する場合、「表示しない」または「再生紙」が選択されている場合のみ「自動用紙選択の対象」を設定できます。

「両面印刷の対象」が「対象外」に設定された場合や、用紙サイズが「不定形サイズ」に設定された場合、「自動用紙選択の対象」は設定できません。

設定できる用紙種類と用紙厚さとの関係については、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

用紙種類設定：トレイ 3-4

トレイ 3-4 にセットする用紙種類を設定します。

- 用紙種類
  - 表示しない
  - 再生紙
  - 色紙 1
  - 色紙 2
  - レターヘッド
  - 特殊紙
  - インデックス紙
  - トレーシングペーパー

  工場出荷時の設定：**表示しない**
- 用紙厚さ
  - 普通紙（52-81 g/m^2）
  - 中厚口（82-103 g/m^2）
  - 厚紙 1（104-169 g/m^2）
  - 厚紙 2（170-216 g/m^2）

  工場出荷時の設定：**普通紙（52-81 g/m^2）**
- 両面印刷の対象

  工場出荷時の設定：対象
- 自動用紙選択の対象

  工場出荷時の設定：対象

「トレーシングペーパー」が選択されている場合、用紙厚さは選択できません。

コピー機能を使用する場合、「表示しない」または「再生紙」が選択されている場合のみ「自動用紙選択の対象」を設定できます。

「両面印刷の対象」が「対象外」に設定された場合や、用紙サイズが「不定形サイズ」に設定された場合、「自動用紙選択の対象」は設定できません。

設定できる用紙種類と用紙厚さとの関係については、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

用紙種類設定：大量給紙トレイ（大量給紙トレイ（LCT）装着時）

大量給紙トレイ（LCT）にセットする用紙種類を設定します。

- 用紙種類
    - 表示しない
    - 再生紙
    - 色紙 1
    - 色紙 2
    - レターヘッド
    - 特殊紙

  工場出荷時の設定：**表示しない**
- 用紙厚さ
    - 普通紙（52-81 g/m^2）
    - 中厚口（82-103 g/m^2）
    - 厚紙 1（104-169 g/m^2）

  工場出荷時の設定：**普通紙（52-81 g/m^2）**
- 両面印刷の対象

  工場出荷時の設定：対象
- 自動用紙選択の対象

  工場出荷時の設定：対象

コピー機能を使用する場合、「表示しない」または「再生紙」が選択されている場合のみ「自動用紙選択の対象」を設定できます。

「両面印刷の対象」が「対象外」に設定された場合や、用紙サイズが「不定形サイズ」に設定された場合、「自動用紙選択の対象」は設定できません。

設定できる用紙種類と用紙厚さとの関係については、『用紙の仕様とセット方法』「セットできる用紙サイズ、種類」を参照してください。

おもて表紙トレイ設定

おもて表紙をセットする給紙トレイを設定して、表示させます。また、給紙トレイを選択したのちに、表示のタイミングと両面印刷の対象も設定できます。

- 設定するトレイ
    - 手差しトレイ
    - トレイ 1
    - トレイ 2
    - トレイ 3

- トレイ 4
        - 大量給紙トレイ（大量給紙トレイ（LCT）装着時）
        - インサーター

    工場出荷時の設定：設定なし（トレイを選択していない状態）

- 両面印刷の対象

    工場出荷時の設定：**対象**

- 表示のタイミング
    - 機能選択時
    - 常時表示

    工場出荷時の設定：**機能選択時**

「表示のタイミング」で「機能選択時」を選択した場合、おもて表紙の機能を選択したときのみ表示設定の内容が表示されます。

うら表紙トレイ設定

うら表紙をセットする給紙トレイを設定して、表示させます。また、給紙トレイを選択したのちに、表示のタイミングと両面印刷の対象も設定できます。

- 設定するトレイ
    - 手差しトレイ
    - トレイ 1
    - トレイ 2
    - トレイ 3
    - トレイ 4
    - 大量給紙トレイ（大量給紙トレイ（LCT）装着時）
    - インサーター

    工場出荷時の設定：**設定なし**（トレイを選択していない状態）

- 両面印刷の対象

    工場出荷時の設定：**対象**

- 表示のタイミング
    - 機能選択時
    - 常時表示

    工場出荷時の設定：**機能選択時**

「表示のタイミング」で「機能選択時」を選択した場合、うら表紙の機能を選択したときのみ表示設定の内容が表示されます。

合紙トレイ設定

合紙をセットする給紙トレイを設定して、表示させます。また、給紙トレイを選択したのちに、表示のタイミングと両面印刷の対象を設定できます。

- 設定するトレイ
    - 手差しトレイ
    - トレイ 1
    - トレイ 2
    - トレイ 3
    - トレイ 4
    - 大量給紙トレイ（大量給紙トレイ（LCT）装着時）

    工場出荷時の設定：**設定なし**（トレイを選択していない状態）
- 両面印刷の対象

    工場出荷時の設定：**対象**
- 表示のタイミング
    - 機能選択時
    - 常時表示

    工場出荷時の設定：**機能選択時**

「表示のタイミング」で「機能選択時」を選択した場合、合紙の機能を選択したときのみ表示設定の内容が表示されます。

章区切り紙 1 トレイ設定、章区切り紙 2 トレイ設定

章区切り紙をセットする給紙トレイを設定して、表示させます。また、給紙トレイを選択したのちに、表示のタイミングと両面印刷の対象も設定できます。

- 設定するトレイ
    - 手差しトレイ
    - トレイ 1
    - トレイ 2
    - トレイ 3
    - トレイ 4
    - 大量給紙トレイ（大量給紙トレイ（LCT）装着時）
    - インサーター

    工場出荷時の設定：**設定なし**（トレイを選択していない状態）
- 両面印刷の対象

    工場出荷時の設定：**対象**
- 表示のタイミング

- 機能選択時
- 常時表示

工場出荷時の設定：**機能選択時**

「表示のタイミング」で「機能選択時」を選択した場合、章区切り紙の機能を選択したときのみ表示設定の内容が表示されます。

1

補足

- [システム初期設定] への入りかたについては、P.9「初期設定を変更する」を参照してください。
- コピー時のおもて表紙の設定方法については、『コピー/ドキュメントボックス』「表紙」を参照してください。
- コピー時の合紙の設定方法については、『コピー/ドキュメントボックス』「合紙」を参照してください。
- 本機では「普通紙 1」または「普通紙 2」を設定することができます。普通紙の種類を設定する方法については、『用紙の仕様とセット方法』「普通紙設定」を参照してください。

給紙先の表示と設定について

給紙先の表示と設定について説明します。

オプションの装着により表示されないトレイがあります。

- 大量給紙トレイ（LCT）の給紙トレイフェンスは固定です。用紙サイズを変更するときは、サービス実施店にお問い合わせください。
- トレイ 2 -4 でインデックス紙を使用するときは、インデックスフェンスが必要です。
- 異なるトレイに同じ種類・サイズの用紙をセットし、「両面印刷の対象」で「対象」、「対象外」をそれぞれ設定するときは、上のトレイを「対象」に設定してください。
- ただし、どちらかのトレイを「給紙トレイ優先設定」にしているときは、優先設定しているトレイを「対象」にしてください。
- プリンター初期画面では、「両面印刷の対象」で「対象外」を選択すると給紙トレイに 1 マーク（）が表示されます。
- 「自動用紙選択の対象」で「対象外」を選択すると給紙トレイにカギマーク（）が表示されます。
- コピー機能では、「表示しない」と「再生紙」を選択したときのみ自動用紙選択の対象となります。ただし、「自動用紙選択の対象」で「対象外」を選択したときは自動用紙選択の対象になりません。
- 「おもて表紙トレイ設定」または「うら表紙トレイ設定」を使用する機能は、おもて表紙機能とうら表紙機能です。

- 「章区切り紙１トレイ設定」または「章区切り紙２トレイ設定」を使用する機能は、指定紙挿入機能です。
- 「おもて表紙トレイ設定」、「うら表紙トレイ設定」、「合紙トレイ設定」、「章区切り紙１トレイ設定」、または「章区切り紙２トレイ設定」の「表示タイミング」で「機能選択時」を選択したときは、表紙や合紙、章区切りの機能を選択したときだけ表示設定の内容が表示されます。

時刻タイマー設定

［システム初期設定］にある［時刻タイマー設定］タブの各種項目について説明します。

スリープモード移行時間設定

一定時間操作を行わなかったときに、節電のために自動的に電源が切れます。

スリープモードに移行するまでの時間を設定します。

［システム初期設定］にある［管理者用設定］の「スリープモード」設定が「する」になっているとき設定できます。

工場出荷時の設定：1分（imagio MP 9002/9002T：15分）

「1 -240分」（1秒単位）の範囲で時間をテンキーで入力します。

エラー表示中のときなど、スリープモードに移行しないことがあります。

インストールされるEmbedded Software Architectureアプリケーションの種類によって、スリープモードへの移行時間が設定よりも長くかかることがあります。

低電力モード移行時間設定

一定時間何も操作を行わなかったときに、低電力状態になるまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：1分

「1-240」（1分単位）の範囲で時間をテンキーで入力します。

エラー表示中のときなどは、低電力の状態に移行されないことがあります。

システムオートリセット時間設定

一定時間操作を行わなかったとき、「優先機能」で設定した機能の画面に自動的に切り替えたり、割り込みコピーを解除する機能を「システムリセット」といいます。システムリセット機能が働くまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する**：60秒

「する」を選択したときは、「10-999」（1秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

コピー／ドキュメントボックスオートリセット時間設定（コピー／ドキュメントボックス機能のみ）

コピー機能、ドキュメントボックス機能が初期状態になるまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する**：60秒

「する」を選択したときは、「10-999」（1秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

「しない」に設定すると、ユーザーコード入力画面への自動移行も行われなくなります。

ファクスオートリセット時間設定（ファクス機能のみ）

ファクス機能が初期状態になるまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する**：30秒

「30-999」（1 秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

プリンターオートリセット時間設定（プリンター機能のみ）

プリンター機能が初期状態になるまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する：60 秒**

「する」を選択したときは、「10-999」（1 秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

スキャナーオートリセット時間設定（スキャナー機能のみ）

スキャナー機能が初期状態になるまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する：60 秒**

「する」を選択したときは、「10-999」（1 秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

「しない」に設定すると、ユーザーコード入力画面への自動移行も行われなくなります。

年月日設定

システム時計の年月日を設定します。

「年」「月」「日」の切り替えは、[←]、[→] を押してカーソルを移動させせます。

「年」「月」「日」はテンキーで入力します。

時刻設定

システム時計の時刻を設定します。

時刻は 24 時間制（1 秒単位）で入力します。

「時」「分」「秒」の切り替えは、[←]、[→] を押してカーソルを移動させせます。

「時」「分」「秒」はテンキーで入力します。

オートログアウト時間設定

ログインして一定時間画面の操作を行わなかったときに、自動的にログアウトします。これは「オートログアウト」といいます。

オートログアウト機能が働くまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定：**する：180 秒**

「する」を選択したときは、「60-999」（1 秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

電源オフ解除コード設定

「ウィークリータイマー」が有効な場合に、スリープモードから復帰する際の暗証コード（最大 8 桁）を設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

暗証コードを登録後、スリープモード中に［省エネ］キーまたは［状態確認］キーを押下すると、暗証コード要求画面が表示されます。暗証コードを入力後、［省エネ］キーまたは［状態確認］キーを押下すると、本機はスリープモードから復帰します。

本設定を「しない」にした場合は、スリープモードから復帰時に暗証コードを入力する必要はありません。

この設定を行うには、管理者認証を有効にする必要があります。詳細については、『セキュリティーガイド』を参照してください。

ウィークリータイマー

本機がスリープモードへの移行、スリープモードからの復帰を行う時間を設定します。24 時間単位で月曜日から日曜日まで設定できます。

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.9「初期設定を変更する」を参照してください。

1

インターフェース設定

［システム初期設定］にある［インターフェース設定］タブの各種項目について説明します。

ネットワーク

［インターフェース設定］タブにある［ネットワーク］の各種項目について説明します。

本体 IPv4 アドレス

ネットワーク上における本機の IPv4 アドレスとサブネットマスクの設定方法を選択します。

［指定］を選択した場合、［本体 IPv4 アドレス］と［サブネットマスク］を「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。（x は数値）

［指定］を選択した場合、［本体 IPv4 アドレス］は、ネットワーク内の他の機器の IPv4 アドレスと重複しないように設定してください。

物理アドレス（MAC アドレス）も表示されます。

- 自動的に取得（DHCP）
- 指定
    - 本体 IPv4 アドレス：11.22.33.44
    - サブネットマスク：0.0.0.0

工場出荷時の設定：**自動的に取得（DHCP）**

IPv4 ゲートウェイアドレス

別のネットワークのパソコン、または機器とのやり取りを行うとき、ゲートウェイとなるホストやルーターのアドレスです。（機器とのやり取りとは、印刷や情報の取得などです。）

別のネットワークのパソコン、または機器から本機を使用する場合に設定してください。工場出荷時の設定：**0.0.0.0**

アドレスは「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。（x は数値）

本体 IPv6 アドレス

ネットワーク上における本機の IPv6 アドレスを表示します。

- リンクローカルアドレス

  設定されている本機のリンクローカルアドレスを表示します。
- 手動設定アドレス

  設定されている本機の手動設定アドレスを表示します。
- DHCPv6 アドレス

本機の DHCPv6 アドレスを表示します。

- ステートレスアドレス：1-5

「IPv6 ステートレスアドレス自動設定」が「有効」に設定されている場合、設定されているステートレスアドレスを表示します。

IPv6 ゲートウェイアドレス

ネットワーク上における本機の IPv6 ゲートウェイアドレスを表示します。

IPv6 ステートレスアドレス自動設定

IPv6 ステートレスアドレス自動設定の有効/無効を設定します。

工場出荷時の設定：**有効**

DHCPv6 設定

DHCPv6 設定を行います。

工場出荷時の設定：**無効**

［有効］に設定されている場合、「動作モード」から［ルーター要求］、［IP アドレス取得］、［IP アドレスを取得しない］を選択します。また、「DNS サーバーアドレス」から［自動的に取得(DHCPv6)］、［指定］を選択します。

DNS 設定

DNS サーバーの運用について設定します。

［指定］を選択した場合、DNS サーバーの IPv4 アドレスを「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。（x は数値）

- 自動的に取得（DHCP）
- 指定
    - DNS サーバー 1：0.0.0.0
    - DNS サーバー 2：0.0.0.0
    - DNS サーバー 3：0.0.0.0

IPv4 アドレスを設定後［接続テスト］を押すと、DNS サーバーへの接続テストが実行されます。設定した DNS サーバーに接続できることを確認してください。

工場出荷時の設定：**自動的に取得（DHCP）**

DDNS 設定

ダイナミック DNS について設定します。

工場出荷時の設定：**有効**

IPsec

本機の IPsec 機能の有効／無効を設定します。

工場出荷時の設定：**無効**

IPsec の詳細については、『セキュリティーガイド』を参照してください。

ドメイン名

ドメイン名を設定します。

- 自動的に取得（DHCP）
- 指定

  ドメイン名は半角英数 63 文字以内で入力してください。

工場出荷時の設定：**自動的に取得（DHCP）**

WINS 設定

WINS サーバーの運用について設定します。

［使用する］を選択した場合、WINS サーバーの IPv4 アドレスを「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力します。（x は数値）

DHCP を使用している場合は、［スコープ ID］を設定します。

［スコープ ID］は、半角文字で入力してください。

- 使用する
  - プライマリー WINS サーバー:0.0.0.0
  - セカンダリー WINS サーバー:0.0.0.0
  - スコープ ID
- 使用しない

工場出荷時の設定：**使用する**

プライマリー WINS サーバーアドレス、セカンダリー WINS サーバーアドレスに「255.255.255.255」を入力しないでください。

有効プロトコル

ネットワーク上で使用するプロトコルを選択します。

- IPv4：有効／無効
- IPv6：有効／無効
- NetWare：有効／無効
- SMB：有効／無効
- AppleTalk：有効／無効
- @Remote サービス：有効／無効
- ファームウェアアップデート（IPv4）：有効／無効
- ファームウェアアップデート（IPv6）：有効／無効

工場出荷時の設定：

- IPv4：**有効**
- IPv6：**無効**
- NetWare：**無効**

- SMB：**有効**
- AppleTalk：**無効**
- @Remote サービス：**有効**
- ファームウェアアップデート（IPv4）：**有効**
- ファームウェアアップデート（IPv6）：**有効**

オプションの NetWare カードを装着しないと、「NetWare」は表示されません。

NCP 配信時プロトコル

NCP 配信に使用するプロトコルを設定します。

- IPX 優先
- TCP/IP 優先
- IPX のみ
- TCP/IP のみ

工場出荷時の設定：**TCP/IP 優先**

「IPX のみ」または「TCP/IP のみ」は、接続ができない場合もプロトコルを切り替えません。

NetWare が無効の場合は、TCP/IP しか使えません。

NW フレームタイプ

NetWare のフレームタイプを選択します。

- 自動選択
- Ethernet II
- Ethernet 802.2
- Ethernet 802.3
- Ethernet SNAP

工場出荷時の設定：**自動選択**

SMB コンピューター名

SMB コンピューター名を設定します。

最大 15 文字（全角は 2 文字換算）で入力してください。

"*＋,/:;＜＞＝?[¥]|.およびスペースは入力できません。

RNP および rnp ではじまるコンピューター名を設定することはできません。

アルファベットは大文字のみを使用してください。

SMB ワークグループ

SMB ワークグループを設定します。

最大 15 文字（全角は 2 文字換算）で入力してください。

"*＋,/:;＜＞＝?[¥]|.およびスペースは入力できません。

アルファベットは大文字のみを使用してください。

イーサネット速度

イーサネットの通信速度を選択します。

ご使用の環境に合わせた速度を選択してください。通常は［自動選択］を選択してください。

- 自動選択
- 10Mbps 全二重固定
- 10Mbps 半二重固定
- 100Mbps 全二重固定
- 100Mbps 半二重固定

工場出荷時の設定：**自動選択**

本機側の設定	接続可能な接続先の設定
自動設定*1	自動設定、10 Mbps 半二重固定、100 Mbps 半二重固定
10 Mbps 全二重固定	10 Mbps 全二重固定
10 Mbps 半二重固定	自動設定、10 Mbps 半二重固定
100 Mbps 全二重固定	100 Mbps 全二重固定
100 Mbps 半二重固定	自動設定、100 Mbps 半二重固定

*1 接続先によって用語は変わります。

ネットワークインターフェース選択

拡張無線 LAN ボードを装着したときに、無線 LAN でネットワーク接続するかイーサネット経由でネットワーク接続するかを選択します。

- イーサネット
- 無線 LAN

本機に拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。

工場出荷時の設定：**イーサネット**

イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。

Ping コマンド実行

ping コマンドで、IPv4 アドレスを使用してネットワーク接続を確認します。

接続に失敗した場合、次のことを確認した後、再度 ping コマンドを実行してください。

- 本機の IPv4 が「有効」になっていることを確認してください。

- 指定したIPv4アドレスの機器が、ネットワークに接続されていることを確認してください。
- 指定したIPv4アドレスの機器に、同時アクセスされることがあります。

SNMPv3通信許可設定

SNMPv3の暗号化通信を設定します。

- 暗号化のみ
- 暗号化/平文

工場出荷時の設定：**暗号化/平文**

[暗号化のみ]を設定する場合、本機に暗号パスワードが設定されている必要があります。

SSL/TLS通信許可設定

SSL/TLSの暗号化通信を設定します。

- 暗号文のみ
- 暗号文優先
- 暗号文/平文

工場出荷時の設定：**暗号文優先**

[暗号文のみ]を設定する場合、本機にサーバー証明書が導入されている必要があります。

ホスト名

ホスト名を設定します。

ホスト名は半角英数63文字以内で入力してください。

先頭末尾にハイフンを入力してホスト名を設定することはできません。

ハイフンを2つ続けて入力してホスト名を設定することはできません。

RNPまたはrnpではじまるホスト名を設定することはできません。

本体名

本体名を設定します。

最大31文字（全角は2文字換算）で入力してください。

イーサネット用IEEE 802.1X認証

イーサネット用のIEEE 802.1X認証を設定します。

工場出荷時の設定：**無効**

IEEE 802.1X認証については、『セキュリティーガイド』を参照してください。

IEEE 802.1X認証初期化

IEEE 802.1Xの設定値を初期化します。

- 初期化しない

- 初期化する

IEEE 802.1X 認証については、『セキュリティーガイド』を参照してください。

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.9「初期設定を変更する」を参照してください。

パラレルインターフェース

［インターフェース設定］タブにある［パラレルインターフェース］の各種項目について説明します。

［パラレルインターフェース］は、本機に拡張 1284 ボードを装着しているときに表示されます。

パラレルタイミング

パラレルインターフェースの制御信号のタイミングを設定します。

- ACK inside
- ACK outside
- STB down

工場出荷時の設定：ACK outside

パラレル通信速度

パラレルインターフェースの通信速度を設定します。

- 高速
- 標準

工場出荷時の設定：**高速**

セレクト状態

パラレルインターフェースのセレクト信号のレベルを設定します。

工場出荷時の設定：HIGH

インプットプライム

インプットプライム信号が送られてきたときに、プライム信号を有効にするかしないかを設定します。

工場出荷時の設定：**無効**

双方向通信

パラレルインターフェースで使用しているとき、状態取得要求に対するプリンターの返答モードを設定します。

工場出荷時の設定：**する**

「しない」に設定したときは、双方向通信機能が働きません。また、Windows の自動検知によるプリンタードライバーのインストールも行われません。

信号線制御

印刷時のエラーの処理を設定します。

- ジョブ受付優先
- プリンター優先

工場出荷時の設定：**ジョブ受付優先**

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.9「初期設定を変更する」を参照してください。

無線 LAN

［インターフェース設定］タブにある［無線 LAN］の各種項目について説明します。

［無線 LAN］は、本機に拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。

各設定は同時に実施してください。

詳しくは、P.78「無線 LAN インターフェースの接続を確認する」を参照してください。

通信モード

無線 LAN の通信モードを設定します。

- 802.11 アドホックモード
- インフラストラクチャーモード

工場出荷時の設定：**インフラストラクチャーモード**

SSID 設定

インフラストラクチャーモードと 802.11 アドホックモードのときに無線 LAN のネットワークを識別する SSID を設定します。

SSID で使用できる文字は、半角英数字と表示可能な半角記号で 32 バイト以内です。

大文字と小文字も区別されます。

802.11 アドホックモードで空白が指定されているときは、「ASSID」で表示されます。

アドホックチャンネル

802.11 アドホックモードを選択したときに使用するチャンネルを設定します。

使用する無線 LAN の規格に合わせてチャンネルを設定してください。

- IEEE 802.11 b/g（2.4GHz）を使用する場合

  1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14
- IEEE 802.11a（5GHz）を使用する場合

36、40、44、48

工場出荷時の設定：11

セキュリティー方式選択

無線 LAN の暗号化を設定します。

［WEP］に設定したときは、必ず WEP キーを入力します。［WPA］に設定したときは、暗号方式と認証方式を設定します。

「WPA」はインフラストラクチャーモードを選択したときに設定できます。

- WEP
- WPA
    - WPA 認証方式

      「WPA-PSK」、「WPA」、「WPA2-PSK」または「WPA2」を選択します。
- しない

工場出荷時の設定：**しない**

WEP キーは、64bitWEP を使用する場合 16 進数では 10 桁、半角英数では 5 桁の文字列が使用できます。128bit WEP を使用する場合、16 進数では 26 桁、半角英数では 13 桁の文字列が使用できます。

「WPA-PSK」または「WPA2-PSK」を選択したときは、PSK を入力します。PSK は半角英数を 8-63 文字の範囲で入力します。

［WPA］または［WPA2］が選択されている場合、認証設定および証明書のインストールが必要です。設定方法について詳しくは、『セキュリティーガイド』を参照してください。

電波状態

インフラストラクチャーモードのときに接続したアクセスポイントとの電波状態を表示します。

電波状態は、［電波状態］を押したときに測定されます。

設定値初期化

無線 LAN の設定を工場出荷時の設定に戻します。

- 初期化しない
- 初期化する

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.9「初期設定を変更する」を参照してください。

リスト印刷

ご使用のネットワーク環境に関する項目を確認できます。

インターフェース設定リストは現在のネットワーク設定や、情報について記載しています。

1
1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［インターフェース設定］を押します。
4. ［リスト印刷］を押します。

5. ［スタート］キーを押します。

   インターフェース設定リストが出力されます。
6. ［終了］を押します。
7. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.9「初期設定を変更する」を参照してください。

ファイル転送設定

［システム初期設定］にある［ファイル転送設定］タブの各種項目について説明します。

配信オプション

本機の蓄積文書や読み取り文書を Ridoc Document Router 配信サーバーに送信する機能の有効／無効を切り替えます。

- あり
    - プライマリー配信サーバー IPv4 アドレス
    - セカンダリー配信サーバー IPv4 アドレス
- なし

工場出荷時の設定：**なし**

Ridoc Document Router を利用するかしないかを切り替えるときに設定してください。

利用するには、あらかじめ Ridoc Document Router にて I/O 機器の登録が必要です。

文書管理サーバー IPv4 アドレス

文書管理サーバーの IPv4 アドレスを設定します。

Ridoc Document Router でキャプチャー機能を使用する場合に表示されます。

ファクス受信文書配信設定

回線ごとにファクス受信文書の配信機能を設定します。

Ridoc Document Router で配信機能を有効にした場合に表示されます。

- 設定できる回線
    - 回線 1
    - 回線 2
    - 回線 3
    - ISDN 回線
    - メール
    - IP-ファクス

    お使いの環境によって表示される回線が異なります。
- 受信文書配信

    ファクスの回線ごとに、ファクス受信文書を Ridoc Document Router に配信するかしないかを設定します。

    - 配信する
    - 配信しない

    工場出荷時の設定：**配信しない**

- 配信時同時印刷

  ファクス受信文書を Ridoc Document Router に配信するときに、同時に本機でも紙で出力するかしないかを設定します。

  - 印刷する
  - 印刷しない

  工場出荷時の設定：**印刷しない**

- 配信対象

  ファクス受信文書を Ridoc Document Router に配信するときに、配信コード付き文書（F コードの付いている文書、ナンバーディスプレイにて受信した文書）のみ配信するか、全文書を配信するかを設定します。

  - 配信コード付き文書
  - 全文書

  工場出荷時の設定：**全文書**

- 配信エラー文書

  Ridoc Document Router に配信できなかった場合、ファクス受信文書は本機のメモリーに蓄積されます。受信文書消去が「1（する)」に設定されている場合、ハードディスクの不具合、メモリーの残量が無いなどの理由により、受信文書がメモリーに蓄積されないとき、文書は自動的に消去され、受信文書消去レポートが印刷されます。受信文書消去レポートについては、『ファクス』「受信文書設定」を参照してください。蓄積されたデータを印刷するときは、［文書印刷］を押します。消去したいときは、［文書消去］を押します。

  - 文書印刷
  - 文書消去

  本機は Ridoc Document Router と通信ができるようになったときに、自動的に配信を行います。データを消去したときには、受信文書の配信、印刷はできません。

SMTP サーバー

SMTP サーバー名を設定します。

DNS が有効な場合は、ホスト名を入力します。

DNS が無効な場合は、SMTP サーバーの IPv4 アドレスを入力します。

工場出荷時の設定：

- ポート番号：25
- SSL：利用しない

「サーバー名」では、スペースが使用できません。

「ポート番号」は、「1-65535」の範囲でテンキー入力し、［#］を押します。

「SSL」を［利用する］に設定するとポート番号が「465」に自動で切り替わります。

SMTP 認証

SMTP 認証（PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST MD5）を設定します。

SMTP サーバーへのメール送信時に、ユーザー名とパスワードを入力して認証を行うことで、SMTP サーバーのセキュリティーレベルを強化することができます。

SMTP サーバーが認証を必要とする場合は、[SMTP AUTH］を［使用する］に設定し、[ユーザー名]、[メールアドレス]、[パスワード]、パスワードの［暗号化］方法を設定します。

インターネットファクス送信時は、[管理者メールアドレス］に設定するユーザー名とパスワードを入力してください。

- 使用する
    - ユーザー名

      [ユーザー名］では、スペースが使用できません。SMTP サーバーの種類によっては、realm の指定が必要な場合があります。そのときは、ユーザー名の後に@を付加して、"ユーザー名@realm"と入力してください。
    - メールアドレス
    - パスワード

      [パスワード］では、スペースが使用できません。
    - 暗号化

      自動：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

      する：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

      しない：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。

      工場出荷時の設定：**自動**
- 使用しない

工場出荷時の設定：**使用しない**

POP before SMTP

POP 認証（POP before SMTP）を設定します。

この機能は、本機が IPv4 を使用してネットワークに接続している場合のみ使用できます。IPv6 を使用している場合は使用できません。

SMTP サーバーにメールを送信する前に、まず POP サーバーに接続して認証を行うことで、SMTP サーバーのセキュリティーレベルを強化することができます。

POP 認証を行う場合は、[POP before SMTP］を［する］に設定します。[認証後待機時間］で指定した時間後に、SMTP サーバーにメールを送信します。

[する］を選択した場合は、[POP3/IMAP4 設定］で［サーバー名］を入力します。また、[メール通信ポート設定］で［POP3］のポート番号を確認してください。

- する

- 認証後待機時間：**300 ミリ秒**

  ［認証後待機時間］は、「0-10000」（1 ミリ秒単位）の範囲でテンキーで入力します。

- ユーザー名

  ［ユーザー名］は、スペースが使用できません。

- メールアドレス
- パスワード

  ［パスワード］では、スペースが使用できません。

- しない

工場出荷時の設定：**しない**

受信プロトコル

インターネットファクスを受信する場合の、受信プロトコルを設定します。

- POP3
- IMAP4
- SMTP

工場出荷時の設定：**POP3**

POP3/IMAP4 設定

インターネットファクスを受信する場合に、POP3/IMAP4 サーバー名を設定します。

ここで設定した POP3 サーバー名は［POP before SMTP］で使用されます。

- サーバー名

  DNS が有効な場合は、ホスト名を入力します。

  DNS が無効な場合は、POP3、または IMAP4 サーバーの IPv4 アドレスを入力します。

  POP3、または IMAP4 の［サーバー名］では、スペースが使用できません。

- 暗号化
  - 自動

    POP サーバーの設定に合わせ、パスワードの暗号化を自動設定します。

  - する

    パスワードを暗号化します。

  - しない

    パスワードを暗号化しません。

  工場出荷時の設定：**自動**

管理者メールアドレス

スキャナー文書のメール送信機能で、送信者を入力しない場合の送信者アドレスになります。

また、インターネットファクスのメール送信機能で以下の場合の送信者アドレスになります。

- 送信者を入力せず、本機のメールアドレスが登録されていない場合。
- 入力した送信者が本機のアドレス帳に登録されていない場合で、本機のメールアドレスが登録されていない場合。

インターネットファクス送信の SMTP 認証時には、From:に使用されます。
［SMTPAUTH］でユーザー名とメールアドレスを入力した場合は、必ず設定してください。

エラー通知メールの Cc:、通信管理情報メールの To:としても使用されます。

スキャナー文書のメール送信機能で、［送信者名自動指定］が［しない］の場合は、送信者を指定してください。

メール通信ポート設定

インターネットファクスを受信する場合に使用するサーバーのポート番号を設定します。また、ここで設定した POP3 のポート番号は、［POP before SMTP］で使用されます。

工場出荷時の設定：

- POP3：**110**
- IMAP4：**143**

「1-65535」の範囲でテンキー入力し、［#］を押します。

メール受信間隔時間設定

POP3、IMAP4 サーバーに対して、インターネットファクスを受信する間隔（分）を指定します。

工場出荷時の設定：**する：15 分**

［する］を選択した場合、「2-1440」（1 分単位）の範囲でテンキーで入力します。

受信メールサイズ制限

インターネットファクスを受信する場合に、メールサイズの制限を設定します。

工場出荷時の設定：**2MB**

「1-50」（1MB 単位）の範囲でテンキーで入力します。

サーバー側メール保持

インターネットファクスを受信する場合に、メールを POP3/IMAP4 サーバーに保持するかを設定します。

- しない
- すべて

- エラー時のみ

工場出荷時の設定：**しない**

送信初期ユーザー名・パスワード

スキャナー機能で読み取った画像データを Windows、および Mac OS の共有フォルダー、FTP サーバー、NetWare サーバーに直接送信する場合、またはファクス機能で読み取った文書を画像データとしてフォルダー宛先に送信する場合、ユーザー名とパスワードを設定します。

ここで設定したユーザー名とパスワードは、全ユーザーで共有するユーザー名とパスワードとして使用します。

- SMB 送信ユーザー名
- SMB 送信パスワード
- FTP 送信ユーザー名*1
- FTP 送信パスワード*1
- NCP 送信ユーザー名
- NCP 送信パスワード*1

*1 全角文字は入力できません。

送信メール本文登録／変更／消去

インターネットファクス、またはスキャナーで読み取った画像を添付したメールの本文に設定します。

メール本文の設定方法については、P.227「メール本文を登録する」を参照してください。

- 登録／変更
- 消去

送信者名自動指定

メール送信時に使用する送信者を指定するかしないかを設定します。

- する

  [する] を選択した場合、指定されたメールアドレスが From:に使用されます。送信者のメールアドレスを指定しない場合、管理者メールアドレスが From:に使用されます。

  ファクス機能でメール送信時に送信者のメールアドレスを指定しない場合、または指定したメールアドレスが本機のアドレス帳に登録されていない場合は、本機のメールアドレスが From:に使用されます。また、本機のメールアドレスがない場合は、管理者メールアドレスが From:に使用されます。

- しない

  [しない] を選択した場合、指定されたメールアドレスが From:に使用されますが、送信者のメールアドレスを指定しない場合は、メール送信できません。

ファクス機能でメール送信時に指定した送信者のメールアドレスが、本機のアドレス帳に登録されていない場合は、メール送信できません。

工場出荷時の設定：**しない**

ファクスメールアカウント

インターネットファクスで使用する［メールアドレス］、［ユーザー名］、［パスワード］を設定します。

- 受信する
    - アカウント：受信する／受信しない
    - メールアドレス

      メールアドレスでは、全角文字が使用できません。
    - ユーザー名

      ユーザー名では、全角文字が使用できません。
    - パスワード

      パスワードでは、全角文字が使用できません。
- 受信しない

工場出荷時の設定：**受信しない**

スキャナー再送信間隔時間

スキャナーで読み取ったデータを配信サーバーまたはメールサーバーへ送信できなかったとき、再度配信するまでの時間の間隔を設定します。

工場出荷時の設定：**300 秒**

「60-900 秒」（1 秒単位）の範囲で時間をテンキーで入力します。

スキャナー機能のための設定項目です。

スキャナー再送信間隔時間の設定は、WSD スキャナーでは無効です。

スキャナー再送信回数

スキャナーで読み取ったデータを配信サーバーまたはメールサーバーへ再度配信するとき、最大何回まで再配信するかを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する（3 回）**

［する］を選択した場合、「1-99」（1 回単位）の範囲でテンキーで入力します。

スキャナー機能のための設定項目です。

スキャナー再送信回数の設定は、WSD スキャナーでは無効です。

補足

- ［システム初期設定］への入りかたについては、P.9「初期設定を変更する」を参照してください。

管理者用設定

［システム初期設定］にある［管理者用設定］タブの各種項目について説明します。

管理者用設定は、管理者の方が設定する項目です。設定内容や設定の変更を行うときは、管理者に確認してください。

管理者認証を設定して使用することをお勧めします。

アドレス帳登録／変更／消去

本機を使用するユーザーの情報や本機からファクス機能やスキャナー機能を使って送信する宛先を登録、変更、消去します。アドレス帳の設定方法についての詳細は、P.191「アドレス帳について」を参照してください。

- 登録／変更

  ユーザーを新規登録、または登録したユーザー情報を変更します。登録／変更できる項目は次のとおりです。

  - 登録情報

    名前、キー表示名、ヨミガナ、登録番号、見出し選択

  - 認証情報

    ユーザーコード、SMTP 認証、フォルダー認証、LDAP 認証、印刷利用量制限、使用できる機能

  - 認証保護

    使用対象、宛先保護、文書保護

  - ファクス

    ファクス宛先、回線選択、拡張宛先、海外送信モード、発信元名称選択、宛名差し込み

  - メールアドレス

    メールアドレス、メールアドレス使用対象、SMTP サーバーを経由

  - フォルダー

    プロトコル、サーバー名、パス名、日本語文字コード、ポート番号、接続種別

  - 登録先グループ

    登録先グループ名

- 消去

  ユーザーを消去します。

アドレス帳の登録は 2000 件まで登録できます。

ユーザーコードの登録は 1000 件まで登録できます。

「認証情報」の「印刷利用量制限」については、『セキュリティーガイド』を参照してください。

Web Image Monitor からもアドレス帳の登録／変更／消去をすることができます。

グループ登録／変更／消去

複数のメール宛先を 1 つのグループとして登録することができます。

相手先ごとにグループを作り登録しておくと便利です。

グループは 100 件まで登録できます。

グループの設定方法についての詳細は、P.246「宛先をグループに登録する」を参照してください。

- 登録／変更

  グループを新規登録します。登録／変更できる項目は次のとおりです。

  - 登録情報

    グループ名、キー表示名、ヨミガナ、登録番号、見出し選択

  - 登録済ユーザー／グループ

    登録済ユーザー／グループ名

  - 認証保護

    宛先保護

  - 登録先グループ

    登録先グループ名

- 消去

  グループを消去します。

Web Image Monitor からもグループの登録／変更／消去をすることができます。

並び順入れ替え

登録したユーザーの並び順を入れ替えます。

同じ見出し内での並び順入れ替えはできますが、見出しをまたいだ移動はできません。

(例：登録されているユーザー「企画課」を「常用」から「か」へ移動することはできません。)

並び順入れ替えの詳細については、P.199「ユーザーの並び順を入れ替える」を参照してください。

アドレス帳：宛先リスト印刷

アドレス帳に登録した宛先のリストを印刷します。

- 見出し 1 順印刷

  アドレス帳の宛先リストを見出し 1 の順番で印刷します。

- 見出し 2 順印刷

アドレス帳の宛先リストを見出し 2 の順番で印刷します。

- 見出し 3 順印刷

  アドレス帳の宛先リストを見出し 3 の順番で印刷します。

- グループ宛先印刷

  グループ宛先リストを印刷します。

アドレス帳の宛先リスト印刷の詳細は、P.254「宛先リストを印刷する」を参照してください。

見出し編集

目的のユーザーコードを探しやすいように見出しの名称を編集します。

見出し編集の詳細については、P.200「見出しを編集する」を参照してください。

アドレス帳見出し切り替え

ユーザーコードを選択するときに、表示する見出しを選択します。

- 見出し 1（五十音順）
- 見出し 2（アルファベット順）
- 見出し 3（5 分類用）

工場出荷時の設定：**見出し 1**（五十音順）

見出しの並べ替えについて詳細は、P.197「ユーザー情報の登録」を参照してください。

ユーザー個別設定・アドレス帳　バックアップ／リストア

SD カードを使って本機のアドレス帳データの保存や、保存したアドレス帳データの本機への復元を行います。

- バックアップ

  本機のアドレス帳データを SD カードに保存します。

- リストア

  SD カードに保存したアドレス帳データを復元します。

- フォーマット

  SD カードをフォーマットします。

- メディア情報取得

  SD カードの空き容量やデータの内容などが表示されます。

SD カードの取り付けについては、サービス実施店に確認してください。

復元すると、本機に保存されているアドレス帳は上書きされます。また、ユーザー別のカウンターがクリアされます。

アドレス帳のバックアップ／リストアは、Web Image Monitor でも設定できます。詳しくは、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

アドレス帳自動登録時データ利用設定

アドレス帳自動登録時にデータを利用するかしないかを設定します。

「データを利用する」を選択した場合は、テンプレートとなる本機のアドレス帳のユーザーの登録番号を指定します。

- データを利用する
- データを利用しない

工場出荷時の設定：**データを利用しない**

設定方法については、『セキュリティーガイド』を参照してください。

「Windows 認証」、「LDAP 認証」、または「統合サーバー認証」設定が必要です。

Windows 認証、LDAP 認証、統合サーバー認証についての詳細は、『セキュリティーガイド』を参照してください。

印刷利用量制限度数設定

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

カウンター表示／印刷

各種カウンターの表示と印刷を行います。

- カウンター表示／印刷

  機能ごとのカウンターを表示します。(各機能には、トータル、コピー、プリンター、A3/DLT、両面、ファクス印刷、スキャナー送信、送信トータル、ファクス送信、カバレッジがあります。)

- カウンター一覧印刷

  機能ごとのカウンター使用量の一覧を印刷します。

ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷

ユーザーによる機能ごとのカウンターを表示、印刷したり、カウンターの数値を「0」に戻したりします。

「印刷利用量」については、『セキュリティーガイド』を参照してください。

5 件以上登録しているときは［▲前へ］［▼次へ］で全カウンターを表示します。

「ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷」で表示したカウンターは、「カウンター表示／印刷」で表示されるカウンターと数値が異なることがあります。

- 全ユーザー一覧印刷

  すべてのユーザーのカウンターの使用量を印刷します。

- 全ユーザークリア

  すべてのユーザーのカウンターの数値を 0 に戻します。

- ユーザー別一覧印刷

  ユーザーごとのカウンターの使用量を印刷します。

- ユーザー別クリア

ユーザーごとの各カウンターの数値を 0 に戻します。

- ページ内全選択

  ページ内の全ユーザーを選択します。

印刷方法についての詳細は、P.206「ユーザー別カウンターを印刷する」を参照してください。

eco 指数カウンター表示／クリア

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

ユーザー別 eco 指数カウンター表示／クリア

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

上限到達時動作設定

- ジョブ中断
- ジョブ終了後制限
- 継続利用許可

工場出荷時の設定：**継続利用許可**

メディアスロット使用

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

ストップキー印刷ジョブ停止設定

ストップキーで停止する印刷ジョブを設定します。

- すべての印刷ジョブ
- 操作中のジョブのみ

工場出荷時の設定：**すべての印刷ジョブ**

ユーザー認証管理

- ユーザーコード認証

  ユーザーコードごとに機能のアクセス制限を設定します。

  ユーザーコード認証を行う場合は、ユーザーコードを登録してください。

  「プリンター」を「自動登録」に設定することにより、ドライバー側で入力したコードごとに印刷のログをとることができます。

  プリンタージョブ認証についての詳細は、管理者に確認してください。

  制限する機能：

  - コピー
  - ドキュメントボックス
  - ファクス
  - プリンター
  - プリンター自動登録

1

    - スキャナー
    - ブラウザー
  - ベーシック認証
  - Windows 認証
  - LDAP 認証
  - 統合サーバー認証
  - 認証しない

工場出荷時の設定：**認証しない**

ベーシック認証、Windows 認証、LDAP 認証、統合サーバー認証についての詳細は、『セキュリティーガイド』を参照してください。

拡張認証管理

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

管理者認証管理

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

管理者登録／変更

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

キーカウンター管理

キーカウンターを使用して、使用者の制限をするかしないかを設定します。

- コピー
- ドキュメントボックス
- ファクス
- プリンター
- スキャナー
- ブラウザー

外部課金装置管理

キーカードを使用して、使用者の課金上限を設定し利用状況を管理します。

- コピー
- ドキュメントボックス
- ファクス
- プリンター
- スキャナー
- ブラウザー

拡張外部課金装置管理

拡張機能による外部課金装置を、使用するかしないかを設定します。

詳細は管理者に確認してください。

セキュリティー強化

セキュリティー機能を利用するかしないかを設定します。詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

ドキュメントボックス蓄積文書自動消去

ドキュメントボックスに保存された文書を、一定日数経過後に自動的に消去するかしないかを設定します。

- する
- しない

工場出荷時の設定：**する：3 日**

「する」に設定した場合は、設定以後に保存した文書が対象になります。

「しない」を選択したときは自動消去されません。

「する」を選択したときは、「1-180」（1 日単位）の範囲で日数をテンキーで入力します。

工場出荷時の設定では、ドキュメントボックスに蓄積された文書は、蓄積してから 3 日目（72 時間後）に消去されます。

ドキュメントボックス蓄積文書一括消去

ドキュメントボックスに保存されている文書をすべて消去します。

パスワードが設定されている文書も消去されます。

確認画面が表示されます。消去する場合は「消去する」を押します。

文書管理設定

Ridoc Document Router でキャプチャー機能を使用する場合に表示されます。

詳細は管理者に確認してください。

文書管理：送信待ち文書一括消去

Ridoc Document Router でキャプチャー機能を使用する場合に表示されます。

詳細は管理者に確認してください。

文書管理：ユーザー設定

Ridoc Document Router でキャプチャー機能を使用する場合に表示されます。

詳細は管理者に確認してください。

文書管理：公開設定

Ridoc Document Router でキャプチャー機能を使用する場合に表示されます。

詳細は管理者に確認してください。

文書管理：ユーザー名の初期値

Ridoc Document Router でキャプチャー機能を使用する場合に表示されます。

詳細は管理者に確認してください。

LDAP サーバー登録／変更／消去

LDAP サーバーを登録することによってスキャナー機能やファクス機能から文書をメールで送信するときに、LDAP サーバー上のアドレス帳からメールアドレスを調べることができます。

- 名前
- サーバー名
- 検索開始位置
- ポート番号
- SSL
- 認証
- ユーザー名
- パスワード
- レルム名
- 日本語文字コード
- 検索条件
- 任意検索条件

LDAP 検索を行うためには、「サーバー名」、「検索開始位置」、「ポート番号」、「認証」、「日本語文字コード」、「検索条件」の項目を必ず設定してください。お使いのサーバー環境により、設定が必要な項目が異なります。お使いのサーバー環境をご確認の上、必要に応じて設定してください。

LDAP サーバーを利用したい場合には、管理者用設定の「LDAP 検索」で［する］を選択しておきます。

LDAP サーバーの対応バージョンは Ver2.0 と Ver3.0 です。ダイジェスト認証を使用できるのは、LDAP Ver.3.0 のみです。

LDAP サーバーの登録方法については、P.62「LDAP サーバーを設定する」を参照してください。

LDAP 検索

LDAP サーバーを検索で使用するかしないかを設定します。

工場出荷時の設定：**しない**

「しない」に設定したときは、検索画面に［LDAP 検索］が表示されなくなります。

スリープモード

スリープモード機能を利用するかしないかを設定します。

工場出荷時の設定：**する**

印刷利用量上限初期値

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

通信テストコール実行

@Remote センターサーバー（RICOH Gateway）に通信テストを行います。

@Remote を使用している場合に実行できます。

機器情報通知実行

@Remote センターサーバー（RICOH Gateway）に機器情報を通知します。

@Remote を使用している場合に実行できます。

サービスモード移行禁止設定

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

ファームウェアバージョン表示

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

ネットワークセキュリティーレベル

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

メモリー自動消去設定

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

メモリー全消去

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

ログ一括消去

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

ログ転送設定

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

不正コピーガード

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

USB ポート固定

USB ポートで新規接続時にプリンタードライバーを再度インストールするかしないかを設定します。

- しない
- レベル 1
- レベル 2

工場出荷時の設定：**しない**

「レベル 1」に設定した場合、プリンタードライバーをインストール済みの PC に本機と同一の機種を USB 接続するとき、新規のプリンタードライバーをインストールせずに機器を使用できます。

「レベル 2」に設定する場合は、サービス実施店または販売店にお問い合わせください。

レルム登録／変更／消去

Kerberos 認証で使用するレルムを登録します。

- レルム名
- KDC サーバー名
- ドメイン名

レルムを登録するには、「レルム名」「KDC サーバー名」を必ず設定してください。

レルム登録についての詳細は、P.68「レルムを設定する」を参照してください。

機器データ暗号化設定

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

連携機器登録／変更／消去

連携する機器を 6 台まで登録できます。

機器証明書登録／消去

機器の証明書を登録、消去します。

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

機器設定情報：インポート（サーバー）設定

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

機器設定情報：インポート（サーバー）実行

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

機器設定情報：エクスポート（メディア）

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

機器設定情報：インポート（メディア）

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

利用量カウンター定期／指定リセット設定

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

eco 指数カウンター集計期間／管理者メッセージ設定

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

PDF ファイル形式：PDF/A 固定

PDF のファイル形式を PDF/A だけに設定します。

省エネキーモード移行設定

省エネキー押下時の機器のモードを設定します。

- 低電力モード
- スリープモード

強制セキュリティー印字：コピー

コピーから文書を出力するときに、ユーザー情報や機器の情報を印字するかしないかを設定します。

工場出荷時の設定：**しない**

［する］に設定した場合、［出力日時］、［出力者名］、［機番］、［本体 IP アドレス］、［印字位置調整］項目で印字設定をします。

強制セキュリティー印字：ドキュメントボックス

ドキュメントボックスから文書を出力するときに、ユーザー情報や機器の情報を印字するかしないかを設定します。

工場出荷時の設定：**しない**

［する］に設定した場合、［出力日時］、［出力者名］、［機番］、［本体 IP アドレス］、［印字位置調整］項目で印字設定をします。

強制セキュリティー印字：ファクス

ファクスから文書を出力するときに、ユーザー情報や機器の情報を印字するかしないかを設定します。

工場出荷時の設定：**しない**

［する］に設定した場合、［出力日時］、［出力者名］、［機番］、［本体 IP アドレス］、［印字位置調整］項目で印字設定をします。

強制セキュリティー印字：プリンター

プリンターから文書を出力するときに、ユーザー情報や機器の情報を印字するかしないかを設定します。

工場出荷時の設定：**しない**

［する］に設定した場合、［出力日時］、［出力者名］、［機番］、［本体 IP アドレス］、［印字位置調整］項目で印字設定をします。

プリンター復帰時間優先設定（imagio MP 6002/6002 SP/7502/7502 SP）

プリンターモードでの復帰時の動作を設定します。

- 起動時時間優先
- 省エネ優先

工場出荷時の設定：**省エネ優先**

ユーザー別ホーム利用

ユーザー別ホーム画面の利用を許可するか、禁止するか設定します。

詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

補足

- 各項目の詳細については、P.9「初期設定を変更する」を参照してください。

LDAP サーバーを設定する

LDAP サーバーの設定方法を説明します。

LDAP サーバーの対応バージョンは Ver.2.0 と Ver.3.0 です。

LDAP サーバーを登録すると、スキャナー機能やファクス機能から文書をメールで送信するときに、LDAP サーバー上のアドレス帳からメールアドレスを調べることができます。

LDAP 検索を行うためには下記の項目を必ず設定してください。

- サーバー名
- 検索開始位置
- ポート番号
- 認証
- 日本語文字コード
- 検索条件

お使いのサーバー環境によって、上記以外で設定が必要な項目は異なります。お使いのサーバー環境をご確認の上、必要に応じて設定してください。

認証方法の選択で［Kerberos 認証］を選択したときは、「ユーザー名」、「パスワード」、「レルム名」を必ず設定してください。

認証方法の選択で［ダイジェスト認証］または［平文認証］を選択したときは、「ユーザー名」と「パスワード」を必ず設定してください。

ダイジェスト認証を使用できるのは、LDAP Ver.3.0 のみです。

Kerberos 認証を使用する場合は、あらかじめレルムを登録しておく必要があります。レルムの登録方法については、P.68「レルムを設定する」を参照してください。

また、LDAP 検索を行うためには、管理者用設定の「LDAP 検索」で［する］を選択する必要があります。

LDAP サーバーを登録する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押し、［▼次へ］を 2 回押します。
4. ［LDAP サーバー登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. ［＊未登録］を押します。

7. 「名前」の［変更］を押します。

LDAP 検索のサーバー選択画面で表示する LDAP サーバーの名称を任意の名前で登録します。

8. 名前を入力します。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字入力のしかた」を参照してください。

9. ［OK］を押します。

10. 「サーバー名」の［変更］を押します。

LDAP サーバーのホスト名または IPv4 アドレスを登録します。

11. サーバー名を入力します。

12. ［OK］を押します。

ホスト名または LDAP サーバーの IPv4 アドレスを 128 文字以内で入力します。

13. 「検索開始位置」の［変更］を押します。

検索を開始するルートフォルダーを選択します。ここで選択したフォルダーの中に登録されているメールアドレスが検索の対象となります。

14. 検索開始位置を入力します。

例えば、ABC 商事の販売部を検索対象とした場合、「dc=販売部、o=ABC 商事」と入力します。（ここではアクティブディレクトリを例にして説明します。dc が組織名、o が会社名です。）

お使いのサーバー環境によっては、検索開始位置の登録が必要になります。登録が必要な場合、何も指定せずに検索を行うとエラーとなります。お使いのサーバーの環境をご確認の上、入力してください。

15. ［OK］を押します。

16. 「ポート番号」の［変更］を押します。

LDAP サーバーと通信をする際に使用するポート番号を指定します。お使いの環境にあわせたポートを指定してください。

17. ポート番号をテンキーで入力し、［#］を押します。

18. 「SSL」の［利用する］を押します。

LDAP サーバーと通信を行う際に SSL 通信を行います。

SSL 通信を行うには、LDAP サーバー側が SSL に対応している必要があります。

SSL を［利用する］に設定するとポート番号が「636」に自動で切り替わります。

SSL を利用しない場合、セキュリティー上で問題が発生することがあります。詳細は『セキュリティーガイド』を参照してください。

19. ［▼次へ］を押します。

20. 認証方法を選択します。

［Kerberos 認証］、［ダイジェスト認証］、［平文認証］、［しない］のいずれかを押します。

LDAP サーバーに検索要求を行うにあたり、代表者アカウント等を用いて認証することができます。

認証を行うにはお使いの LDAP サーバーの認証設定にあわせる必要があります。
サーバーの設定をご確認の上、本機の設定を行ってください。

［Kerberos 認証］は、パスワードが解読できないように加工して KDC サーバーへ送信し、認証は KDC サーバーで行います。［ダイジェスト認証］は、本機でパスワードが解読できないように加工して LDAP サーバーへ送信します。［平文認証］はパスワードの加工を行わずにそのまま LDAP サーバーへ送信します。［ダイジェスト認証］は LDAP サーバーのバージョン 3.0 のみ設定できます。

［しない］を選択したときは、手順 26 へ進みます。

［ダイジェスト認証］、［平文認証］を選択したときは、手順 21-手順 24 を操作してから手順 26 へ進みます。

［Kerberos 認証］を選択したときは、手順 21-手順 25 を操作してから手順 26 へ進みます。

21. ユーザー名の［変更］を押します。

認証設定を［Kerberos 認証］、［ダイジェスト認証］、または［平文認証］に設定したときに、代表者アカウントのユーザー名とパスワードを入力することができます。個人ごと、検索の度に認証するときは、入力しないでください。

22. ユーザー名を入力し、［OK］を押します。

お使いのサーバー環境によりユーザー名の指定方法は異なります。お使いのサーバー環境をご確認の上、入力してください。

（例として Domain Name¥User Name、User Name@Domain Name、CN＝名前、OU＝部署名、DC＝サーバー名のような指定方法があります。）

23. 「パスワード」の［変更］を押します。

24. パスワードを入力し、［OK］を押します。

このユーザー名とパスワードは LDAP サーバーに接続する際の代表者認証に必要です。

本機のアドレス帳に登録したユーザー名、パスワードを使用して LDAP サーバーに接続することもできます。詳しくは P.259「LDAP 認証」を参照してください。P.259「LDAP 認証」

［ダイジェスト認証］、［平文認証］を選択したときは、手順 26 に進みます。

25. [Kerberos 認証] を選択したときは、レルム名を選択します。

26. [接続テスト] を押します。

LDAP サーバーに接続を行い、正しく接続できるかを確認することができます。認証設定に応じて認証の確認も行います。

LDAP サーバーへの接続を試行します。

27. [確認] を押します。

接続に失敗したときは、設定を確認し、再度接続テストをしてください。

本機能では、検索条件、検索開始位置の確認は行いません。

28. [▼次へ] を押します。

29. 使用する「日本語文字コード」を選択します。

LDAP サーバーで運用されている日本語文字コードを設定します。

30. 検索条件の [名前]、[メールアドレス]、[ファクス番号]、[会社名]、[部署名] で検索するために必要な項目の [変更] を押します。

代表的な検索のキーワードとして属性を入力することができます。入力した属性を使って、LDAP サーバーのアドレス帳から検索を行います。

31. 属性を入力し、[OK] を押します。

64 文字以内で属性を入力します。

サーバー環境により属性の値が異なることがあります。お使いのサーバー環境でご確認の上、属性を設定してください。

各項目とも入力しないで登録することはできますが、空白の場合、LDAP サーバーのアドレス帳からその属性での検索はできません。

32. [▼次へ］を押します。

33. 任意検索条件の「属性」の［変更］を押します。

34. 属性を入力し、[OK］を押します。

あらかじめ用意した名前・メールアドレス・ファクス番号・会社名・部署名以外のキーワードで検索したい場合には、使用の LDAP サーバーに登録されたそのキーワードに対応する属性と検索時に操作部に表示される表示名をここで任意に設定します。

例えば、社員番号で検索したい場合には属性に“employeeNo”、キー表示名には“社員番号”を登録します。

サーバー環境により属性の値が異なることがあります。お使いのサーバー環境でご確認の上、属性を設定してください。

35.「キー表示名」の［変更］を押します。

36. キー表示名を入力し、[OK］を押します。

登録した［キー表示名］は LDAP 検索のキーワードとして表示されます。

- キー表示名登録なし

- キー表示名登録有り

[属性]、[キー表示名］の両方を登録しないと検索画面にキーは表示されません。任意検索を行いたいときは必ず両方とも登録してください。

37. [設定] を押します。
38. [閉じる] を押します。
39. [初期設定／カウンター] キーを押します。

登録した LDAP サーバーを変更する

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [システム初期設定] を押します。
3. [管理者用設定] を押し、[▼次へ] を 2 回押します。
4. [LDAP サーバー登録／変更／消去] を押します。
5. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
6. 変更したい LDAP サーバーを選択します。
7. 変更が必要な項目を設定します。
8. 変更が終わったら [設定] を押します。
9. [閉じる] を押します。
10. [初期設定／カウンター] キーを押します。

登録した LDAP サーバーを消去する

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [システム初期設定] を押します。
3. [管理者用設定] を押し、[▼次へ] を 2 回押します。
4. [LDAP サーバー登録／変更／消去] を押します。
5. [消去] を押します。
6. 消去したい LDAP サーバーを選択します。
7. [消去する] を押します。
8. [閉じる] を押します。
9. [初期設定／カウンター] キーを押します。

レルムを設定する

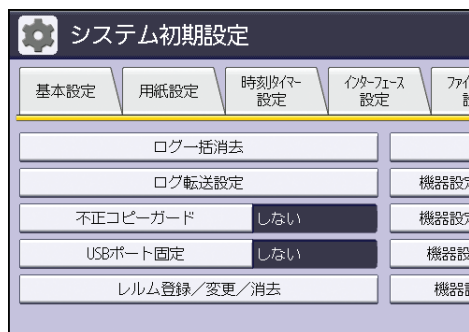
Kerberos 認証で使用するレルムを設定します。

レルムとは Kerberos 認証を使用したネットワークエリアです。

レルムを登録するには、「レルム名」、「KDC サーバー名」を必ず設定してください。お使いのネットワーク環境をご確認のうえ、必要に応じて「ドメイン名」を設定してください。

レルムは 5 つまで登録できます。

レルムを登録する

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [システム初期設定] を押します。
3. [管理者用設定] を押し、[▼次へ] を 3 回押します。
4. [レルム登録／変更／消去] を押します。

5. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
6. [＊未登録] を押します。
7. 「レルム名」の [変更] を押します。
8. レルム名を入力し、[OK] を押します。

   レルム名の代わりにホスト名も入力できます。

   レルム名では全角文字が使用できません。
9. 「KDC サーバー」の [変更] を押します。
10. KDC サーバー名を入力し、[OK] を押します。

    KDC サーバー名の代わりにホスト名または IPv4 アドレスも入力できます。

    KDC サーバー名では全角文字が使用できません。

11. 「ドメイン名」の［変更］を押します。
12. ドメイン名を入力し、［OK］を押します。

    ドメイン名の代わりにホスト名も入力できます。

    ドメイン名では全角文字が使用できません。
13. ［設定］を押します。
14. ［閉じる］を押します。
15. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

登録したレルムを変更する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押し、［▼次へ］を 3 回押します。
4. ［レルム登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. 設定内容を変更したいレルム名を押します。
7. レルム名を変更するときは、「レルム名」の［変更］を押します。
8. ［後退］または［全消去］を押して、レルム名を入力し直します。
9. ［OK］を押します。
10. KDC サーバー名を変更するときは、「KDC サーバー名」の［変更］を押します。
11. ［後退］または［全消去］を押して、KDC サーバー名を入力し直します。
12. ［OK］を押します。
13. ドメイン名を変更するときは、「ドメイン名」の［変更］を押します。
14. ［後退］または［全消去］を押して、ドメイン名を入力し直します。
15. ［OK］を押します。
16. ［設定］を押します。
17. ［閉じる］を押します。
18. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

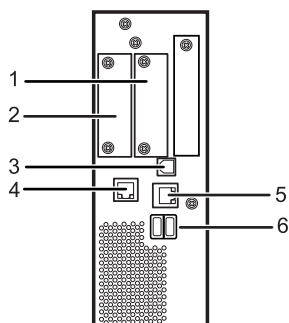
登録したレルムを消去する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押し、［▼次へ］を 3 回押します。
4. ［レルム登録／変更／消去］を押します。
5. ［消去］を押します。
6. 消去したいレルム名を選択します。
7. ［消去する］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

2. 接続と設定

ネットワークの接続方法、およびネットワークの環境設定について説明します。

インターフェースを接続する

本機のインターフェースを確認し、使用するネットワーク環境に応じた方法で接続します。本機の接続とネットワークの設定について説明します。

1. スロット A

拡張インターフェースボードを装着します。

以下のいずれか 1 つが装着できます。

拡張 1284 ボード：IEEE1284 のケーブルを挿し込み使用します。IEEE1284 インターフェースで接続しプリント印刷するときに使います。

拡張無線 LAN ボード：無線 LAN を使用してネットワークに接続する際のインターフェースです。本機で使用できる無線 LAN インターフェースは IEEE802.11a/b/g です。

2. スロット B

連結キットを装着します。

連結キット：本機を 2 台連結し、連結コピーをするときに使用します。

3. USB2.0 インターフェース

USB2.0 のケーブルを差し込むコネクターです。本機を USB 接続でプリント印刷するときに使います。

4. GigaBit イーサネットインターフェース

拡張ギガビットイーサネットボードを装着して、1000BASE-T、100BASE-TX、または 10BASE-T のケーブルを差し込むコネクターです。本機をネットワーク接続するときに使います。

5. イーサネットインターフェース

100BASE-TX または 10BASE-T のケーブルを差し込むコネクターです。本機をネットワーク接続するときに使います。

6. USB ホストインターフェース

USB のケーブルやデバイスを接続するコネクターです。本機に IC カード認証装置や外付けキーボード、Bluetooth オプションなどを取り付けるときに使います。

補足

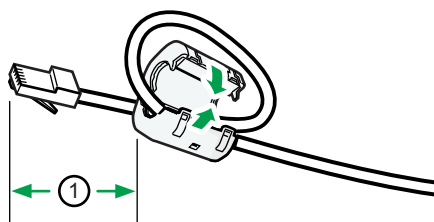
- 拡張 1284 ボード、拡張無線 LAN ボードは、同時に装着できません。
- イーサネットインターフェース、GigaBit イーサネットインターフェース、無線 LAN インターフェースは同時に使用できません。拡張ギガビットイーサネットボードを装着し、使用する際には、ネットワークケーブルを GigaBit イーサネットインターフェースに接続します。無線 LAN ボードを装着し、使用する際には、ネットワークインターフェース選択で無線 LAN を選択する必要があります。
- Bluetooth オプションと拡張無線 LAN ボードは同時に装着できません。

イーサネットインターフェースに接続する

イーサネットインターフェースには、10BASE-T または 100BASE-TX のケーブルを接続します。

重要

- 主電源スイッチが入っているときは、切ってください。

1. イーサネットケーブルの先端から 3cm①の位置で、イーサネットケーブルを輪状にし、同梱のフェライトコアを装着します。

CKD003

2. 本機の主電源スイッチが切れていることを確認します。

3. イーサネットケーブルを、本機のイーサネットインターフェースに接続します。

CKH002

4. イーサネットケーブルのもう一方をネットワーク接続用の Hub などに接続します。

5. 本機の主電源スイッチを入れます。

CKD004

1. 100BASE-TX 動作時は LED が橙色に点灯します。ネットワークに接続していないとき、あるいは 10BASE-T 動作時は消灯します。
2. 10BASE-T 動作時は LED が緑色に点灯します。ネットワークに接続していないとき、あるいは 100BASE-TX 動作時は消灯します。

補足

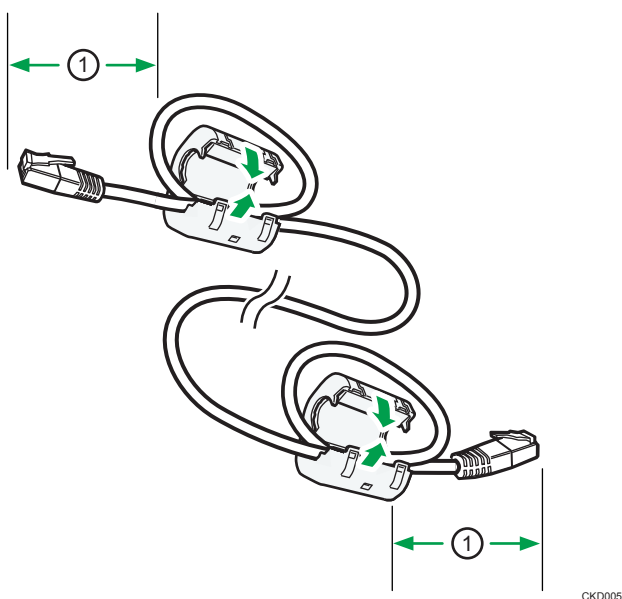
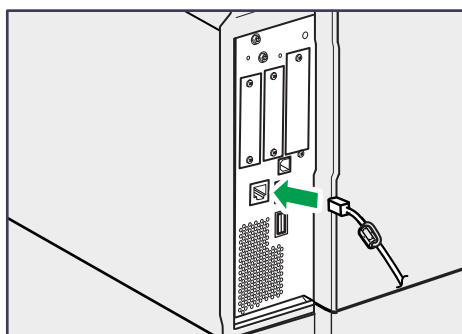
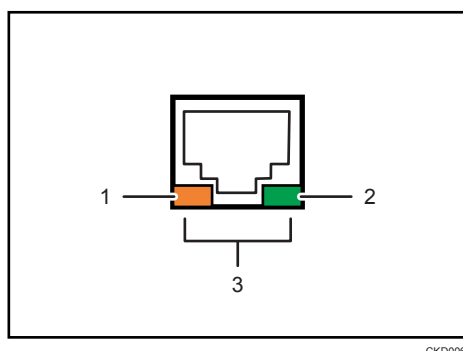
- 省エネモード時は、LED が両方消灯する場合があります。
- 主電源スイッチの入れかた、切りかたについては、『本機のご利用にあたって』「電源の入れかた、切りかた」を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール方法は、『ドライバーインストールガイド』「プリンタードライバーをインストールする」を参照してください。
- イーサネット速度に対応したイーサネットケーブルを使用してください。また、イーサネット速度で［自動選択］を選択した場合は、100 BASE-TX に対応したイーサネットケーブルを使用してください。

GigaBit イーサネットインターフェースに接続する

GigaBit イーサネットインターフェースには、1000BASE-T、100BASE-TX または 10BASE-T ケーブルを接続します。

重要

- 主電源スイッチが入っているときは、切ってください。

1. イーサネットケーブルの両端にそれぞれ先端から 3cm①の位置でイーサネットケーブルを輪状にし、同梱のフェライトコアを装着します。

2. 本機の主電源スイッチが切れていることを確認します。
3. イーサネットケーブルを、本機の GigaBit イーサネットインターフェースに接続します。

4. イーサネットケーブルのもう一方をネットワーク接続用の Hub などに接続します。

5. 本機の主電源スイッチを入れます。

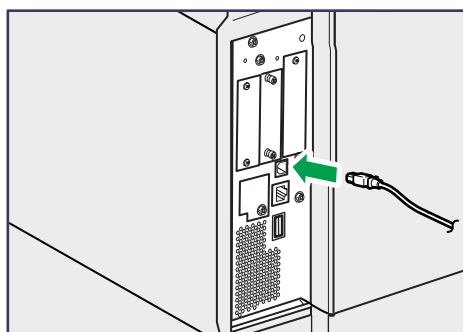
1. 100BASE-TX 動作時は LED が橙色に点灯します。ネットワークに接続していないとき、あるいは 10BASE-T 動作時は消灯します。
2. 10BASE-T 動作時は LED が緑色に点灯します。ネットワークに接続していないとき、あるいは 100BASE-TX 動作時は消灯します。
3. 1000BASE-T 動作時は LED が両方点灯します。

補足

- 主電源スイッチの入れかた、切りかたについては、『本機のご利用にあたって』「電源の入れかた、切りかた」を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール方法は、『ドライバーインストールガイド』「プリンタードライバーをインストールする」を参照してください。
- イーサネット速度に対応したイーサネットケーブルを使用してください。また、イーサネット速度で［自動選択］を選択した場合は、1000BASE-T に対応したイーサネットケーブルを使用してください。

USB（B コネクター）インターフェースに接続する

USB（B コネクター）の接続を行います。

1. USB 2.0 用（B コネクター）インターフェースケーブルを本機の USB 2.0（B コネクター）インターフェースに接続します。

CKH003

2. パソコンに USB 2.0 用インターフェースケーブルを接続します。

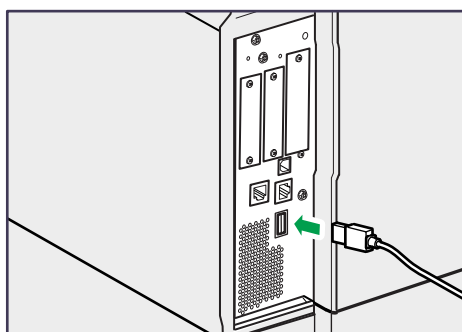
補足

- USB 2.0 用（B コネクター）インターフェースケーブルは、ご使用になるパソコンに合わせて別途お買い求めください。
- USB 2.0 用（B コネクター）インターフェースに対応した 5m 以下のケーブルを使用してください。
- USB 2.0 用（B コネクター）インターフェースケーブルは、ご使用になるパソコンやコネクターの形状に合わせて別途お買い求めください。
- Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2、Mac OS X10.3.3 以降の環境に対応しています。
- Macintosh で使用する場合、本機に PS3 カード、またはマルチエミュレーションカードが装着されている必要があります。Mac OS X 10.3.3 以降のサポート速度は USB 2.0 相当です。
- プリンタードライバーのインストール方法は、『ドライバーインストールガイド』「プリンタードライバーをインストールする」を参照してください。

USB ホストインターフェースに接続する

USB 接続を行います。

1. USB インターフェース機器を本機の USB ホストインターフェースに接続します。

CKH007

USB インターフェースケーブルのもう一方を IC カード認証装置などに接続します。

補足

- USB ホストインターフェースケーブルは、ご使用になる機器に合わせて別途お買い求めください。
- USB ホストインターフェースに対応した 5m 以下のケーブルを使用してください。
- USB ホストインターフェースケーブルは、ご使用になる機器やコネクターの形状に合わせて別途お買い求めください。
- Bluetooth オプションは、電源を入れたあとの取り付け、取り外しを行わないでください。

IEEE 1284 インターフェースに接続する

拡張 1284 ボードには、IEEE 1284 用インターフェースケーブルを接続します。

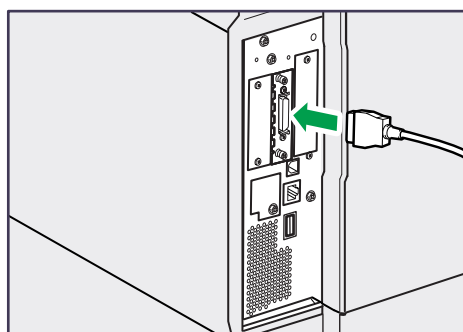
重要

- 主電源スイッチが入っているときは、切ってください。

1. パソコンの電源を切ります。

2. 本機の主電源スイッチが切れていることを確認します。

2

3. IEEE 1284 用インターフェースケーブルを本機の IEEE 1284 インターフェースに接続します。

IEEE 1284 用インターフェースケーブルと本機の IEEE 1284 インターフェースの接続には、変換アダプターが必要になる場合があります。

4. パソコンに IEEE 1284 用インターフェースケーブルを差し込み、固定します。

パソコンに接続するコネクターの形状をよく確かめ、確実に固定してください。

5. 本機の主電源スイッチを入れます。

6. パソコンの電源を入れます。

Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 をご利用の場合、パソコンの電源をいれたときにプリンタードライバーのインストール画面が表示されることがあります。この場合は画面上の［キャンセル］をクリックしてください。

補足

- 本機には IEEE1284 用インターフェースケーブルが付属されていません。インターフェースケーブルは、ご使用になる機器やコネクターの形状に合わせて別途お買い求めください。
- ホストコンピューターでの動作が保障された 5m 以下の IEEE1284 用インターフェースケーブルを使用してください。
- 主電源スイッチの入れかた、切りかたについては、『本機のご利用にあたって』「電源の入れかた、切りかた」を参照してください。
- プリンタードライバーのインストール方法は、『ドライバーインストールガイド』「プリンタードライバーをインストールする」を参照してください。

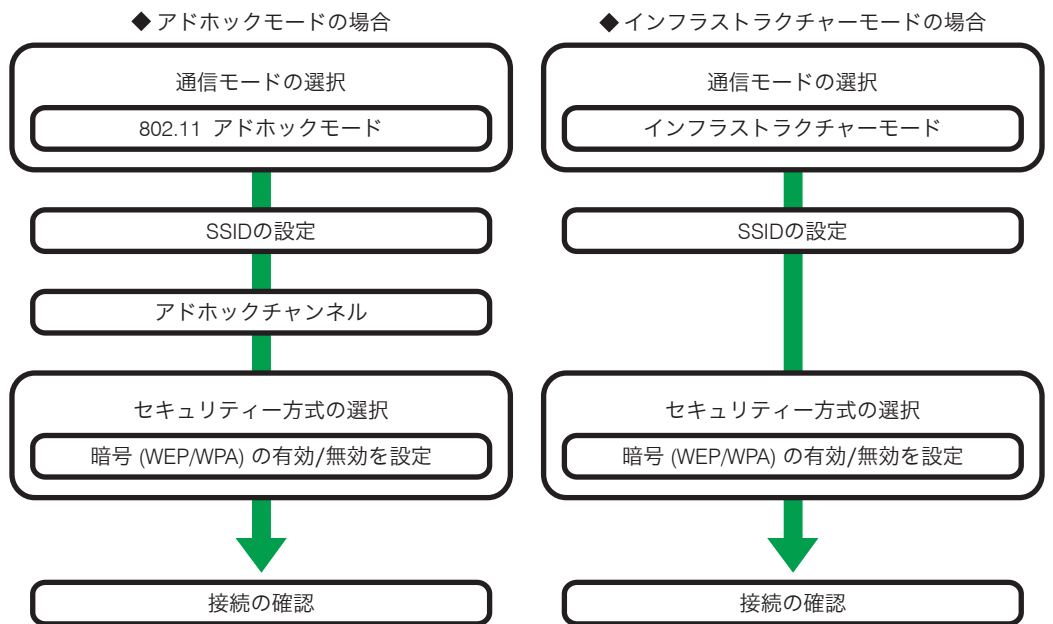
無線 LAN インターフェースの接続を確認する

無線 LAN インターフェースの接続を確認します。

補足

- 本機の IPv4 アドレスとサブネットマスク、または IPv6 アドレスの設定を確認してください。
- 本機の操作部から IPv4 アドレスとサブネットマスクを設定する方法は、P.34「ネットワーク」を参照してください。
- 無線 LAN で本機をネットワークに接続するにはインターフェース設定／ネットワークの［ネットワークインターフェース選択］で、［無線 LAN］を選択してください。

セットアップの流れ

無線 LAN のセットアップは、［システム初期設定］の［インターフェース設定］で［無線 LAN］を選択して、次の流れで行います。

補足

- Windows XP 標準のドライバーかユーティリティーを使用して Windows XP の無線 LAN クライアントと通信する場合、通信モードは「802.11 アドホックモード」に設定してください。
- 通信モードで「802.11 アドホックモード」を選択したときは、「アドホックチャンネル」でチャンネルを設定してください。使用する無線 LAN の規格に合わせてチャンネルを設定してください。設定方法についての詳細は、P.41「無線 LAN」を参照してください。

- セキュリティー方式は、「WEP」または「WPA」から設定します。「WPA」を設定するには、通信モードを「インフラストラクチャーモード」に設定する必要があります。設定方法の詳細は、P.41「無線 LAN」を参照してください。
- セキュリティー方式で「WPA」を選択した場合は、「WPA-PSK」、「WPA」、「WPA2-PSK」、「WPA2」の中から選択します。また、「WPA-PSK」「WPA2-PSK」を選択した場合は PSK を入力します。「WPA」「WPA2」を選択した場合は認証方式や機器証明書の導入などの設定が必要です。設定方法についての詳細は、『セキュリティーガイド』を参照してください。
- 本体操作部での設定方法、設定項目についての詳細は、P.41「無線 LAN」を参照してください。
- 本体操作部以外からの設定方法は、P.82「本機以外からの設定方法」を参照してください。
- システム設定リストを印刷して、設定した内容を確認できます。システム設定リストの印刷方法については、『プリンター』「テスト印刷する」を参照してください。

電波状態を確認する

インフラストラクチャーモードを使用しているとき、本機の操作部で電波状態を確認することができます。

1. **［初期設定／カウンター］キーを押します。**
2. **［システム初期設定］を押します。**
3. **［インターフェース設定］を押します。**
4. **［無線 LAN］を押します。**
5. **［電波状態］を押します。**

   電波状態が表示されます。
6. **確認が終了したら［閉じる］を押します。**
7. **［初期設定／カウンター］キーを押します。**

   通常画面に戻ります。

ネットワークの設定

システム初期設定のネットワーク設定は、使用する機能やインターフェースに応じて必要な設定項目が違います。

P.347「ネットワークの設定一覧」を参照して、以下の機能に必要な項目を設定してください。

- プリンター／PC ファクス
- インターネットファクス
- IP ファクス
- メール送信
- ファイル送信
- ネットワーク配信
- WSD 配信
- ネットワーク TWAIN スキャナー
- ドキュメントボックス

重要

- **設定にあたっては必ず管理者が行うか、管理者の立ち会いのもとで行ってください。**

補足

- 各設定の詳細は、P.34「インターフェース設定」または、P.44「ファイル転送設定」を参照してください。

本機以外からの設定方法

ネットワーク環境に必要な設定項目は、本機の操作部だけでなく、Web Image Monitor（Web ブラウザー）や telnet などのユーティリティーでも設定することができます。

補足

- Web Image Monitor については、P.101「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- telnet については、P.121「telnet を使う」を参照してください。

インターフェース設定

Web Image Monitor や telnet を使用して、本機の［システム初期設定］にある［インターフェース設定］の設定値を変更します。

○：設定可、ー：設定不可

インターフェース設定→ネットワークの設定項目	Web Image Monitor	telnet
［本体 IPv4 アドレス］→［自動的に取得（DHCP)］	○	○
［本体 IPv4 アドレス］→［指定］→「本体 IPv4 アドレス」	○	○
［本体 IPv4 アドレス］→［指定］→「サブネットマスク」	○	○
［IPv4 ゲートウェイアドレス］	○	○
［本体 IPv6 アドレス］→「手動設定アドレス」	○	○
［IPv6 ゲートウェイアドレス］	○	○
［IPv6 ステートレアドレス自動設定］	○	○
［DHCPv6 設定］	○	○
［DNS 設定］→［自動的に取得（DHCP)］	○	○
［DNS 設定］→［指定］→「DNS サーバー 1-3」	○	○
［DDNS 設定］	○	○
［IPsec］	○	○
［ドメイン名］→［自動的に取得（DHCP)］	○	○
［ドメイン名］→［指定］→「ドメイン名」	○	○
［WINS 設定］→［使用する］→「プライマリー WINS サーバー」	○	○
［WINS 設定］→［使用する］→「セカンダリー WINS サーバー」	○	○
［WINS 設定］→［使用する］→「スコープ ID」	○	○

インターフェース設定→ネットワークの設定項目	Web Image Monitor	telnet
[WINS 設定] → [使用しない]	○	○
[有効プロトコル] → 「IPv4」	○	○
[有効プロトコル] → 「IPv6」	○	○
[有効プロトコル] → 「Netware」	○	○
[有効プロトコル] → 「SMB」	○	○
[有効プロトコル] → 「AppleTalk」	○	○
[NCP 配信時プロトコル] → [IPX 優先]	○	−
[NCP 配信時プロトコル] → [TCP/IP 優先]	○	−
[NCP 配信時プロトコル] → [IPX のみ]	○	−
[NCP 配信時プロトコル] → [TCP/IP のみ]	○	−
[NW フレームタイプ] → [自動選択]	○	○
[NW フレームタイプ] → [Ethernet II]	○	○
[NW フレームタイプ] → [Ethernet 802.2]	○	○
[NW フレームタイプ] → [Ethernet 802.3]	○	○
[NW フレームタイプ] → [Ethernet SNAP]	○	○
[SMB コンピューター名]	○	○
[SMB ワークグループ]	○	○
[イーサネット速度]	○	○
[ネットワークインターフェース選択] → [イーサネット]	○	○
[ネットワークインターフェース選択] → [無線 LAN]	○	○
[Ping コマンド実行]	−	−
[SNMPv3 通信許可設定] → [暗号化のみ]、[暗号化/平文]	○	○
[SSL/TLS 通信許可設定] → [暗号文のみ]、[暗号文優先]、[暗号文/平文]	−	−
[ホスト名]	○	○
[本体名]	○	○
[イーサネット用 IEEE 802.1X 認証]	○	○

インターフェース設定→無線 LAN の設定項目	Web Image Monitor	telnet
[通信モード] → [802.11 アドホックモード]	○	○

インターフェース設定→無線 LAN の設定項目	Web Image Monitor	telnet
[通信モード] → [インフラストラクチャーモード]	○	○
[SSID 設定]	○	○
[アドホックチャンネル]	○	○
[セキュリティー方式選択]	○	○

2

ファイル転送設定

Web Image Monitor や telnet を使用して、本機の［システム初期設定］にある［ファイル転送設定］の設定値を変更します。

○：設定可、－：設定不可

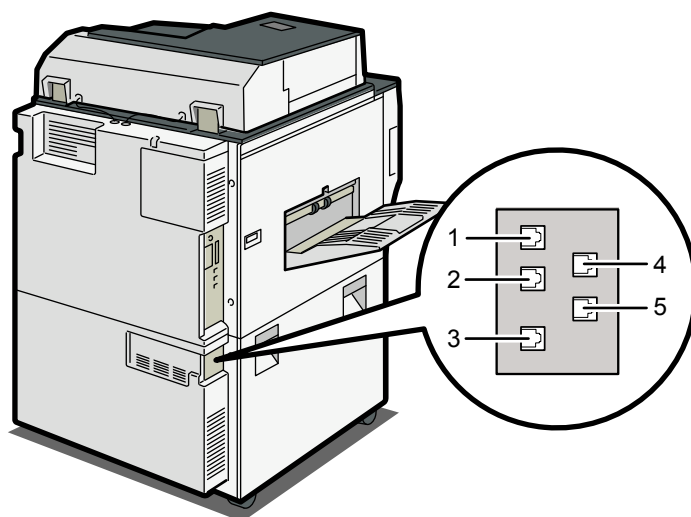
ファイル転送の設定項目	Web Image Monitor	telnet
[配信オプション]	－	－
[文書管理サーバー IPv4 アドレス]	－	－
[ファクス受信文書配信設定]	－	－
[SMTP サーバー]	○	－
[SMTP 認証]	○	－
[POP before SMTP]	○	－
[受信プロトコル] → [POP3]	○	－
[受信プロトコル] → [IMAP4]	○	－
[受信プロトコル] → [SMTP]	○	－
[POP3/IMAP4 設定]	○	－
[管理者メールアドレス]	○	－
[メール通信ポート設定]	○	－
[メール受信間隔時間設定]	○	－
[受信メールサイズ制限]	○	－
[サーバー側メール保持]	○	－
[送信初期ユーザー名・パスワード]	○	－
[送信メール本文登録／変更／消去]	－	－
[送信社名自動指定]	－	－
[ファクスメールアカウント]	○	－

ファイル転送の設定項目	Web Image Monitor	telnet
[スキャナー再送信間隔時間]	−	−
[スキャナー再送信回数]	−	−

電話回線および電話機との接続

電話回線と電話機との接続方法について説明します。

電話回線と接続する

ファクスを電話回線に接続する接続端子は、差し込み式のモジュラータイプです。

1. 増設 G3 回線接続端子
2. 増設 G3 回線接続端子
3. G4 回線接続端子外付け
4. G3 回線接続端子
5. 電話機接続端子

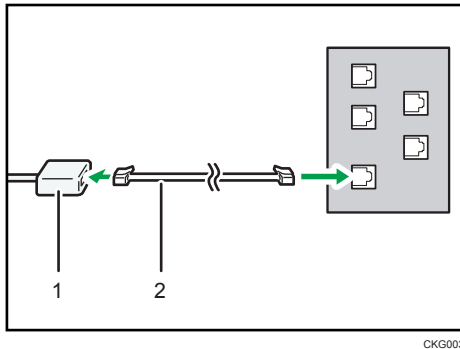
補足

- G3 回線は最大 2 回線増設できます。G4 ユニットを増設する場合は G3 回線を 1 回線のみ増設できます。
- 外付け電話機は「TEL」に接続してください。
- 各種サービス（キャッチホンなど）の提供を受けている電話回線は、ファクス用に使用できない場合があります。

ISDN と接続する

G4 ユニットを装着しているときは ISDN と接続します。ISDN への接続端子はモジュラータイプです。

重要

- “8 ピン-8 ピン”モジュラータイプは「ISDN」と書いてある接続端子に接続してください。

1. NTT ローゼット
2. “8 ピン-8 ピン”モジュラーコード

電話機を接続する

外付け電話機を接続できます。接続した電話機で電話をかけたり、受けたりできます。

補足

- 外付け電話機を接続すると、通常の電話機として使用できるほか、ファクスと電話を切り替える操作（リモート切替）もできます。ファクスから離れた場所にいても、ファクスに接続された電話機をそばに置いておけば、席を立たずにファクスと電話の切り替えができて便利です。
- 外付け電話機の性能によっては、接続できないことや機能の一部が使えなくなることがあります。

電話回線の種別を設定する

接続した電話回線の種別を設定します。

電話回線にはプッシュ回線とダイヤル回線があります。またダイヤル回線には 10PPS と 20PPS の 2 種類があり、地域によって異なります。

加入電話回線（外線）、自営構内回線（内線）の種別は［ファクス初期設定］の［導入設定］タブにある［ダイヤル／プッシュ選択］で設定します。工場出荷時は「プッシュ」に設定されています。

補足

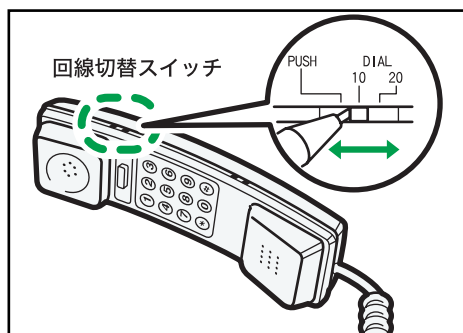
- NTT の回線を利用していて回線の種類がわからないときは、NTT にお問い合わせください。正しく設定しないと、受信はできますが、送信できないことがあります。
- 加入電話回線（外線）の種類がわからないときは、［ダイヤル／プッシュ選択］の設定を「プッシュ」にして、177（天気予報）などにオンフックでダイヤルしてみます。正しくつながったときは「プッシュ回線」です。また、自営構内回線（内線）の種類がわからないときも同様に、G3 アナログ回線の「ダイヤル／プッシュ選択」の設定を「プッシュ」にして、内線の電話番号などにオンフックでダイヤルしてみます。正しくつながったときはプッシュ回線です。つながらなかったときは「20PPS」に設定して、同じようにオンフックでダイヤルしてみます。正しくつながったときは 20PPS、つながらなかったときは 10PPS です。
- ［ダイヤル／プッシュ選択］の設定方法については、『ファクス』「導入設定」を参照してください。

ハンドセットを設定する

ハンドセットの種別を設定します。

ハンドセットの種別を設定する

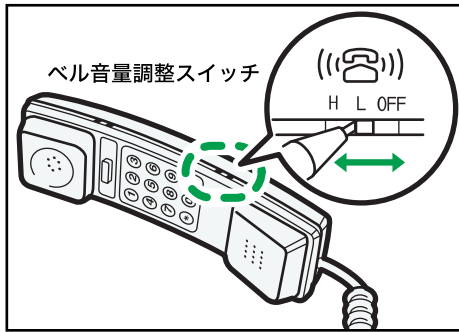
ハンドセットの回線切替スイッチを電話回線の種別と同じに設定します。

- プッシュ回線：PUSH
- ダイヤル回線：10（PPS）または 20（PPS）

BZT007

ハンドセットのベル音量を調整する

ハンドセットのベル音量調整スイッチで調整します。

- 大：H
- 小：L

- 無音：OFF

BZT008

3. プリントサーバーの準備

プリントサーバーの設定について説明します。

Windows ネットワークプリンターを設定する

Windows でネットワークプリンターを設定する方法の説明です。クライアントからネットワークプリンターを使用するために共有設定をします。
ここでは Windows XP を例に説明します。Windows Server2003/2003 R2 をご使用の場合も、手順は同じです。

3

重要

- [プリンタ] または [プリンタと FAX] ウィンドウでプリンタープロパティを変更するには、ウィンドウでプリンタープロパティを変更するには、以下のアクセス権が必要です。
- Windows 2000/XP、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 を使用している場合：「プリンタの管理」
- Windows Vista/7 を使用している場合：「フルコントロール」
- [プリンタ] または [プリンタと FAX] ウィンドウでプリンタープロパティを変更するには、Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1. [スタート] ボタンをクリックします。

[スタート] メニューが表示されます。

2. [プリンタと FAX] をクリックし、[プリンタと FAX] ウインドウを開きます。

Windows 2000 の場合は、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックし、[プリンタ] ウィンドウを開きます。

Windows Vista/7 の場合は、[コントロールパネル] をクリックし、[ハードウェアとサウンド] のカテゴリーにある [プリンタ] をクリックし、[プリンタ] ウィンドウを開きます。

3. 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

4. [共有] タブをクリックし、[このプリンタを共有する] を選択します。

Windows 2000 の場合は、[共有] タブをクリックし、[共有する] を選択します。

5. **プリンターをほかのバージョンの Windows を使っているユーザーと共有する場合は、[追加ドライバ] をクリックします。**

   プリンタードライバーをインストールしたときに、「共有」にチェックを付けて代替ドライバーをインストールした場合、この操作は必要ありません。

6. **[閉じる] をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。**

3

NetWare をプリントサーバーとして使用する

NetWare でネットワークプリンターを使用する場合の設定のしかたを説明します。
NetWare では本機を「プリントサーバー」として接続できます。

重要

- IPv6 環境ではご使用になれません。
- 工場出荷時の設定では NetWare が無効になっています。操作部の［システム初期設定］の［インターフェース設定］の［有効プロトコル］設定か、Web Image Monitor の「NetWare」設定か、telnet の set コマンドで、NetWare を有効にしてください。設定やコマンドについては、P.34「インターフェース設定」、Web Image Monitor のヘルプ、または P.121「telnet を使う」を参照してください。
- 本機能を使用するには、オプションの NetWare カードが必要です。

補足

- この章ではファイルサーバー名を CAREE とした設定例で説明しています。

NetWare 6.5 の場合

重要

- NetWare 6.5 でプリントサーバーとして使用する場合は、NDS モードで使用してください。
- NetWare 6.5 をお使いの場合は、本機をプリントサーバーとしてお使いください。

1. **Web Image Monitor を起動します。**
2. **［ログイン］をクリックします。**

   ［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］の入力画面が表示されます。
3. **ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。**

   ログインユーザー名とログインパスワードは管理者に確認してください。

   お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。
4. **メニューエリアの［機器の管理］から［設定］をクリックします。**
5. **「ネットワーク」の［NetWare］をクリックします。**

6. 設定を確認し、[OK] をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分おいてから行ってください。

7. [ログアウト] をクリックします。

補足

- 本機が設定どおり動作しているか確認するにはコマンドプロンプトで次のように入力します。
- F:> NLIST USER /A/B
- 正しく動作していると、接続しているユーザー名としてプリントサーバー名が表示されます。
- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法については、『プリンター』「テスト印刷する」を参照してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の[ネットワーク] ダイアログで変更します。
- Web Image Monitor については、P.101「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

NetWare 6.5 のピュア IP 環境の場合

重要

- NetWare 6.5 のピュア IP 環境でキューベースのプリントサーバーを作成する場合、NetWare アドミニストレータを使用してファイルサーバー上にプリントキューを作成する必要があります。
- ピュア IP 環境でお使いの場合は、リモートプリンターとして使用できません。
- ピュア IP 環境でお使いの場合は、本機で IPv4 プロトコルが使用できるように設定してください。

NetWare アドミニストレータでの設定

1. Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。

2. プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、[Object] メニューの [Create...] をクリックします。

3. [Class of new object] ボックスの [Print Queue] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。

4. [Print Queue name] ボックスにプリントキューの名前を入力します。
5. [Print Queue Volume] ボックスのブラウザーボタンをクリックします。
6. [Available objects] ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
7. 設定内容を確認し、[Create] をクリックします。
8. プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[Object] メニューの [Create...] をクリックします。
9. [Class of new object] ボックスの [Printer (Non NDPS)] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
10. [Printer name] ボックスにプリンターの名前を入力します。
11. [Define additional properties] をクリックしてチェックを付け、[Create] をクリックします。
12. 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。[Assignments] をクリックし、[Print queues] グループの [Add...] をクリックします。
13. [Available objects] ボックスで、あらかじめ作成したキューをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
14. [Configuration] をクリックし、[Printer type] ボックスのドロップダウンメニューから [Parallel] を選び、[Communication] をクリックします。
15. [Connection type] グループの [Manual load] をクリックし、[OK] をクリックします。
16. 設定内容を確認し、[OK] をクリックします。
17. プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[Object] メニューの [Create...] をクリックします。
18. [Class of new object] ボックスの [Print Server (Non NDPS)] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
19. [Print Server name] ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。

    Web Image Monitor で設定したプリントサーバー名と一致させてください。
20. [Define additional properties] をクリックしてチェックを付け、[Create] をクリックします。
21. 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。[Assignments] をクリックし、[Printers] グループの [Add...] をクリックします。
22. [Available objects] ボックスで、あらかじめ作成したプリンターをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
23. 設定内容を確認し、[OK] をクリックします。

24. NetWare サーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。

すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

停止する

CAREE: unload pserver

起動する

CAREE: load pserver プリントサーバー名

プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

3

Web Image Monitor での設定

1. Web Image Monitor を起動します。

2. [ログイン] をクリックします。

[ログインユーザー名] と [ログインパスワード] の入力画面が表示されます。

3. ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者に確認してください。

お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。

4. メニューエリアの [機器の管理] から [設定] をクリックします。

5. 「ネットワーク」の [NetWare] をクリックします。

6. 設定を確認し、[OK] をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分おいてから行ってください。

7. [ログアウト] をクリックします。

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法については、『プリンター』「テスト印刷する」を参照してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の [ネットワーク] ダイアログで変更します。
- Web Image Monitor については、P.101「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

Netware をリモートプリンターとして使用する

NetWare でネットワークプリンターを使用する場合の設定のしかたを説明します。
NetWare では本機を「リモートプリンター」として接続できます。

重要

- IPv6 環境ではご使用になれません。
- 工場出荷時の設定では NetWare が無効になっています。操作部の［システム初期設定］の［インターフェース設定］の［有効プロトコル］設定か、Web Image Monitor の「NetWare」設定か、telnet の set コマンドで、NetWare を有効にしてください。設定やコマンドについては、P.34「インターフェース設定」、Web Image Monitor のヘルプ、または P.121「telnet を使う」を参照してください。
- 本機能を使用するには、オプションの NetWare カードが必要です。

補足

- この章ではファイルサーバー名を CAREE とした設定例で説明しています。

Netware 6.5 の場合

重要

- NetWare 6.5 においてリモートプリンターとして使用する場合は、NDS モードで使用してください。
- ピュア IP 環境の場合、リモートプリンターとして使用できません。

NetWare アドミニストレータでの設定

1. **Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。**
2. **プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、［Object］メニューの［Create...］をクリックします。**
3. **［Class of new object］ボックスの［Print Queue］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。**
4. **［Print Queue name］ボックスにプリントキューの名前を入力します。**
5. **［Print Queue Volume］ボックスのブラウザーボタンをクリックします。**
6. **［Available objects］ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。**
7. **設定内容を確認し、［Create］をクリックします。**

8. プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[Object]メニューの[Create...]をクリックします。
9. [Class of new object]ボックスの[Printer (Non NDPS)]をクリックして反転表示させ、[OK]をクリックします。
10. [Printer name]ボックスにプリンターの名前を入力します。
11. [Define additional properties]をクリックしてチェックを付け、[Create]をクリックします。
12. 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。[Assignments]をクリックし、[Print queues]グループの[Add...]をクリックします。
13. [Available objects]ボックスで、あらかじめ前の手順で作成したキューをクリックして反転表示させ、[OK]をクリックします。
14. [Configuration]をクリックし、[Printer type]ボックスのドロップダウンメニューから[Parallel]を選び、[Communication]をクリックします。
15. [Connection type]グループの[Manual load]をクリックし、[OK]をクリックし、設定内容を確認して[OK]をクリックします。
16. プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[Object]メニューの[Create...]をクリックします。
17. [Class of new object]ボックスの[Print Server (Non NDPS)]をクリックして反転表示させ、[OK]をクリックします。
18. [Print Server name]ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。

    Web Image Monitor で設定したプリントサーバー名と一致させてください。
19. [Define additional properties]をクリックしてチェックを付け、[Create]をクリックします。
20. 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。[Assignments]をクリックし、[Printers]グループの[Add...]をクリックします。
21. [Available objects]ボックスで、あらかじめ前の手順で作成したプリンターをクリックして反転表示させ、[OK]をクリックします。
22. [Printers]グループで手順 20 で割り当てたプリンターをクリックして反転表示させ、[Printer Number...]をクリックします。
23. プリンター番号を入力し、[OK]をクリックし、設定内容を確認して[OK]をクリックします。

    Web Image Monitor で設定したリモートプリンター番号と一致させてください。
24. NetWare サーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。

    すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

停止する

CAREE: unload pserver

起動する

CAREE: load pserver

プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

Web Image Monitor での設定

1. **Web Image Monitor を起動します。**
2. **[ログイン] をクリックします。**

   [ログインユーザー名] と [ログインパスワード] の入力画面が表示されます。
3. **ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。**

   ログインユーザー名とログインパスワードは管理者に確認してください。

   お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。
4. **メニューエリアの [機器の管理] から [設定] をクリックします。**
5. **「ネットワーク」の [NetWare] をクリックします。**
6. **設定を確認し、[OK] をクリックします。**

   これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分おいてから行ってください。
7. **[ログアウト] をクリックします。**

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。システム設定リストの印刷方法については、『プリンター』「テスト印刷する」を参照してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の [ネットワーク] ダイアログで変更します。
- Web Image Monitor については、P.101「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

4. 機器の監視

ネットワークから、本機の状態を監視したり、設定を変更する方法を説明します。

Web ブラウザーを使う

Web ブラウザーを使って、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更することができます。この機能を Web Image Monitor といいます。

どんなことができるのか？

Web Image Monitor は、離れた場所にある機器の状態確認や設定変更を、ネットワークを介したパソコンの Web ブラウザー上からできる機能です。

Web Image Monitor では以下の操作ができます。

- 機器の状態／設定の表示
- ジョブの状態／履歴の確認
- 印刷中ジョブの中止
- 本機のリセット
- アドレス帳の管理
- 本機の各種設定
- ネットワークプロトコルに関する設定
- セキュリティーの設定
- ドキュメントボックスに蓄積されている文書の一覧表示／プロパティ表示／文書画像ファイルのダウンロード／削除／印刷／送信

本機の環境設定

この機能は TCP/IP プロトコルを使って動作します。Web Image Monitor を使用する場合は、本機で TCP/IP プロトコルの設定を行ってください。TCP/IP の設定が正しく行われると、この機能は自動的に有効になります。

推奨ブラウザー

- Windows 環境：

  Internet Explorer 6.0 以降

  Firefox 2.0 以降

- Macintosh 環境：

  Firefox 2.0 以降

  Safari 3.0 以降

また、Web Image Monitor はスクリーンリーダーに対応しています。推奨するアプリケーションと動作環境は次のとおりです。

- 95Reader Ver.6.0（XPReader）以降

- Windows OS、Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2 以降

補足

- 使用するブラウザーのバージョンが推奨ブラウザーより低い場合や、使用するブラウザーの設定で、「JavaScript」、「Cookie の使用許可」が有効になっていない場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。
- プロキシサーバーをご使用の場合、本機との接続にプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。詳しくはネットワーク管理者に確認してください。
- ブラウザーの［戻る］で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザーの［更新］または［再読み込み］をクリックしてください。
- Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新する場合は、Web Image Monitor のワークエリアに表示された［最新の情報に更新］をクリックしてください。
- Firefox をご使用の場合、テーブルのくずれ、フォントや色の相違などが発生することがあります。
- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- IPv6 環境下で Internet Explorer 7.0/8.0 を使用する場合、ブラウザーのアドレスバーには IP アドレスの代わりに本機のホスト名を入力してください。hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法については、P.264「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。
- Internet Explorer 8 を使用しているとき、ダウンロードに時間がかかることがあります。本体の URL を［インターネットオプション］から信頼済みサイトとして登録し、サイトの SmartScreen フィルター機能を無効にしてください。Internet Explorer 8 の設定について詳しくは、Internet Explorer 8 のヘルプを参照してください。
- Web ブラウザーに表示される URL をブックマーク登録すると、Web Image Monitor 画面をすぐに呼び出すことができます。登録する際は、ログイン前のトップページ画面で行ってください。ログイン後のトップページ画面で登録した場合は、正しく表示されません。
- ユーザー認証が設定されている場合、Web Image Monitor を表示するときにログインユーザー名とログインパスワードが必要です。詳細は、『本機のご利用にあたって』を参照してください。
- Web Image Monitor から設定する場合は、設定値が無効となる場合がありますので、操作部からのログインは行わないでください。

Web Image Monitor のトップページを表示する

Web Image Monitor の表示方法とトップページの説明です。

重要

- IPv4 アドレスを入力する場合は、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。

1. Web ブラウザーを起動します。

2. Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス）もしくは（ホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。

Web Image Monitor のトップページが表示されます。

DNS サーバー、WINS サーバーを使用し、本機のホスト名が設定されている場合、ホスト名を入力することができます。

サーバー証明を発行し、SSL（暗号化通信）の設定をしている場合は、「https://（本機の IP アドレス）もしくは（ホスト名）/」と入力します。

Web Image Monitor は、フレーム機能によって次のエリアに分割表示されます。

1. **メニューエリア**

   メニュー項目を選択すると、選択した内容が表示されます。

2. **ヘッダーエリア**

   ヘルプ、バージョン情報や、キーワード検索用のボタンが表示されます。

   また、ゲストモードと管理者モードを切り替えるために［ログイン］または［ログアウト］が表示されます。

3. **更新/ヘルプ**

   (最新の情報に更新)：［最新の情報に更新］をクリックすると、ワークエリア内の情報が更新されます。なお、Web ブラウザー画面全体を更新したい場合は、ブラウザーの［更新］をクリックしてください。

   (ヘルプ)：ヘルプファイルを閲覧したり、ダウンロードしたりすることができます。

4. **基本情報エリア**

   本機の基本情報が表示されます。

5. **ワークエリア**

   トップページでは、現在の機器の状態を表示します。

   また、メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。

ゲストモードと管理者モード

Web Image Monitor には、ゲストモードと管理者としてログインする管理者モードがあり、表示されるメニューが異なります。

また、お使いのオプションにより表示される項目が異なる場合があります。

ゲストモード

ログインせずに使用するモードです。

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。

管理者モード

管理者としてログインして使用するモードです。

管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。

管理者モードでアクセスする

Web Image Monitor に管理者モードでアクセスする方法です。

1. **Web Image Monitor のトップページで、［ログイン］をクリックします。**

ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

2. **ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。**

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者に確認してください。

お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。

Web Image Monitor の設定項目一覧

本機で使用できる Web Image Monitor の項目です。

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。

管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。

機器の情報

- 構成

メニュー	ゲストモード	管理者モード
機能	参照可	参照可
システム	参照可	参照可
バージョン	参照可	参照可
エミュレーション	参照可	参照可

- 状態

メニュー	ゲストモード	管理者モード
警告	参照可	参照可
メッセージ	参照可	参照可
状態	参照可	参照可
トナー	参照可	参照可
給紙トレイ	参照可	参照可
排紙トレイ	参照可	参照可

- カウンター

メニュー	ゲストモード	管理者モード
トータル	参照可	参照可
コピー	参照可	参照可
プリンター	参照可	参照可
ファクス	参照可	参照可
送信トータル	参照可	参照可

メニュー	ゲストモード	管理者モード
ファクス送信	参照可	参照可
スキャナー送信	参照可	参照可
カバレッジ	参照可	参照可
その他の機能	参照可	参照可

- eco 指数カウンター表示

メニュー	ゲストモード	管理者モード
eco 指数カウンター	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

- ジョブ

メニュー	ゲストモード	管理者モード
ジョブリスト	参照可	参照・変更とも可
プリンター	参照可	参照可
ファクス	参照・変更とも可	参照・変更とも可
ドキュメントボックス	参照・変更とも可	参照・変更とも可

- 問い合わせ情報

メニュー	ゲストモード	管理者モード
機械修理	参照可	参照可
営業窓口	参照可	参照可
消耗品	参照可	参照可

機器の管理

- 設定

機器

メニュー	ゲストモード	管理者モード
システム	参照可	参照・変更とも可
機能キー割り当て/優先機能設定	参照可	参照・変更とも可
用紙	参照可	参照・変更とも可
日付・時刻	参照可	参照・変更とも可
タイマー	参照可	参照・変更とも可
ログ	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ログダウンロード	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

メニュー	ゲストモード	管理者モード
メール	参照可	参照・変更とも可
自動メール通知	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
要求時メール通知	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ファイル転送	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ユーザー認証管理	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
管理者認証管理	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
管理者登録／変更	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
印刷利用量制限	参照・変更とも不可	参照・変更とも可 *1
LDAP サーバー	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ファームウェアアップデート	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
Kerberos 認証	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
連携先機器登録/変更/消去	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
機器設定情報のインポート設定（サーバー）	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
インポートテスト	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
機器設定情報のインポート/エクスポート	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
eco 指数カウンター集計期間／管理者メッセージ設定	参照可	参照・変更とも可
強制セキュリティー印字	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

*1 この項目は、ユーザー認証が有効の場合のみ参照・変更することができます。

プリンター

メニュー	ゲストモード	管理者モード
基本設定	参照可	参照・変更とも可
不正コピー抑止	参照・変更とも可	参照・変更とも可
トレイ読み替え（PCL）	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
トレイ読み替え（PS）	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
トレイ読み替え（RPDL）	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
イメージオーバーレイ用フォーム割り当て	参照可	参照・変更とも可
プリンターフォーム一覧	参照可	参照・変更とも可

メニュー	ゲストモード	管理者モード
PDF 一時パスワード	参照・変更とも可	参照・変更とも不可
PDF グループパスワード	参照・変更とも不可	変更可
PDF 固定パスワード	参照・変更とも不可	変更可
仮想プリンター設定	参照・変更とも可	参照・変更とも可

ファクス

メニュー	ゲストモード	管理者モード
導入設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
送受信設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
受信文書設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
IP-ファクス設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
IP-ファクスゲートウェイ設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
パラメーター設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

スキャナー

メニュー	ゲストモード	管理者モード
基本設定	参照可	参照・変更とも可
読み取り設定	参照可	参照・変更とも可
送信設定	参照可	参照・変更とも可
導入設定	参照可	参照・変更とも可
初期値登録（機器通常画面用）	参照可	参照・変更とも可
初期値登録（機器簡単画面用）	参照可	参照・変更とも可

インターフェース

メニュー	ゲストモード	管理者モード
インターフェース設定	参照可	参照・変更とも可
無線 LAN 設定	参照可	参照・変更とも可

ネットワーク

メニュー	ゲストモード	管理者モード
IPv4	参照可	参照・変更とも可
IPv6	参照可	参照・変更とも可
NetWare	参照可	参照・変更とも可
AppleTalk	参照可	参照・変更とも可
SMB	参照可	参照・変更とも可
SNMP	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
SNMPv3	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
SSDP	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
BMLinkS	参照可	参照・変更とも可
Bonjour	参照可	参照・変更とも可
システムログ	参照可	参照可

セキュリティー

メニュー	ゲストモード	管理者モード
ネットワークセキュリティー	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
アクセスコントロール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
IPP 認証	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
SSL/TLS	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ssh	参照可	参照・変更とも可
サイト証明書	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
機器証明書	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
S/MIME	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
IPsec	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
ユーザーロックアウト	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
IEEE 802.1X	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

@Remote

メニュー	ゲストモード	管理者モード
RC Gate セットアップ	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
RC Gate ファームウェア更新	参照・変更とも不可	参照可

メニュー	ゲストモード	管理者モード
RC Gate プロキシサーバー	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

Webpage

メニュー	ゲストモード	管理者モード
Webpage 設定	参照可*1	参照・変更とも可

*1 ゲストモードは、ヘルプファイルのダウンロードのみ実行できます。

拡張機能初期設定

メニュー	ゲストモード	管理者モード
起動設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
拡張機能情報	参照可	参照可
インストール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
アンインストール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
管理者用設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
追加プログラム起動設定	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
追加プログラムインストール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
追加プログラムアンインストール	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
拡張機能複製	参照・変更とも不可	参照・変更とも可
カードセーブデータ複製	参照・変更とも不可	参照・変更とも可

- アドレス帳

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも不可	参照・変更とも可

- 印刷取消

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも不可	変更可

- 機器のリセット

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも不可	変更可

- 機器のホーム画面の管理

メニュー	ゲストモード	管理者モード
アイコンの編集	参照可	参照・変更とも可
アイコンを初期値に戻す	参照・変更とも不可	変更可
ホーム画面設定	参照可	参照・変更とも可

文書操作

- ドキュメントボックス

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも可	参照・変更とも可

- ファクス蓄積受信文書

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも可	参照・変更とも不可

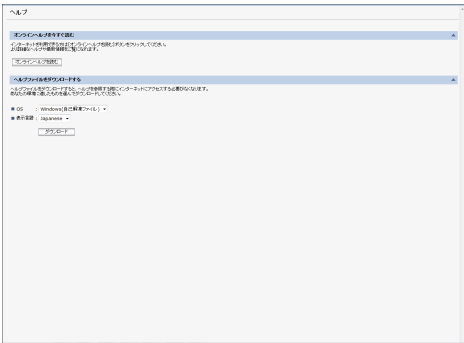
- プリンター文書印刷

ゲストモード	管理者モード
参照・変更とも可	参照・変更とも可

- セキュリティーの設定によっては、すべての項目が表示されない場合があります。

Web Image Monitor のヘルプについて

Web Image Monitor のヘルプを表示する方法です。

Web Image Monitor のヘルプをはじめてご使用になる場合、ヘルプボタン ( ) をクリックすると設定画面が表示され、2 種類の方法で Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。

インターネットの Web Image Monitor のヘルプを見る

最新の Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。

Web Image Monitor のヘルプをダウンロードして見る

Web Image Monitor のヘルプをお使いのパソコンのローカルディスクにダウンロードし、直接開いて見ることができます。

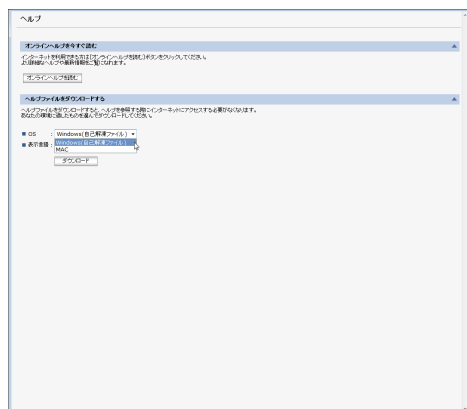
また、ヘルプファイルを Web サーバーに格納してヘルプボタンにリンクさせると、インターネットへ接続せずにヘルプを見ることができます。

補足

- ヘッダーエリアに表示されたヘルプボタン (?) をクリックすると、通常は Web Image Monitor のヘルプの目次を表示します。
- ワークエリアに表示されたヘルプボタン (?) をクリックすると、通常はワークエリアに表示された内容についてのヘルプを表示します。

4

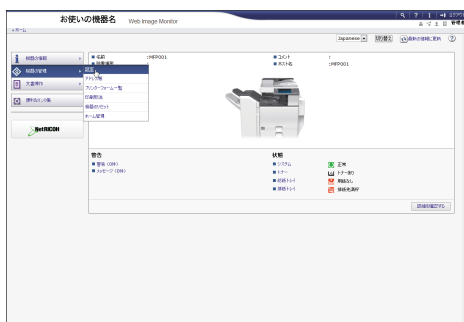
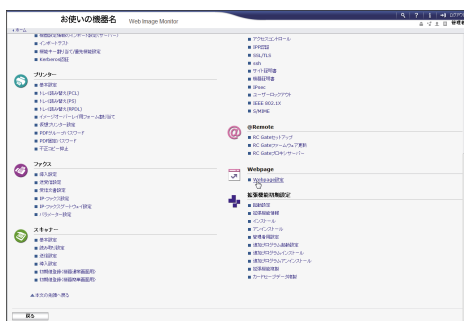
Web Image Monitor ヘルプをダウンロードする

1. 使用している OS をドロップダウンメニューから選択します。

2. 使用している言語をドロップダウンメニューから選択します。
3. [ダウンロード] をクリックします。
4. 表示されるメッセージに従って、ヘルプファイルをダウンロードします。
5. ダウンロードした圧縮ファイルを任意の場所に保存し、解凍します。

ヘルプボタン (? ?) からのリンクを設定するためには、ダウンロードしたヘルプファイルを Web サーバーに保存する必要があります。

ダウンロードしたヘルプへのリンク（URL）

Web サーバーに格納したヘルプファイルを、ヘルプボタン ( ) にリンクさせる方法です。

1. **管理者モードで Web Image Monitor にアクセスします。**
2. **メニューエリアの［機器の管理］から［設定］をクリックします。**

3. **「Webpage」の［Webpage 設定］をクリックします。**

4. **ヘルプリンク先設定の「URL」にヘルプファイルへのパスを入力します。**

   例えば、Web サーバー上にコピーしたファイルの URL が http://a.b.c.d/HELP/JA/index.html の場合、「http://a.b.c.d/HELP/」と入力します。

5. **［OK］をクリックします。**
6. **「設定の書き換え中」画面が表示されます。1〜2 分経過してから［OK］をクリックします。**

- ヘルプファイルをローカルディスクに保存した場合は、ヘルプボタン ( ) からのリンクはできません。その場合は、ヘルプファイルを直接開いてください。

機器の状態をメールで通知する

本機に用紙切れや紙詰まりなどのアラートが発生したときに、メール通知機能を使用して機器の状態などを通知することができます。

機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。

アラートを通知するタイミングや状態なども設定することができます。

重要

- **メールソフトによっては、メールを受信したときにフィッシングの警告が出ることがあります。回避方法については、メールソフトのヘルプを参照の上、送信者を警告対象外に設定してください。**

本機のメール通知機能は次の 2 種類です。

- 自動メール通知

  あらかじめ設定したメールアドレスに、機器の状態などをメールで自動通知する機能です。

- 要求時メール通知

  管理者からの要求に応じて、機器の状態などをメールで通知する機能です。

自動メール通知で設定できるものは、以下のとおりです。

- サービスコールが発生した場合
- トナーがなくなった場合
- トナーの残りがわずかになった場合
- 用紙ミスフィードがおきた場合
- カバーオープンが検知された場合
- 紙がなくなった場合
- 用紙の残りがわずかになった場合
- 給紙トレイでエラーが発生した場合
- 排紙トレイが満杯になった場合
- ユニットの接続にエラーが発生した場合
- 両面ユニットの接続にエラーが発生した場合
- 廃トナーボトルが満杯になった場合
- 廃トナーボトルが満杯に近づいた場合
- ステープラーの針がなくなった場合
- 故障時自動通報が成功した場合*1
- 故障時自動通報が営業時間外だった場合*1

- 故障時自動通報が失敗した場合*1
- 消耗品自動通報が成功した場合*1
- 消耗品自動通報が失敗した場合*1
- 遠隔診断機器接続エラーがおきた場合*1
- パンチくずが満杯になった場合
- ファームウェアアップデートを確認したい場合*1
- 文書保存領域が満杯に近づいた場合
- プロキシ認証エラーがおきた場合*1
- クリーニングフェルトの交換時期になった場合
- ステープルくずが満杯になった場合
- アクセス攻撃を検知した場合

*1 @Remote を使用している場合に設定できます。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。

2. メニューエリアの［設定］をクリックします。

3.「機器」の［メール］をクリックします。

4. 設定画面に示された以下の項目のうち、必要なものを設定します。

- 管理者メールアドレス：管理者メールアドレスを設定します。スキャナー文書のメール送信機能で、送信者を入力しない場合の送信者アドレスになります。
- 送信メール署名：本機から送信されるメールに追加する署名の設定を行います。
- 受信欄の各項目：メール受信の際に必要なプロトコルの設定を行います。
- SMTP 欄の各項目：SMTP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
  SMTP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。
- POP before SMTP 欄の各項目：POP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
  POP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。
- POP3/IMAP4 欄の各項目：POP3 サーバーまたは IMAP4 サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
- メール通信ポート欄の各項目：メールサーバーにアクセスする際に使用するポートの設定を行います。
- ファクスメールアカウント欄の各項目：インターネットファクスで使用する可能なメールアドレスやユーザー名、パスワードの設定を行います。
- メール通知アカウント欄の各項目：自動メール通知、または要求時メール通知を使用する場合に設定を行います。

5.［OK］をクリックします。

6. ［ログアウト］をクリックします。

7. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、P.101「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者に確認してください。
- お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。
- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

メール通知用アカウントの設定

メール通知用アカウントの設定について説明します。

「自動メール通知」と「要求時メール通知」を使用するためには、あらかじめメール通知用アカウントを設定する必要があります。Web Image Monitor にて以下の設定をしてください。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。
2. メニューエリアの［設定］をクリックします。
3. 「機器」の［メール］をクリックします。
4. 設定画面に示された以下の項目を設定します。
    - メール通知用メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。通知メールの差出人（From:）になります。要求メールを送るときは、このアドレスを宛先（To:）にします。
    - メール通知の受信：要求時メール通知機能を使用するかどうかを選択します。
    - メール通知ユーザー名：「メール通知用メールアドレス」に設定したメールアカウントのユーザー名を入力します。
    - メール通知パスワード：「メール通知用メールアドレス」に設定したメールアカウントのパスワードを入力します。
5. ［OK］をクリックします。
6. ［ログアウト］をクリックします。
7. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、P.101「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

- メール通知用アカウントでは、ファクスメールアカウントと同じユーザー名とメールアドレスが使えません。

メールの認証について

メールサーバーの不正利用を防止するために、メールの認証を設定できます。

SMTP 認証の場合

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証を行うことで SMTP サーバーの不正利用を防止します。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。
2. メニューエリアの［設定］をクリックします。
3. 「機器」の［メール］をクリックします。
4. 設定画面に示された以下の項目を設定します。
    - SMTP サーバー名：SMTP サーバー名を半角の英数字で指定します。
    - SMTP ポート番号：ポート番号を指定します。通常、SMTP で用いられるポート番号は「25」です。
    - SMTP 認証：SMTP 認証のする／しないを指定します。
    - SMTP 認証メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
    - SMTP 認証ユーザー名：SMTP アカウント名を半角の英数字で入力します。realmID を指定する場合には、SMTP 認証ユーザー名の後に@realmID の形式で追加してください。
    - SMTP 認証パスワード：使用する SMTP アカウントのパスワードを設定します。
    - SMTP 認証暗号化：SMTP 認証を有効にした場合に、パスワードの暗号化を行うかどうかを選択します。

      ［自動選択］：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

      ［有効］：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。

      ［無効］：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。
5. ［OK］をクリックします。
6. ［ログアウト］をクリックします。
7. Web Image Monitor を終了します。

POP before SMTP 認証の場合

メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーに対してログインを行うかどうかを選択します。

4

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。
2. メニューエリアの［設定］をクリックします。
3. 「機器」の［メール］をクリックします。
4. 設定画面に示された以下の項目を設定します。
    - POP before SMTP： POP before SMTP 認証のする／しないを設定します。
    - POP メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
    - POP ユーザー名：POP アカウント名を半角の英数字で入力します。
    - POP パスワード：使用する POP アカウントのパスワードを設定します。
    - POP 認証後待機時間：POP before SMTP を有効に設定した場合に、POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーに接続を開始するまでの時間を入力します。
5. ［OK］をクリックします。
6. ［ログアウト］をクリックします。
7. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、P.101「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

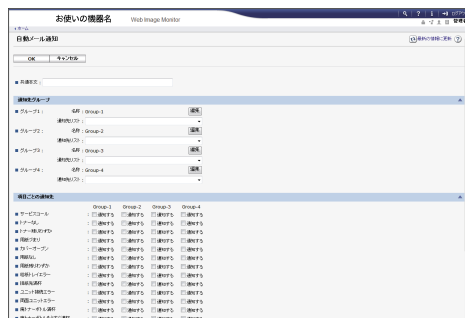
自動メール通知の設定

「自動メール通知」の設定について説明します。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。

2. メニューエリアの［設定］をクリックします。

3. 「機器」の［自動メール通知］をクリックします。

通知項目に関する設定画面が表示されます。

4. 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- 通知先グループの各項目：通知先アドレスをグループ分けして設定できます。

  項目ごとの通知先の各項目：機器の状態やエラーなど、各通知項目ごとに、メールを送信するグループを設定できます。

  項目の詳細を設定する場合は、［各項目の詳細設定］の［編集］をクリックし、表示される設定画面で各項目を設定して［OK］をクリックします。

5. ［OK］をクリックします。

6. ［ログアウト］をクリックします。

7. Web Image Monitor を終了します。

補足

- Web Image Monitor については、P.101「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

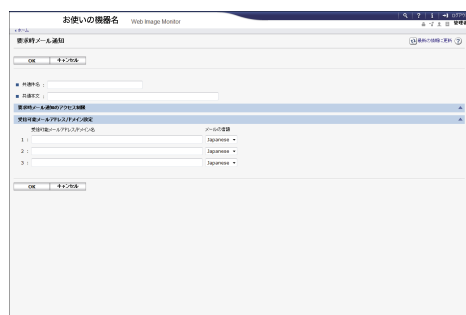
要求時メール通知の設定

「要求時メール通知」の設定について説明します。

1. Web Image Monitor に管理者としてログインします。

2. メニューエリアの［設定］をクリックします。

3. 「機器」の［要求時メール通知］をクリックします。

通知項目に関する設定画面が表示されます。

4. 設定画面に示された項目を設定します。

- 共通件名：返信メールの件名に共通で付加する文字列を入力します。
- 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。

- 機器状態情報通知の制限：機器の設定内容や状態などの情報へのアクセスを制限するかどうか選択します。
「有効」を選択すると、要求があっても返信メールを送信しません。
「無効」を選択すると、要求があれば返信メールを送信します。
- 受信可能メールアドレス／ドメイン設定の各項目：メールで情報を要求し、返信メールとして情報を受け取ることができるメールアドレスまたはドメイン名を入力します。

5. **[OK]をクリックします。**

6. **[ログアウト]をクリックします。**

7. **Web Image Monitor を終了します。**

補足

- Web Image Monitor については、P.101「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

要求メールの書式について

要求メールの書式について説明します。

要求時メール通知機能を使用するためには、定められた書式の要求メールを本機に対して送信する必要があります。

要求メールは、お使いのメールソフトにて以下の書式で記述してください。

項目	記述内容
To（メールソフトでは「宛先」などと表示される部分）	[通知用メールアドレス]に設定したメールアドレスを指定します。
Subject（メールソフトでは「件名」などと表示される部分）	requeststatus
From（メールソフトでは「送信者」、「差出人」などと表示される部分）	有効なメールアドレスを指定してください。機器の情報はここで指定されたアドレスに送信されます。

補足

- Subject の記述では、アルファベットの大文字・小文字を区別しません。
- 要求メールの本文には意味がありません。記述した内容はすべて無視されます。
- 要求メールの大きさは最大 1MB です。

telnet を使う

telnet を使って本機の状態や設定内容を確認や、各種の設定を行うことができます。

重要

- リモートメンテナンス（telnet）はセキュリティーを確保するため、パスワードを設定して運用してください。
- パスワードは Web ブラウザーによる設定（Web Image Monitor）で使用するパスワードと共通です。telnet 上でパスワードを変更すると、他のパスワードも変更されます。

telnet 操作の流れ

telnet を起動してから終了するまでの手順の説明です。

重要

- リモートメンテナンスを同時に複数のユーザーが使用することはできません。
- Windows Vista/7 をご使用の場合は、telnet クライアントおよび telnet サーバーを有効にしてからお使いください。

1. 本機の IP アドレス（またはホスト名）を引数にして telnet を起動します。

% telnet 本機の IP アドレス（またはホスト名）

2. ログイン名とパスワードを入力します。

ログイン名とパスワードは管理者に確認してください。

3. コマンドを入力します。

4. telnet を終了します。

msh> logout

設定が変更されていると変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5. 変更内容を保存するときは「yes」と入力し、[Enter] キーを押します。

変更内容を保存しないときは「no」と入力し、[Enter] キーを押します。コマンド入力を続けるときは「return」と入力し、[Enter] キーを押します。

補足

- 「Can not write NVRAM information」とメッセージが表示されたとき、変更内容は保存されていません。もう一度操作し直してください。
- 変更内容を保存すると自動的にネットワークインターフェースボードがリセットされます。

- リセットしても Active 状態である印刷中、または印刷処理待ちの印刷ジョブは印刷されますが、Waiting 状態であるプリンターへのファイル転送待ちのジョブは破棄されます。

access

アクセスコントロールの表示と設定は、access コマンドを使用します。また、アクセスレンジを複数設定することもできます。

現在の設定の表示

msh> access

IPv4 アクセスレンジの表示（エントリー番号指定）

msh> access 対象 ID range

IPv6 アクセスレンジの表示（エントリー番号指定）

msh> access 対象 ID range6

IPv6 アクセスマスクの表示（エントリー番号指定）

msh> access 対象 ID mask6

IPv4 のアクセスレンジの設定

msh> access 対象 ID range 開始アドレス　終了アドレス

（例）アクセス可能な IPv4 のアドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

msh> access 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20

IPv6 のアクセスレンジの設定

msh> access 対象 ID range6 開始アドレス　終了アドレス

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

msh> access 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200

IPv6 のアクセスマスクの設定

msh> access 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

msh> access 1 mask6 2001:DB8:: 32

アクセスコントロールの初期化

msh> access flush

- アクセスコントロールの初期化は、全てのアクセスレンジを工場出荷時の設定に戻し、IPv4 環境では「0.0.0.0」に、IPv6 環境では「::」となります。

補足

- IPv6 の各エントリーは、レンジ方式かマスク方式のいずれかで設定でき、レンジ指定方式の場合は、"始点アドレス- 終点アドレス"、マスク指定方式の場合は、"基準アドレス/マスク長"という形式で表示されます。
- アクセスレンジは、印刷できるワークステーションを IP アドレスを使って制限するためのものです。印刷を制限する必要がない場合は、IPv4 環境では「0.0.0.0」を、IPv6 環境では「::」を設定してください。
- アクセスレンジの設定で、開始アドレスが終了アドレスよりも大きい場合、設定は無効となります。
- IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1〜5 の 5 件が設定できます。
- IPv6 は 1 件ごとにレンジとマスクが選択できます。
- IPv6 のマスク長は 1〜128 の範囲で指定できます。
- 制限された IP アドレスからは、印刷の送信、および Web Image Monitor にアクセスすることはできません。

appletalk

AppleTalk 関連パラメータの表示や設定は、appletalk コマンドを使用します。

本コマンドは、PS3 カード、またはマルチエミュレーションカードが搭載されている場合のみ実行できます。

PAP の再送タイムアウト値変更の設定

msh> appletalk ptimeout 正の数[1〜]

- 印刷性能改善設定を有効にします。

msh> appletalk ptimeout = 0

- 印刷性能改善設定を無効にします。

authfree

認証限定制御の情報表示、設定は authfree コマンドを使用します。

現在の認証限定情報を表示

msh> authfree

IPv4／IPv6 の認証限定情報を表示

msh> authfree 対象 ID

IPv4 のアクセスレンジの認証限定情報を表示

msh> authfree 対象 ID range

IPv6 のアクセスレンジの認証限定情報を表示

msh> authfree 対象 ID range6

IPv6 のアクセスマスクの認証限定情報を表示

msh> authfree 対象 ID mask6

認証限定となる IPv4 アドレスの範囲を設定

msh> authfree 対象 ID range 開始アドレス 終了アドレス

（例）アクセス可能な IPv4 アドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

msh> authfree 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20

認証限定となる IPv6 アドレスをアクセスレンジで設定

msh> authfree 対象 ID range6 開始アドレス 終了アドレス

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

msh> authfree 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200

認証限定となる IPv6 アドレスをマスクレンジで設定

msh> authfree 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長

（例） アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

msh> authfree 対象 ID mask6 基準アドレス 2001:DB8:: 32

セントロ／USB の認証限定を設定

msh> authfree {parallel|usb} {on|off}

- 認証しない場合は「on」を、する場合は「off」を指定します。
- 工場出荷時の設定は「off」です。

認証限定の初期化

msh> authfree flush

- 認証限定の初期化は、認証限定に関するすべての設定値を工場出荷時に戻します。

補足

- authfree コマンドはプリンタージョブ認証が「簡易（限定）」に設定されているときのみ実行できます。
- IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1～5 件が設定できます。

autonet

AutoNet 機能を使用するには、autonet コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> autonet

AutoNet 機能の設定

msh> autonet {on|off}

- AutoNet 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

現在のインターフェース優先順位の表示

msh> autonet priority

インターフェースの優先設定

msh> autonet priority インターフェース

- AutoNet パラメーターを取得するインターフェースの優先順位を設定することができます。
- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。
- 工場出荷時の初期値は ether です。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

補足

- 現在のインターフェース優先順位の表示は、複数のインターフェース装着の有無に関わらず、現在の優先順位が表示されます。

bmlinks

BMLinkS の表示や設定は、bmlinks コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> bmlinks

BMLinkS の設定

msh> bmlinks パラメーター

パラメーター	設定される項目
plainonly {on|off}	平文通信強制の設定 デフォルトは off に設定されています。*1

4

パラメーター	設定される項目
paused {always｜selectable｜none}	Paused Print（機密印刷）の動作方式 デフォルトは selectable に設定されています。*2
timeout [30〜65535]	印刷データ受信タイムアウト時間（秒）を設定デフォルトは 900 に設定されています。
devicename	ネットワーク共通名を表示、設定します。
country 文字列	国名情報を設定します。 デフォルトは JP です。
orgnz 文字列	会社／組織名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
branch 文字列	支店名情報を設定します。 デフォルトでは off に設定されています。
building 文字	ビル名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
floor 文字列	階数情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
block 文字列	ブロック名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
clear country	国名をクリアします。
clear orgnz	会社／組織名をクリアします。
clear branch	部門名をクリアします。
clear building	ビル名をクリアします。
clear floor	階数をクリアします。
clear block	ブロック名をクリアします。

*1 機器共通設定の「SSL/TLS」が有効で、「暗号化通信モード」が暗号化優先あるいは暗号化／平文の場合のみこの設定が機能します。

*2 動作方式は「always：機密印刷のみ可能」、「none：通常印刷のみ可能」、「selectable：機密印刷と通常印刷の両方が可能」です。

bonjour

Bonjour 関連の表示と設定は、bonjour コマンドを使用します。

現在の設定の表示

```
msh> bonjour
```

サービス名の設定

msh> bonjour cname 文字列

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

設置場所情報の設定

msh> bonjour location 文字列

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

プロトコルごとの優先順位の設定

msh> bonjour diprint [0〜99]

msh> bonjour lpr [0〜99]

msh> bonjour ipp [0〜99]

- diprint、lpr、ipp それぞれの優先度を設定します。数字が小さいほど優先度が高くなります。初期値は diprint 10、lpr 20、ipp 30 です。

IP TTL 値の設定

msh> bonjour ipttl [1〜255]

- IP TTL 値（越えられるルーターの数）を設定します。初期値は 255 です。

サービス名と設置場所情報のリセット

msh> bonjour clear {cname|location}

- cname を指定するとコンピューター名をリセットします。本機を再起動すると、コンピューター名の表示は初期値になります。
- location を指定すると設置場所情報をリセットします。設置場所情報の表示は空欄になります。

インターフェースの設定

msh> bonjour linklocal インターフェース

- インターフェース名を省略した場合は、現在の設定値を表示します。
- 複数のインターフェースが装着されている場合に、linklocal アドレスとの通信を行うインターフェースを設定します。
- この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

IPP Advertising Port 番号の選択

msh>bonjour ippport {ipp|ssl}

- ssl の場合は、_ipp._tcp のポート番号を 443 として広告します。
- ipp の場合は、_ipp._tcp のポート番号を 631 として広告します。

btconfig

Bluetooth の設定は、btconfig コマンドを使用します。

現在の設定の表示

Bluetooth の設定が表示されます。

msh> btconfig

モード設定

Bluetooth の動作モードを{private}または{public}に設定できます。

msh> btconfig mode {private|public}

初期値は{public}です。

devicename

本体名の表示や設定は、devicename コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> devicename

本体名の設定

msh> devicename name　文字列

- 本体名は 31 バイト以下で指定します。
- 1 台の機器に複数の本体名を設定することはできません。

本体名の初期化

msh> devicename clear name

- 本体名を工場出荷時の設定に戻します。

dhcp

DHCP の設定は、dhcp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> dhcp

DHCP 機能の設定

msh> dhcp インターフェース{on|off}

- DHCP 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- DNS サーバーアドレスやドメイン名を DHCP から取得する場合、必ず「on」に設定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

現在のインターフェース優先順位の表示

msh> dhcp priority

インターフェースの優先設定

- DNS サーバーアドレスやゲートウェイアドレスが、どのインターフェースの DHCP サーバーのものを優先して利用するかを設定します。
- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。

DNS サーバーアドレスの選択

msh> dhcp dnsaddr {dhcp|static}

- DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

ドメイン名の選択

msh> dhcp "interface_name" domainname {dhcp|static}

- ドメイン名を DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- ドメイン名を DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

DHCP option 204 機能の設定と表示

msh> dhcp 204

- DHCP option 204 の設定が表示されます。

msh> dhcp 204 {on|off}

- DHCP option 204 機能の有効／無効を設定できます。

補足

- 詳細は、P.131「dns」、P.133「domainname」、P.291「DHCP を使用する」を参照してください。

dhcp6

dhcp6 関連パラメーターの表示、設定は、dhcp6 コマンドを使用します。

dhcp6 情報の表示

msh> dhcp6

DHCPv6 設定と表示

msh> dhcp6 {ether|wlan} {on|off}

パラメーター取得の動作モードの設定と表示

msh> dhcp6 mode {router|dhcpv6|dhcpv6lite}

IPv6 アドレス ID の設定と表示

msh> dhcp6 iaid {0-4294967295}

- 入力値は、0〜4294967295 です。

ドメイン名の RFC 準拠／RFC 非準拠の設定と表示

msh> dhcp6 encode rfc {on|off}

DNS サーバーアドレスの選択（dhcp6 サーバーからの取得値・ユーザー設定値）の設定と表示

msh> dhcp6 dnsaddr {dhcp|static}

DUID（dhcp ユニーク ID）の削除と表示

msh> dhcp6 duid {clear}

diprint

コンピューターから直接印刷を行うことができるダイレクトプリントポートの表示と設定は、diprint コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> diprint

次の設定値が表示されます。

port 9100

timeout = 300(sec)

bidirect on

conn multi

apl async

- 「port」使用するポート番号が表示されます。

- 「bidirect」ダイレクトプリントポートが双方向通信に対応しているか表示されます。

タイムアウトの設定

msh> diprint timeout ［30～65535］

- ネットワークからデータを受信する際のタイムアウト時間を設定できます。
- 工場出荷時の設定値は300（秒）です。
- lprコマンドにおいても、ここで設定した時間が使用されます。

双方向通信の設定

msh> diprint bidirect {on|off}

- 工場出荷時の設定値はOnです。

同時接続数の設定

msh> diprint conn {multi|single}

- diprintの同時接続数をmulti（複数）かsingle（1）か設定します。
- 工場出荷時の設定値はmultiです。

dns

DNS（Domain Name System）の表示や設定は、dnsコマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> dns

IPv4によるDNSサーバーの設定

msh> dns 対象ID server アドレス

- IPv4によるDNSサーバーアドレスを設定します。
- 対象IDは1～3までです。3件まで登録できます。
- 「255.255.255.255」は設定できません。

IPv6によるDNSサーバーの設定

msh> dns 対象ID server6 アドレス

- IPv6によるDNSサーバーアドレスを設定します。
- 対象IDは1～3までです。3件まで登録できます。

ダイナミックDNS機能の設定

msh> dns インターフェース ddns {on|off}

- ダイナミックDNS機能の有効／無効を指定します。
- ダイナミックDNS機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

レコード重複時の動作指定

msh> dns overlap {update|add}

- レコードが重複したときの動作を指定します。
- update は古いレコードを削除し、新しくレコードを登録するときに指定します。
- add は古いレコードを残し、新しいレコードを追加登録するときに指定します。
- CNAME の重複の場合は、設定にかかわらず更新を行います。

CNAME の登録

msh> dns cname {on|off}

- CNAME を登録するかどうかを指定します。
- CNAME の登録を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- 登録される CNAME は RNP からはじまるデフォルトの名前です。CNAME は変更できません。

A レコードの登録

msh> dns arecord {dhcp|own}

- dhcp は本機を代行して、DHCP サーバーが DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。
- own は本機が DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。登録には、「dhcp」で指定した「DNS サーバーアドレスの選択」および「ドメイン名の選択」の値が使用されます。

DDNS 機能有効時かつ DHCPv6 設定の場合に、AAAA レコード登録を行う DNS クライアント

dns aaaarecord [dhcpv6|own]

- dhcpv6：DHCPv6 サーバが機器の代わりに、DNS クライアントとして AAAA レコードの登録を行う。
- own：機器が DNS クライアントとして、自ら AAAA レコードの登録を行う。

レコードの更新間隔の設定

msh> dns interval 更新間隔時間

- ダイナミック DNS 機能を使用しているときに、レコードを更新する間隔を指定します。

- 更新間隔を 1 時間単位で指定します。1〜255 の間で指定します。
- 初期値は「24」です。

resolv.conf の表示

msh> dns resolv

- resolv.conf の表示を行います。

デュアルスタック時に名前解決の問い合わせに利用するプロトコルの設定

msh> dns resolv protocol {ipv4|ipv6}

- デュアルスタック時のみ表示されます。

domainname

4

ドメイン名の表示や設定は、domainname コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> domainname

現在の各インターフェースのドメイン名表示

msh> domainname インターフェース

各インターフェースのドメイン名設定

msh> domainname インターフェース name ドメイン名

- ドメイン名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- イーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースは同じドメイン名になります。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

各インターフェースのドメイン名削除

msh> domainname インターフェース clear name

etherauth

Ethernet での認証関連パラメーターの表示は、etherauth コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> etherauth

802.1X の有効・無効の設定

msh> etherauth 8021x {on|off}

etherconfig

イーサネットパラメーターの表示と設定は、etherconfig コマンドを使用します。

コマンド一覧の表示

msh> etherconfig

イーサネットスピードの設定

msh> etherconfig speed {auto|10f|10h|100f|100h}

- auto = 自動選択
- 10f = 10Mbps Full Duplex
- 10h = 10Mbps Half Duplex
- 100f = 100Mbps Full Duplex
- 100h = 100Mbps Half Duplex

工場出荷時の設定は、[auto]です。

help

使用できるコマンドの一覧および使用方法の表示は、help コマンドを使用します。

コマンド一覧の表示

msh> help

コマンド使用方法の表示

msh> help コマンド名

hostname

ホスト名を表示、変更するには、hostname コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> hostname

現在の各インターフェースのホスト名表示

msh> hostname インターフェース

各インターフェースのホスト名の設定

msh> hostname インターフェース name ホスト名

- ホスト名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- RNP ではじまる名前は、大文字、小文字が混ざった場合でも設定できません。
- イーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースは同じホスト名になります。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。
- インターフェース名を省略した場合、イーサネットのインターフェース名が設定されます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

各インターフェースのホスト名の初期化

msh> hostname インターフェース clear name

http

HTTP 関連の表示と設定は、http コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> http

HTTP キープアライブの有効／無効設定

msh> http keepalive {on | off}

HTTP キープアライブタイムアウト時間の設定

msh> http keepalive_timeout [1-255]

ifconfig

TCP/IP の、IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスの表示と設定、およびデフォルトゲートウェイアドレスの表示は、ifconfig コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> ifconfig

IPv4 アドレスの設定

msh> ifconfig インターフェース アドレス

- この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

（例）イーサネットインターフェースの IP アドレスを 192.168.15.16 に設定する

msh> ifconfig ether 192.168.15.16

IPv6 アドレスの設定

msh> ifconfig インターフェース inet6 アドレス プレフィックス長 [1-128]

（例）イーサネットインターフェースの IPv6 アドレスを 2001:DB8::100、プレフィックス長を 64 に設定する

msh> ifconfig ether inet6 2001:DB8::100 64

ネットマスクの設定

msh> ifconfig インターフェース netmask アドレス

（例）イーサネットインターフェースのサブネットマスクを 255.255.255.0 に設定する

msh> ifconfig ether netmask 255.255.255.0

ブロードキャストアドレスの設定

msh> ifconfig インターフェース broadcast アドレス

インターフェース切り替え

msh> ifconfig インターフェース up

（例）接続時にイーサネットを使用する

msh> ifconfig ether up

- 拡張無線 LAN ボード（オプション）接続時に、イーサネットと無線 LAN のどちらを使用するか指定することができます。

4

補足

- 設定するアドレスはネットワーク管理者に確認してください。
- 設定するアドレスがわからないときは、工場出荷時の設定のままご使用ください。
- IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスはイーサネットインターフェース、無線 LAN インターフェース共通です。
- TCP/IP の設定はイーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースで共通です。インターフェースの切り替えを行った場合、設定は切り替えたインターフェースが引き継ぎます。
- IPv4 アドレスを 16 進形式で設定する場合は先頭に「0x」を付けてください。

info

給紙トレイ、排紙トレイ、およびエミュレーションなどの機器情報の表示は、info コマンドを使用します。

機器情報の表示

msh> info

- 詳細は P.169「機器情報」を参照してください。

ipp

IPP の使用環境の表示、設定は、IPP コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> ipp

タイムアウトの設定

msh> ipp timeout [30〜65535]

- 印刷データが途切れた場合に、印刷ジョブを取り消すまでの時間を指定します。設定範囲は 30〜65535 秒です。

IPP ユーザー認証方式の設定

msh> ipp auth {off|digest|basic}

- IPP ユーザー認証を行って、IPP を使って印刷できるユーザーを制限することができます。工場出荷時はユーザー設定を行わない設定になっています。
- basic または digest で、認証を行います。
- ユーザー認証を行うように指定した場合、ユーザー名の登録を行ってください。ユーザーは 10 組まで登録できます。

IPP ユーザー名の登録

msh> ipp user

メッセージにしたがって設定します。

Input user number (1 to 10):

設定するユーザー番号を入力し、ユーザー名とパスワードを指定します。

IPP user name:user1

IPP password:*******

ユーザー名とパスワードが設定されると次のメッセージが表示されます。

IPP configuration changed

ipsec

IPsec 関連パラメーターの表示と設定は、ipsec コマンドを使用します。

関連パラメーターの表示

msh> ipsec

- IPsec の詳細については、『セキュリティーガイド』を参照してください。

ipv6

4

IPv6 の使用環境の表示、設定は、ipv6 コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> ipv6

ステートレスアドレスの有効／無効設定

msh> ipv6 stateless {on|off}

logout

telnet を終了します。

telnet の終了

msh> logout

確認メッセージが表示されます。

{yes|no|return}

[yes][no][return]のいずれかをフルスペルで入力してください。

- [yes]と入力すると、telnet が終了します。
- [no]と入力すると、telnet が続行します。
- [return]と入力すると、logout の再設定になります。

lpr

LPR の使用環境の表示、設定は、lpr コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> lpr

ジョブ削除時におけるホストの同一性チェックの有効／無効設定

msh> lpr chkhost {on|off}

- on に設定すると、ジョブを送信した IP アドレスと、ジョブの削除を要求している IP アドレスが一致するかどうかを判定します。一致しなかった場合はジョブの削除要求を受け付けません。
- 工場出荷時の設定値は on です。

プリンターエラー検知機能対応の有効/無効設定

msh> lpr prnerrchk {on|off}

- プリンターエラーなどで本機が印刷できない状態のとき、バイトカウントが有効になっていると、TCP ウィンドウサイズより小さなデータサイズのジョブや、host からの転送待ちデータサイズが TCP ウィンドウサイズ以下のジョブを重複して受信してしまうことがあります。on に設定すると、本機が印刷できる状態になるまでジョブを受信しません（PCFAX の送信も行えなくなります）。
- 工場出荷時の設定値は off です。

netware

プリントサーバー名、ファイルサーバー名などの NetWare 関連の表示、設定は、netware コマンドを使用します。

以下のコマンドは、オプションの Netware カードをインストールしたときに指定できます。

NetWare プリントサーバー名の設定

msh> netware pname 文字列

- NetWare プリントサーバー名を 47 文字以下で指定します。

NetWare ファイルサーバー名の設定

msh> netware fname 文字列

- NetWare ファイルサーバー名を 47 文字以下で指定します。

encap タイプの設定

msh> netware encap {802.3|802.2|snap|ethernet2|auto}

リモートプリンター番号の設定

msh> netware rnum [0〜254]

- 工場出荷時の設定値は 0 です。

タイムアウト値の設定

msh> netware timeout [3〜255]

- 工場出荷時の設定値は 15 です。

プリントサーバーモードへの設定

msh> netware mode pserver

msh> netware mode ps

リモートプリンターモードへの設定

msh> netware mode rprinter

msh> netware mode rp

NDS コンテキスト名の設定

msh> netware context 文字列

SAP インターバル値の設定

msh> netware sap_interval [0〜3600]

ログインモードをファイルサーバー指定に設定

msh> netware login server

ログインモードを NDS ツリー指定に設定

msh> netware login tree

ログインする NDS ツリー名の設定

msh> netware tree NDS ツリー名

ファイル転送プロトコルの設定

msh> netware trans {ipv4pri|ipxpri|ipv4|ipx}

- プロトコルを省略した場合は、現在のプロトコルを表示します。
- trans は、スキャナー機能が搭載されている場合のみ実行できます。

プロトコル	設定されるプロトコル
ipv4pri	IPv4+IPX（IPv4 優先）
ipxpri	IPv4+IPX（IPX 優先）
ipv4	IPv4
ipx	IPX

passwd

リモートメンテナンスのパスワードの変更は、passwd コマンドを使用します。

パスワードの変更

msh> passwd

- [Old password:]が表示されるので、現在のパスワードを入力します。
- [New password:]が表示されるので、新しいパスワードを入力します。

- [Retype new password:]が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

スーパーバイザーによる各管理者のパスワード変更

msh> passwd 管理者 ID

- [New password:]が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:]が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

補足

- パスワードは控えを取るなどして忘れないようにしてください。
- 入力できるのは半角英数字と表示可能な半角記号で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。

pathmtu

PathMTU Discovery サービス機能の表示、設定は、pathmtu コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> pathmtu

PathMTU Discovery サービス有効/無効の切替設定

msh> pathmtu {on|off}

- 工場出荷時は「ON」になっています。
- 送信データの MTU サイズが、ルーターの MTU より大きいと、ルーターから通過不可と通知され、送信に失敗することがあります。「ON」に設定をしていると、MTU サイズを最適化してデータ送信の失敗を避けることができます。
- 環境によってはルーターからの通知が得られず、データ送信に失敗することがあります。その場合は設定を「OFF」にして、PathMTU Discovery サービスを無効にしてください。

prnlog

プリントログ情報の表示は、prnlog コマンドを使用します。

プリントログ情報の表示

msh> prnlog

- これまでに印刷したプリントログ情報が表示されます。

msh> prnlog ID 番号

- 表示されたプリントログ情報の ID 番号を指定すると、印刷ジョブのさらに詳しい情報が表示されます。

補足

- 詳細は P.171「プリントログ情報」を参照してください。

rhpp

rhpp プロトコル情報の表示、設定は rhpp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> rhpp

使用するポート番号の変更

msh> rhpp port [1024〜65535]

- デフォルト値は 59100 です。

タイムアウトの設定（秒）

msh> rhpp timeout [30〜65535]

- デフォルト値は 300（秒）です。

補足

- rhpp は RICOH Host Print Protocol の略で、リコー独自のプロトコルです。

route

TCP/IP ルーティングテーブルの表示と設定は、route コマンドを使用します。

IPv4 の該当 route 情報の表示

msh> route get "destination"

- destination は IPv4 のアドレスを指定します。
  destination が 0.0.0.0 のアドレスは指定できません。

指定された IPv4 の destination の有効／無効の切り替え設定

msh> route active {host|net} destination {on|off}

- {host|net}省略時は host 設定となります。

IPv4 のルーティングテーブルへの追加設定

msh> route add {host|net} destination gateway

- destination で表される host（または network）ルートおよび gateway で表される gateway アドレスをテーブルに追加します。
- destination および gateway は IPv4 のアドレスを指定します。
- {host|net}省略時は host 設定となります。
- destination が 0.0.0.0 のレコードは登録できません。

IPv4のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

msh> route add default {gateway}

IPv4のルーティングテーブルからの削除設定

msh> route delete {host|net} destination

- {host|net}省略時はhost設定となります。
- destinationはIPv4のアドレスを指定します。

IPv6のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

msh> route add6 default {gateway}

指定されたIPv6のdestinationのルーティングテーブルへの追加設定

msh> route add6 destination prefixlen [1〜128] gateway

- destinationおよびgatewayはIPv6のアドレスを指定します。
- 宛先はprefixlenが1〜127の場合はネットワーク指定、128の場合はホスト指定となります。
- destinationとprefixlenの両方が登録済みレコードと一致する場合は登録できません。
- destinationが::(0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000)のレコードは登録できません。

指定されたIPv6のdestinationのルーティングテーブルからの削除設定

msh> route delete6 {destination} prefixlen

- destinationおよびgatewayはIPv6のアドレスを指定します。

IPv6の該当route情報の表示

msh> route get6 {destination}

- destinationはIPv6のアドレスを指定します。

指定されたIPv6のdestinationの有効／無効の切り替え設定

msh> route active6 destination prefixlen {on|off}

全route情報の削除設定

msh> route flush

補足

- IPv4のルーティングテーブルの最大値は16です。
- IPv6のルーティングテーブルの最大値は2です。
- ルーターを越えて別のネットワークのネットワーク機器とやりとりするときは、ゲートウェイアドレスを設定してください。
- ゲートウェイアドレスはすべてのインターフェース共通になります。
- Prefixlenは1〜128の10進数です。

set

プロトコルの情報の表示、有効／無効の設定は、set コマンドを使用します。

プロトコルの情報（有効／無効）の表示

msh> set ipv4

msh> set ipv6

msh> set ipsec

msh> set appletalk

msh> set netware

- このコマンドは、オプションの Netware カードをインストールしたときに指定できます。

msh> set smb

msh> set protocol

- protocol を指定すると、ipv4、ipv6、appletalk、netware、smb、pictbridge、ipsec の情報を表示します。

msh> set lpr

msh> set lpr6

msh> set ftp

msh> set ftp6

msh> set rsh

msh> set rsh6

msh> set diprint

msh> set diprint6

msh> set web

msh> set snmp

msh> set ssl

msh> set ssl6

msh> set nrs

msh> set rfu

msh> set rfu6

msh> set ipp

msh> set ipp6

msh> set http

msh> set http6

msh> set bonjour

msh> set bonjour6

msh> set nbt

msh> set ssdp

msh> set bmlinks

msh> set ssh

msh> set sftp

msh> set sftp6

msh> set wsdev

msh> set wsdev6

msh> set wsprn

msh> set wsscn

msh> set rhpp

msh> set rhpp6

msh> set lltd

msh> set pictbridge

msh> set llmnr

msh> set llmnrc

プロトコルの有効／無効の設定

- プロトコルを有効にするには up を、無効にするには down を指定します。

msh> set ipv4 {up|down}

- IPv4 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。
- IPv4 を無効にすると lpr、ftp、sftp、rsh、diprint、web、snmp、ssl、ipp、http、bonjour、wsdev も使用できなくなります。

msh> set ipv6 {up|down}

- IPv6 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。
- IPv6 を無効にした場合、lpr6、ftp6、rsh6、diprint6、ssl6、rfu6、ipp6、http6、sftp6、bonjour6、wsdev6 も使用できなくなります。

msh> set ipsec {up|down}

msh> set appletalk {up|down}

msh> set netware {up|down}

- このコマンドは、オプションの Netware カードをインストールしたときに指定できます。

msh> set smb {up|down}

msh> set lpr {up|down}

msh> set lpr6 {up|down}

msh> set ftp {up|down}

msh> set ftp6 {up|down}

msh> set rsh {up|down}

msh> set rsh6 {up|down}

msh> set diprint {up|down}

msh> set diprint6 {up|down}

msh> set web {up|down}

msh> set snmp {up|down}

msh> set ssl {up|down}

msh> set ssl6 {up|down}

- 本機に SSL（暗号化通信）の機能が無い場合は、有効に設定しても SSL（暗号化通信）を使用することはできません。

msh> set nrs {up|down}

msh> set rfu {up|down}

msh> set rfu6 {up|down}

msh> set ipp {up|down}

msh> set ipp6 {up|down}

msh> set http {up|down}

msh> set http6 {up|down}

msh> set bonjour {up|down}

msh> set bonjour6 {up|down}

msh> set ssh {up|down}

msh> set ssdp {up|down}

msh> set bmlinks {up|down}

msh> set nbt {up|down}

msh> set sftp {up|down}

msh> set sftp6 {up|down}

msh> set wsdev {up|down}

msh> set wsdev6 {up|down}

msh> set llmnr {up|down}

msh> set llmnrc {up|down}

- wsdev と wsdev6 が共に有効の場合、プロトコル情報の表示では共に「up」と表示されますが、WSD（Device）と WSD（Printer）と WSD（Scanner）は IPv4 で動作します。

msh> set wsprn {up|down}

msh> set wsscn {up|down}

msh> set rhpp {up|down}

msh> set rhpp6 {up|down}

msh> set lltd {up|down}

msh> set pictbridge {up|down}

msh> set llmnr {up|down}

msh> set llmnrc {up|down}

補足

- WSD（Printer）と WSD（Scanner）または WSD（Device）を IPv6 で動作させたい場合は、"wsdev down""wsdev6 up"と設定します。

show

ネットワークインターフェースボードの設定状況の表示は、show コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> show

- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- SMB プロトコルでコンピューター名、ワークグループ、コメントを日本語で入力したデータを正しく表示するためには、シフト JIS が表示できる環境で使用してください。

補足

- 詳細は P.171「プリントログ情報」を参照してください

slp

SLP の設定を表示、変更するには、slp コマンドを使用します。

msh> slp ttl ttl_val

- 工場出荷時の設定は 1 です。ローカルセグメント内のみで検索します。ただしこの TTL 値を増やした場合でも、ネットワーク環境でご使用のルーター装置がマルチキャストに対応していなければ無効です。
- 設定できる SLP パケットの TTL 値は 1～255 です。
- このコマンドは、オプションの Netware カードをインストールしたときに指定できます。

smb

コンピューター名やワークグループ名など SMB 関連の項目の設定、削除は、smb コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> smb

コンピューター名の表示

msh> smb comp

コンピューター名の設定

msh> smb comp コンピューター名

- 最大 15 文字（全角は 2 文字換算）で設定します。
- RNP または rnp ではじまる名前は、大文字小文字が混ざった場合でも設定できません。

ワークグループ名の表示

msh> smb group

ワークグループ名の設定

msh> smb group ワークグループ名

- 最大 15 文字（全角は 2 文字換算）で設定します。

コメントの表示

msh> smb comment

コメントの設定

msh> smb comment コメント

- 半角英数 31 文字以下で設定します。

印刷完了通知の設定

mmsh> smb notif {on|off}

- 印刷完了通知をする場合は on、通知をしない場合は off を指定します。

コンピューター名の削除

msh> smb clear comp

グループ名の削除

msh> smb clear group

コメントの削除

msh> smb clear comment

プロトコルの表示

msh> smb protocol

クライアントの優先ポートの表示

msh> smb client port

クライアントの優先ポートの設定

msh> smb client port {139|445}

クライアントの認証レベルの表示

msh> smb client auth

クライアントの認証レベルの設定

msh> smb client auth {0|1}

クライアントの WSD ブラウズの表示

msh> smb client wsd

クライアントの WSD ブラウズの設定

msh> smb client wsd {on|off}

snmp

コミュニティー名など SNMP に関する表示、設定は、snmp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> snmp

- 登録番号 1 の工場出荷時の設定は次のとおりです。

  コミュニティー名：public

  IPv4 アドレス：0.0.0.0

  IPv6 アドレス：::

  IPX アドレス：00000000:000000000000

  アクセスタイプ：read-only

  有効プロトコル：IPv4/IPv6/IPX

- 登録番号 2 の工場出荷時の設定は次のとおりです。

  コミュニティー名：ricoh

  IPv4 アドレス：0.0.0.0

IPv6 アドレス：::

IPX アドレス：00000000:000000000000

アクセスタイプ：read-write

有効プロトコル：IPv4/IPv6/IPX

- "IPX"は、オプションの Netware カードをインストールしたときに表示されます。
- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- 登録番号を指定すると、その番号の現在のコミュニティー設定内容を表示します。

SNMP 情報と使用可能なプロトコルの表示

msh> snmp ?

コミュニティー名の設定

msh> snmp 登録番号 name コミュニティー名

- 設定できる登録番号は 1〜10 です。
- 登録番号の 1〜10 に public が存在しない場合、Ridoc IO Analyzer や Ridoc IO Navi から機器を参照することはできません。コミュニティー名を変更した場合、RidocIO Analyzer とともにインストールされる「SNMP コミュニティー名設定ツール」で、機器側の設定に合わせてパソコンのコミュニティー名を変更してください。
- コミュニティー名は英数半角 15 文字以下で設定します。

コミュニティー名の削除

msh> snmp 登録番号 clear name

アクセスタイプの設定

msh> snmp 登録番号 type アクセスタイプ

アクセスタイプ	設定される内容
no	アクセスできません（not accessible）
read	情報の読み出しのみ可能（read-only）
write	情報の読み出しと書き込みが可能（read-write）
trap	エラー情報を通知（trap）

プロトコルの設定

msh> snmp {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}

- "ipx"は、オプションの Netware カードをインストールしたときに表示されます。
- 使用可能なプロトコルを選択します。
- プロトコルを有効にするには on を、無効にするには off を指定します。

- すべてのプロトコルを同時にOffにすることはできません。

登録番号ごとのプロトコルの設定

msh> snmp 登録番号 active {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}

- "ipx"は、オプションのNetwareカードをインストールしたときに表示されます。
- 登録番号ごとにプロトコルの設定を変更します。ただし、プロトコル設定で無効にしたプロトコルは、このコマンドで有効にしても使用できません。

アクセス設定

msh> snmp 登録番号 {ipv4|ipv6|ipx} アドレス

- "ipx"は、オプションのNetwareカードをインストールしたときに表示されます。
- 使用するプロトコルに応じたホストのアドレスを設定します。
- 「アクセスタイプ」を「read-only」または「read-write」に設定したときは、IPv4、IPv6、IPXの場合、ここに入力したアドレスのホストからの要求だけを受け付けます。どのホストからの要求でも受け付けるようにするには、「0」を入力します。
- 「アクセスタイプ」を「trap」に設定したときは、IPv4、IPv6、IPXの場合、情報を通知するホストのアドレスを入力します。
- IPv4を使用するときはアドレスとしてIPv4アドレスを、IPv6を使用するときはIPv6アドレスを、IPX/SPXを使用するときはIPXアドレスを入力します。
- IPXアドレスはホストが接続されているネットワークの番号とホストに取り付けられているネットワークインターフェースボードのMACアドレス（物理アドレス）をコロン（:）で区切って入力します。

sysLocationの設定

msh> snmp location 文字列

sysLocationの削除

msh> snmp clear location

sysContactの設定

msh> snmp contact 文字列

sysContactの削除

msh> snmp clear contact

SNMP v1v2機能の設定

mmsh> snmp v1v2 {on|off}

- 有効にする場合はon、無効にする場合はoffを指定します。

SNMP v3機能の設定

msh> snmp v3 {on|off}

- 有効にする場合はon、無効にする場合はoffを指定します。

SNMP TRAP の設定

msh> snmp trap {v1|v2|v3} {on|off}

- 有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

リモート設定許可の設定

msh> snmp remote {on|off}

- SNMP v1、v2 での設定を有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

SNMP v3 TRAP の設定値の表示

msh> snmp v3trap

msh> snmp v3trap [1〜5]

- 1〜5 までの数字を設定すると、その番号の設定値のみ表示します。

SNMP v3 TRAP 送信先アドレスの設定

msh> snmp v3trap [1〜5] {ipv4|ipv6|ipx} アドレス

- "ipx"は、オプションの Netware カードをインストールしたときに表示されます。

SNMP v3 TRAP 送信プロトコルの設定

msh> snmp v3trap [1〜5] active {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}

- "ipx"は、オプションの Netware カードをインストールしたときに表示されます。

SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの設定

msh> snmp v3trap [1〜5] account アカウント名

- アカウント名は英数半角 32 文字以下で設定します。

SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの削除

msh> snmp v3trap [1〜5] clear account

SNMPv3 認証アルゴリズムの設定

msh> snmp v3auth algo {md5|sha1}

SNMPv3 暗号アルゴリズムの設定

msh> snmp v3priv algo des/aes

SNMPv3 暗号化の設定

msh> snmp v3priv mode {auto|on}

- auto を設定すると、暗号化可能な場合に暗号化されます。
- on を設定すると、平文通信は不可能となり、暗号化可能な場合のみ通信ができます。

補足

- 暗号化可能な場合とは、本機に暗号パスワードが設定されている状態を指します。

- SNMP コミュニティー名設定ツールを使用する場合は、Ridoc IO Analyzer が必要です。Ridoc IO Analyzer は、リコーのホームページからダウンロードできます。詳しくは、『本機のご利用にあたって』「ダウンロードできるソフトウェア」を参照してください。

sntp

SNTP の表示、設定は、sntp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> sntp

NTP サーバーの IPv4/IPv6 アドレスの設定

msh> sntp server アドレス

NTP サーバーのホスト名の設定

msh> sntp server ホスト名

NTP サーバーの設定のクリア

msh> sntp server clear

インターバルの設定

msh> sntp interval インターバル値

- 設定した NTP サーバーと同期を取る間隔を指定します。工場出荷時の設定値は 60（分）です。
- 設定できる値は 0、15～10080（分）です。
- 0 を設定した場合には、本機の電源を入れたときに一度だけ NTP サーバーと同期を取ります。そのあとは同期を取りません。

タイムゾーンの設定

msh> sntp timezone ＋/ー時間

- NTP サーバーから取得した時刻情報との時間差を設定します。設定値はー12:00～＋ 13:00 です。

補足

- ntp サーバーには IP アドレスまたはホスト名のどちらか一方のみ設定できます。

spoolsw

スプール印刷の表示、設定は、spoolsw コマンドを使用します。スプール印刷設定は diprint、lpr、ipp、SMB（TCP/IP（IPv4））、BMLinkS、WSD（Printer）、ftp、および sftp プロトコルに対応しています。

現在の設定の表示

msh> spoolsw

スプール印刷機能の設定

msh> spoolsw spool {on|off}

- スプール印刷機能を有効にするには on を、無効にするには off を指定します。工場出荷時の設定は off です。

ジョブの初期化の設定

msh> spoolsw clearjob {on|off}

- スプールされたジョブの印刷中に本機の電源が切られた場合、本機の電源を再投入したときに、それまでスプールしていたジョブを初期化するかどうか指定します。off の場合はジョブを初期化せずに印刷を再開します。
- 工場出荷時の設定値は off です。

プロトコルの設定

msh> spoolsw diprint {on|off}

msh> spoolsw lpr {on|off}

msh> spoolsw ipp {on|off}

msh> spoolsw smb {on|off}

msh> spoolsw bmlinks {on|off}

msh> spoolsw ftp {on|off}

msh> spoolsw sftp {on|off}

msh> spoolsw wsprn {on|off}

- プロトコルごとにスプール印刷機能の有効、無効を設定します。
- 工場出荷時の設定値は全て on です。

ssdp

SSDP 関連パラメーターの表示、設定は、ssdp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> ssdp

有効時間の設定

msh> ssdp profile [1801〜86400]

- 工場出荷時の設定値は 10800（秒）です。

Advertise パケットの TTL の設定

msh> ssdp ttl [1〜255]

- 工場出荷時の設定値は 4 です。

ssh

SSH および SFTP 関連パラメーターの表示と設定は、ssh コマンドを使用します。

現在の設定の一覧表示

msh> ssh

データ圧縮通信の設定

msh> ssh compression {on|off}

- 工場出荷時の設定値は on です。

ssh／sftp で通信するポートの設定

msh> ssh port [22,1024〜65535]

- 工場出荷時の設定値は 22 です。

ssh／sftp で通信する際のタイムアウト確認（生存確認）の時間設定

msh> ssh timeout [0〜65535]

- 工場出荷時の設定値は 300 です。

ssh／sftp で通信する際のログインタイムアウトの時間設定

msh> ssh logintimeout [0〜65535]

- 工場出荷時の設定値は 300 です。

ssh／sftp で通信する際の公開鍵、公開鍵鍵長（Keylength）の作成

ssh genkey [{512|768|1024|2048|4096}]

- 工場出荷時の設定値は公開鍵鍵長（Keylength）が 2048、複雑化文字列は NULL（無）です。
- 使用できる文字列は、ASCII（0x20〜0x7e）文字列です。
- パラメーター省略時は初期値で公開鍵を作成します。
- このコマンドを実行して公開鍵を作成しない場合、システムログに以下のログが出力されます。

  "sshd stop : no hostkeys available　ERR:"

ssh／sftp で通信する際の公開鍵の削除

msh> ssh delkey

ssh/sftp 通信で使用する暗号アルゴリズムの設定

msh> ssh algorithm [{des|3des|aes128|aes192|aes256|blowfish|arcfour}]

補足

- 設定値を省略した場合は、現在の設定を表示します。

- ssh を使用できるのは sftp のみです。

status

本機の状態（ステータス）と印刷ジョブの情報（プリントジョブ情報）の表示は、status コマンドを使用します。

表示

msh> status

- 本機の状態（ステータス）の詳細は P.166「ネットワーク経由で確認できる情報」を参照してください。
- 印刷ジョブの情報の詳細は、P.171「プリントジョブ情報」を参照してください。

syslog

本機のシステムログ情報として記録されたメッセージの表示は、syslog コマンドを使用します。

メッセージの表示

msh> syslog

- システムログ情報の詳細は、P.180「システムログ情報」を参照してください。

upnp

ユニバーサル プラグ アンド プレイに関する表示、設定は、upnp コマンドを使用します。

公開 URL の表示

msh> upnp

公開 URL の設定

msh> upnp url URL

- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

web

Web Image Monitor 関連の表示、設定は、web コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> web

リンク先として登録する URL の設定

msh> web x url URL

- x は対象 ID の 1〜2 を指定します。2 件まで登録できます。
- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

リンク先として登録されている URL を削除する

msh> web x clear url

- x は対象 ID の 1〜2 を指定します。

リンク先として登録する URL のリンク名の設定

msh> web x name リンク名

- x は対象番号の 1〜2 を指定します。

リンク先として登録されている URL のリンク名を削除する

msh> web x clear リンク名

- x は対象 ID の 1〜2 を指定します。

ヘルプの参照先 URL の設定

msh> web help URL

- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

ヘルプの参照先 URL を削除する

msh> web clear help

wiconfig

無線 LAN の表示、設定は、wiconfig コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> wiconfig

無線 LAN ボードの情報の表示

msh> wiconfig cardinfo

- 無線 LAN インターフェースが有効になっていない場合、拡張無線 LAN ボードの情報は表示できません。

設定

msh> wiconfig パラメーター

パラメーター	設定される項目
mode {ap|802.11adhoc}	インフラストラクチャーモード（ap）または 802.11 アドホックモード（802.11 adhoc）の設定ができます。デフォルトはインフラストラクチャーモードです。
ssid 文字列	インフラストラクチャーモード時の SSID を設定できます。SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。空白の場合には自動で近くのアクセスポイントに接続します。デフォルトは空白です。
channel チャンネル番号	802.11 adhoc モードで使用するチャンネルを選択できます。使用する機器間で同じチャンネルを使用してください。デフォルトは 11 です。
key 文字列 val {1|2|3|4}	WEP キーを 16 進数で入力する場合に指定します。 64-bit WEP を使用する場合は、16 進数 10 桁の文字列が使用できます。128-bit WEP を使用する場合には、16 進数 26 桁の文字列が使用できます。WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。 key で WEP キーを指定すると、keyphrase で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。なお、入力する WEP キーの先頭に 0x をつけます。val 以降の指定は省略できます。省略した場合、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。
keyphrase 文字列 val {1|2|3|4}	WEP キーを ACSII 入力する場合に指定します。 64-bit WEP を使用する場合は、5 文字までの半角英数字、128-bit WEP を使用する場合には、13 文字までの半角英数字が使用できます。 WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。 keyphrase で WEP キーを指定すると、key で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。val 以降の指定は省略できます。省略した場合、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。

パラメーター	設定される項目
encval {1|2|3|4}	4 つの WEP キーのどれを使用してパケットを暗号化するかを指定します。 番号を指定しない場合は 1 が設定されます。
wepauth {open|shared}	WEP 使用時の認証モードを設定できます。 指定値と認証モードは次のとおりです。 open：オープンシステム認証（デフォルト） shared：シェアードキー認証
security {none|wep|wpa}	セキュリティー方式を設定できます。 設定値と認証方式は次のとおりです。 none:暗号化なし（デフォルト） wep:WEP 暗号化方式 wpa:WPA 暗号化方式
wpaauth {wpapsk|wpa|wpa2psk|wpa2}	WPA 使用時の認証モードを設定できます。 設定値は次のとおりです。 wpapsk：WPA-PSK 認証（デフォルト） wpa：WPA 認証 wpapsk2：WPA2-PSK 認証 wpa2：WPA2 認証
psk 文字列	Pre-Shared key を設定できます。 Pre-Shared key での入力できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20～0x7e）で 8 文字から 63 文字までです。デフォルトは空白です。
eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}	EAP 認証タイプを設定できます。 tls:EAP-TLS（デフォルト） ttls：EAP-TTLS leap：LEAP peap：PEAP {chap、mschap、mschapv2、pap、md5、tls}はフェイズ 2 メソッドの設定となっており、EAP-TTLS、PEAP を選択するときに同時に指定する必要があります。また、その他の EAP 認証タイプでは省略する必要があります。「EAP-TTLS」を選択した場合は、chap、mschap、mschapv2、pap、および md5 が指定できます。「PEAP」を選択した場合は、mschapv2、および tls が指定できます。
username 文字列	Radius サーバーへのログインユーザー名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20～0x7e）で 31 文字までです。デフォルトは空白となります。

パラメーター	設定される項目
username2 文字列	EAP-TTLS/PEAP のフェイズ 2 認証で使用するフェイズ 2 ユーザー名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 31 文字までです。デフォルトは空白です。
domain 文字列	Radius サーバーへのログインドメインを設定できます。 使用できる文字は半角英数字と"@"と"¥"以外の表示可能な半角記号（ASCII 0x200x7e）で 31 文字までです。デフォルトは空白です。
password 文字列	Radius サーバーへのログインパスワードを設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 128 文字までです。デフォルトは空白です。
srvcert {on|off}	サーバー証明書の認証を設定します。 デフォルトは off です。
imca {on|off}	サーバー認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可の設定ができます。 デフォルトは off です。
srvid 文字列	認証サーバーをサーバー ID 及びサブドメインで設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号（ASCII 0x20〜0x7e）で 128 文字までです。デフォルトは空白です。
subdomain [on|off]	サブドメインの許可の設定ができます。 デフォルトは off です。
connectinfo	コネクト情報を取得します。
clear {各コマンド 1 つ | all}	指定されたコマンドの設定値を初期化します。 all を指定するとすべての設定値を初期化します。
miccheck [on|off] *1	MIC チェックを有効にするかどうかを設定します。 デフォルトは on です。 off に設定すると改ざん検出が一切できなくなります。on の設定で使用することをお勧めします。

*1 拡張無線 LAN ボードが装着されている場合に使用できます。

wins

WINS サーバーの設定は、wins コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> wins

- DHCP から取得した IPv4 アドレスと WINS の IPv4 アドレスが異なった場合、DHCP から取得した IPv4 アドレスが有効です。

WINS 機能の設定

msh> wins インターフェース {on|off}

- WINS 機能を有効するには on を、無効にするときは off を指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

WINS サーバーのアドレス設定

msh> wins インターフェース {primary|secondary} IPv4 アドレス

- primary でプライマリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- secondary でセカンダリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- IP アドレスに、255.255.255.255 は指定できません。

NBT（NetBIOS over TCP/IP）スコープ ID の設定

msh> wins インターフェース scope スコープ ID

- スコープ ID は半角英数字 31 文字以内で指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、拡張無線 LAN ボード装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

wsmfp

WSD（Device）、WSD（Printer）、WSD（Scanner）、SSL の設定と表示は、wsmfp コマンドを使用します。

現在の設定の表示

msh> wsmfp

コメントの設定

msh> wsmfp comments 文字列

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

ロケーションの設定

msh> wsmfp location 文字列

- 文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

プレゼンテーション URL の設定

msh> wsmfp url URL

- 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

WSD（Device）の TCP ポートの設定

msh> wsmfp devport ポート番号

- 初期値は 53000 です。

WSD（Printer）の TCP ポートの設定

msh> wsmfp prnport ポート番号

- 初期値は 53001 です。

WSD（Printer）の受信タイムアウト（秒）の設定

msh> wsmfp prntimeout タイムアウト値 [30〜65535]

- 工場出荷時の設定値は 900（秒）です。

WSD（Scanner）の TCP ポートの設定

msh> wsmfp scnport ポート番号

- 初期値は 53002 です。

SSL の設定

msh> wsmfp ssl {on|off}

コメントを初期化する

msh> wsmfp clear comments

ロケーションを初期化する

msh> wsmfp clear location

プレゼンテーション URL を初期化する

msh> wsmfp clear url

8021x

IEEE 802.1X 関連パラメーターの表示、設定は 8021x コマンドを使用します。

関連パラメーターの設定一覧（カレント値）の表示

msh> 8021x

EAP タイプ及びフェイズ 2 メソッドの指定

msh> 8021x eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}

- 最後の引数は、その前の引数で[ttls]を指定した場合には[chap][mschap][mschapv2][pap][md5]が、[peap]を指定した場合には[mschapv2][tls]が指定できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

ユーザー名の指定

msh> 8021x username ユーザー名

- ユーザー名は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 31 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

フェイズ 2 ユーザー名の指定

msh> 8021x username2 ユーザー名

- ユーザー名は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 31 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

ドメイン名の指定

msh> 8021x domain ドメイン名

- ドメイン名は、[@]と[¥]をのぞいた半角英数と表示可能な半角記号で最大 64 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

パスワードの指定

msh> 8021x password パスワード

- パスワードは、半角英数と表示可能な半角記号で最大 128 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

サーバー証明書の認証を設定

msh> 8021x srvcert {on|off}

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

サーバー認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可を指定

msh> 8021x imca {on|off}

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

サーバー ID の指定

msh> 8021x srvid サーバー ID

- サーバー ID は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 128 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

サブドメイン許可の指定

msh> 8021x subdomain {on|off}

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

ユーザー名の消去

msh> 8021x clear username

フェイズ 2 ユーザー名の消去

msh> 8021x clear username2

ドメイン名の消去

msh> 8021x clear domain

パスワードの消去

msh> 8021x clear password

サーバー ID の消去

msh> 8021x clear srvid

IEEE 802.1X 関連パラメーターの初期化

msh> 8021x clear all

- 初期化しても IEEE 802.1X 認証有効化設定（イーサネット、無線 LAN 共に）は消去されません。

SNMP を使う

SNMP を使って本機の情報を取得する方法の説明です。

ネットワークに接続されている場合、UDP と IPX 上で動作する SNMP（Simple Network Management Protocol）エージェントが組み込まれています。

また、本機はユーザー認証、データの暗号化、アクセス制御のセキュリティー面が強化されている SNMPv3 にも対応しています。

SNMPv3 の暗号化通信を使用するためには、本機に暗号パスワードが設定されていることが必要です。

重要

- **本機のコミュニティー名を工場出荷時から変更した場合、SNMP コミュニティー名設定ツールを使用して接続するパソコンの設定を変更してください。詳しくは SNMP コミュニティー名設定ツールのヘルプを参照してください。**
- **SNMP コミュニティー名設定ツールを使用する場合は、Ridoc IO Analyzer が必要です。Ridoc IO Analyzer は、リコーのホームページからダウンロードできます。詳しくは、『本機のご利用にあたって』「ダウンロードできるソフトウェア」を参照してください。**

工場出荷時のコミュニティー名には「public」と「ricoh」が設定されています。このコミュニティー名で MIB 情報を取得することができます。

SNMP コミュニティー名設定ツールの起動

- Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし [プログラム] から [Ridoc IO Analyzer] をポイントして [SNMP コミュニティー名設定ツール] を起動します。
- Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし [すべてのプログラム] から [Ridoc IO Analyzer] をポイントして [SNMP コミュニティー名設定ツール] を起動します。

4

ネットワーク経由で確認できる情報

機器の状態や情報を表示したときの各項目の詳細です。

機器の状態

機器のステータスの確認方法と、表示される項目の説明です。お使いのオプションによっては、表示されないステータスがあります。

- UNIX の場合

  lpq、rsh、rcp、ftp、sftp の stat パラメーターを使います。

  Windows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet の場合

  status コマンドを使います。

メッセージ	内容
Add staples (Booklet: Back)	ブックレットフィニッシャーのステープル(奥)がなくなりました。
Add staples (Booklet: Both)	ブックレットフィニッシャーのステープルがなくなりました。
Add staples (Booklet: Front)	ブックレットフィニッシャーのステープル（手前）がなくなりました。
Call Service Center	エンジン部、またはコントローラー部に異常が発生しました。サービスに連絡してください。
Canceling Job...	ジョブをリセットしています。
Configuring...	設定を変更しています。
Cover Open: Finisher Front	フィニッシャー前カバーが開いています。
Cover Open: Front Cover	本体前カバーが開いています。
Cover Open: Interposer Upper	インサーターカバーが開いています。
Cover Open: LCT Cover	LCT カバーが開いています。
Cover Open: Mailbox	プリントポスト本体カバーが開いています。
Cover Open:FoldUnit Front Cover	折り機の前カバーが開いています。
Current Job Suspended	印刷が停止しています。
Empty: Black Toner	ブラックトナーがなくなりました。
Energy Saver Mode	省エネモード中です。
Error: Ethernet Board	イーサーネットボードに異常が発生しました。

メッセージ	内容
Error: HDD Board	ハードディスクエラーが発生しました。
Error: Optional Font	プリンターのフォントファイルにエラーが発生しました。
Error: Parallel I/F Board	パラレルインターフェースにエラーが発生しました。
Error: PDL	ページ記述言語にエラーが発生しました。
Error: Rem. Certificate Renewal	証明書の自動更新時にエラーが発生しています。
Error: USB Interface	USB インターフェースにエラーが発生しました。
Error: Wireless Board	拡張無線ＬＡＮボードまたは Bluetooth オプションにエラーが発生しました。
Error: Wireless Card	拡張無線ＬＡＮボードまたは Bluetooth オプションが起動後に抜かれました。
Full: Copy Tray	コピートレイが満杯です。
Full: Finisher Booklet Tray	フィニッシャー中とじトレイが満杯です。
Full: Finisher Shift Tray	フィニッシャーシフトトレイが満杯です。
Full: Finisher Upper Tray	フィニッシャー上トレイが満杯です。
Full: Folding Unit Tray	折り機トレイが満杯です。
Full: Hole Punch Receptacle	パンチくずが満杯です。
Full: Mailbox Tray x	メールボックスの x ビンが満杯です。
Full: Internal Tray 1	本体トレイが満杯です。
Full: Waste Toner	廃トナーが満杯です。
Hex Dump Mode	ヘキサダンプモード中です。
In Use: Folding Unit	他の機能が多機能折りユニットを使用しています。
In Use: Input Tray	他の機能が給紙トレイを使用しています。
In Use: Staple Unit	他の機能がステープルユニットを使用しています。
Jobs Suspended	一時停止中です。
Low: Toner	トナーカートリッジが正しくセットされていないか、トナーが残り少なくなりました。
Malfunction: Booklet Fin Stapler	中綴じユニットに異常が発生しました。
Malfunction: Booklet Processor	製本機に異常が発生しました。

メッセージ	内容
Malfunction: Finisher	フィニッシャーに異常が発生しました。
Malfunction: Finisher Stapler	ステープルユニットに異常が発生しました。
Malfunction: Finisher Tray	フィニッシャートレイに異常が発生しました。
Malfunction: Folding Unit	多機能折りユニットに異常が発生しました。
Malfunction: Interposer	インサーターに異常が発生しました。
Malfunction: LCT	大量給紙トレイに異常が発生しました。
Malfunction: Multi-hole Punch	多穴パンチユニットに異常が発生しました。
Malfunction: Output Tray	排紙トレイのシフト機能に異常が発生しました。
Malfunction: Tray 1	給紙トレイ 1 に異常が発生しました。
Malfunction: Tray 2	給紙トレイ 2 に異常が発生しました。
Malfunction: Tray 3	給紙トレイ 3 に異常が発生しました。
Mismatch: Paper Size	選択された給紙トレイのサイズが、指定されたものと異なります。
Mismatch: Paper Size and Type	選択された給紙トレイの用紙種類とサイズが、指定されたものと異なります。
Mismatch: Paper Type	選択された給紙トレイの用紙種類が、指定されたものと異なります。
Nearly Full: Waste Toner	廃トナーがもうすぐ満杯です。
Need more Staples	ステープル針を補給してください。
No Paper: Selected Tray	指定されたトレイに用紙がありません。
Not Detected: B2 Lever	B2 レバーセットが正しくセットされていません。
Not Detected: Input Tray	給紙トレイが正しくセットされていません。
Offline	オフライン状態です。
Paper in Aligner Tray	揃えトレイに用紙が残っています。
Paper in Duplex Unit	両面ユニットに用紙が残っています。
Paper in Finisher	フィニッシャーに用紙が残っています。
Paper in Folding Unit	紙折りユニットに用紙が残っています。
Paper Misfeed: Duplex Feed Unit	両面ユニットで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Finisher	フィニッシャーで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Folding Unit	紙折りユニットで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Input Tray	給紙トレイで紙づまりが発生しました。

メッセージ	内容
Paper Misfeed: Internal/Output	本体内部で紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Interposer	インサーターで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Mailbox	プリントポストで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Output Tray	排紙部で紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed:Booklet Processor	製本機で紙づまりが発生しました。
Printing...	印刷中またはデータ受信中です。
Proxy User/Password Incorrect	プロキシユーザー名・パスワードが正しく設定されていません。
RC Gate Connection Error	Remote Communication Gate と通信できません。
Ready	正常です。
Renewing Remote Certificate	Remote 証明書を更新中です。
Replace Cleaning Web	クリーニングフェルトが残りわずかです。
Reset IPDS fonts	IPDS フォントエラーが発生しました。
SD Card Authentication failed	SD カードからの認証に失敗しました。
Supplies Order Call failed	消耗品発注コールに失敗しました。
Suspend / Resume Key Error	フィニッシャーの停止ボタンが押されました。
Tray Error: Chaptering	章区切り紙に本文と同じトレイをしているため、給紙トレイ指定エラーが発生しました。
Tray Error: Duplex Printing	両面禁止トレイに両面印刷を指定したため、両面印刷設定トレイエラーが発生しました。
Warming Up...	準備中です。

補足

- エラーの内容は、システム設定リストや印刷条件一覧に印刷される場合があります。あわせてご確認ください。

機器情報

機器の給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション、および登録しているプログラムの情報の確認方法と項目の説明です。

- UNIX の場合

  rsh、rcp、ftp、sftp の info パラメーターを使います。

  Windows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet の場合

  info コマンドを使います。

給紙トレイ（Input Tray）

項目	内容
No.	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ名称が表示されます。
Paper Size	ご使用の機器に装着されている給紙トレイに設定されている用紙サイズが表示されます。
Status	給紙トレイの状態が表示されます。 • Normal：正常 • NoInputTray：トレイなし • PaperEnd：用紙なし

排紙トレイ（Output Tray）

項目	内容
No.	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ名称が表示されます。
Status	排紙トレイの状態が表示されます。 • Normal：正常 • PaperExist：用紙あり • OverFlow：用紙が満杯 • Error：その他エラー

エミュレーション（Emulation）

項目	内容
No.	ご使用の機器に装備されているエミュレーション番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装備されているエミュレーション名が表示されます。
Version	ご使用の機器に装備されている、各エミュレーションのバージョンが表示されます。

取得情報の内容

ネットワークインターフェースボードから取得できる情報の詳細です。

プリントジョブ情報

印刷待ちジョブの情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合

  lpq、rsh、rcp、ftp、および sftp の stat パラメーターを使います。

  Windows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet の場合

  status コマンドを使います。

項目	内容
Rank	印刷ジョブの状態が表示されます。 • Active 印刷中、または印刷処理待ち状態 • 1st、2nd、3rd、4th... プリンターへのファイル転送待ち状態
Owner	印刷要求元のログインユーザー名が表示されます。
Job	印刷要求番号が表示されます。
Files	ファイル名が表示されます。
Total Size	印刷ジョブのデータサイズが表示されます。*1

*1 複数のファイルを 1 ジョブとして投入した場合は、先頭ファイルのサイズが表示されます。

プリントログ情報

これまでに印刷したジョブの記録の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合

  rsh、rcp、ftp、および sftp の prnlog パラメーターを使います。

  Windows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet の場合

  prnlog コマンドを使います。

4

項目	内容
ID	印刷要求番号が表示されます。
User	印刷要求元のユーザー名、ワークステーション名、またはアドレスが表示されます。
Page	印刷したページ数が表示されます。
Result	通信結果が表示されます。 • Finished 通信上、印刷要求は正常に終了しました。ただしプリンター側の問題で印刷が正常に終了していない場合があります。 • Failed 印刷が正常に終了しませんでした。 • Canceled rcp、rsh、lpr コマンドの印刷要求が中止されました。印刷アプリケーションにより発生する場合があります。ftp、rprinter では発生しません。
Time	印刷要求受け付け時間が表示されます。
Use ID（telnet で Job ID を指定した場合）	ユーザー ID が表示されます。
JobName（telnet で Job ID を指定した場合）	ジョブ名が表示されます。

ネットワークインターフェースボードの情報

ネットワークインターフェースボードの設定内容の確認方法と、表示される項目の説明です。お使いのオプションやアプリケーションの導入状況によっては、表示されない項目があります。

- telnet の場合

  show コマンドを使います。

Common

次のプロトコルが表示されます。Up は有効、Down は無効になっています。

- Mode
- Protocol Up/Downn*1

  AppleTalk、IPv4、IPv6、IPsec、NetWare、SMB、PictBridge
- Device Up/Down*1

  Parallel、USB、Bluetooth
- Ethernet interface

- Syslog priority
- NVRAM version
- Device name
- Comment
- Location
- Contact
- Soft switch

*1 ネットワーク管理者でログインした場合、パラレル、USB、PictBridge は表示されません。機器管理者でログインした場合、パラレル、USB、PictBridge は表示されます。

TCP/IP

次の項目が表示されます。Up は有効、Down は無効になっています。

- Mode(IPv4)
- Mode(IPv6)

  ftp*1、lpr*1、rsh*1、diprint*1、web、http*1、ftpc、snmp、ipp*1、autonet、Bonjour*1、ssl*1、nrs、rfu*1、nbt、ssdp、ssh、sftp*1、WSD (Device)*1 *2、WSD (Printer)、WSD (Scanner)、rhpp*1、llmnr、llmnrc
- IPv4

  DHCP、Address、Netmask、Broadcast、Gateway
- IPv6

  Stateless、Manual、Gateway、DHCPv6、Mode、DUID、IAID、Encode RFC、Previous Lease Address
- IPsec

  Manual Mode、Excluded Protocol*3 (https、dns、dhcp、wins)
- EncapType*4
- Host name
- DNS Domain
- Access Control

  IPv4: Access Entry [1]-[5]

  IPv6: Access Entry*5 [1]-[5]
- SNTP Server*6 *7
- Time Zone*6
- SNTP Server polling time*6
- SYSLOG server
- Home page URL1
- Home page link name1

- Home page URL2
- Home page link name2
- Help page URL
- RHPP Port
- RHPP timeout
- HTTP Keep -Alive
- HTTP Keep -Alive timeout

*1 以下項目のいずれかが表示されます。

- IPv4:Up, IPv6:Up => Up (IPv4/IPv6)
- IPv4:Up, IPv6:Down => Up (IPv4)
- IPv4:Down, IPv6:Up => Up (IPv6)
- IPv4:Down, IPv6:Down => Down

*2 IPv4/IPv6 が同時に有効の場合、"WSD(Device):"に"Up (IPv4/IPv6)"と表示されますが、IPv4 でのみ動作し、IPv6 では動作しません。また"Common IPv4:Down, IPv6:Up"の場合も、"WSD(Device):"に"Up (IPv4/IPv6)"と表示されても IPv6 では動作しません。

*3 除外するプロトコルごとに on/off が表示されます。

*4 以下のいずれかが表示されます。なお、オプションの Netware カードが搭載されていない場合、IPX は表示されません。

- IPv4:Up, IPv6:Up, IPX:Up => IPv4 IPv6 IPX
- IPv4:Up, IPv6:Up, IPX:Down => IPv4 IPv6
- IPv4:Up, IPv6:Down, IPX:Up => IPv4 IPX
- IPv4:Down,IPv6:Up, IPX:Up => IPv6 IPX
- IPv4:Up, IPv6:Down, IPX:Down => IPv4
- IPv4:Down, IPv6:Up , IPX:Down => IPv6
- IPv4:Down, IPv6:Down, IPX:Up => IPX

*5 プリンタージョブ認証の除外対象となる IPv6 アドレスをアクセスレンジで設定している場合、「AutheFree Entry」には開始アドレスと終了アドレスが表示されます。プリンタージョブ認証の除外対象となる IPv6 アドレスをマスクレンジで設定している場合、「AutheFree Entry」には基準アドレスとマスク長が表示されます。

*6 タイムサーバ関連の項目は、機器管理者でログインした場合に表示されます。この場合、大項目の「TCP/IP:」も表示します。

*7 SNTP Server には NTP サーバアドレスまたは NTP サーバ名が表示されます。

NetWare

次の項目が表示されます。

- EncapType
- RPRINTER number

- Print server name
- File server name
- Context name
- Switch

  Mode、NDS/Bindery、Packet negotiation、Login Mode
- Print job timeout
- Protocol
- SAP interval time
- NDS Tree Name
- Transfer Protocol

SMB

次の項目が表示されます。

- Switch
- Mode、Direct print、Notification
- Workgroup name
- Computer name
- Comment
- Share name [1]
- Protocol
- Client port
- Client auth level
- Client WSD browse

Wireless LAN

次の項目が表示されます。

- Host name
- Communication Mode
- SSID
- Channel
- Security
- WEP Authentication
- WEP Encryption key number
- WEP Encryption keys [1]-[4]
- WPA Encryption
- WPA Authentication

- Pre-Shared Key
- User name
- Domain name
- EAP Type
- Password
- Phase 2 user name
- Phase 2 Method TTLS
- Phase 2 Method PEAP
- Server cert、Intermediate CA
- Server ID
- Sub domain
- Mic check

Ethernet

次の項目が表示されます。

- 802.1X Authentication

DNS

次の項目が表示されます。

- IPv4

  Server [1]-[3]、Selected IPv4 DNS Server

- IPv6

  Server [1]-[3]、Selected IPv6 DNS Server

- Resolver Protocol*1

*1 IPv4 と IPv6 がともに有効(デュアルスタック時)の状態であるときのみ表示します。

Domain name

次の項目が表示されます。

- ether
- wlan

DDNS

次の項目が表示されます。

- ether
- wlan

WINS

次の項目が表示されます。

- ether

Primary WINS、Secondary WINS

- wlan

  Primary WINS、Secondary WINS

Bluetooth

次の項目が表示されます。

- Bluetooth mode

SSDP

次の項目が表示されます。

- UUID
- Profile
- TTL

UPnP

次の項目が表示されます。

- URL

Bonjour

次の項目が表示されます。

- Computer Name (cname)
- Local Hostname (ether)
- Local Hostname (wlan)
- Location
- Priority (diprint)
- Priority (lpr)
- Priority (ipp)
- IP TTL
- LinkLocal Route for Multi I/F
- IPP Port

SNMP

次の項目が表示されます。

- SNMPv1v2
- SNMPv3
- protocol*1
- v1Trap
- v2Trap
- v3Trap

- SNMPv1v2 Remote Setting
- SNMPv3 Privacy

*1 以下のいずれかが表示されます。なお、オプションの Netware カードが搭載されていない場合、IPX は表示されません。

- IPv4:Up, IPv6:Up, IPX:Up => IPv4 IPv6 IPX
- IPv4:Up, IPv6:Up, IPX:Down => IPv4 IPv6
- IPv4:Up, IPv6:Down, IPX:Up => IPv4 IPX
- IPv4:Down,IPv6:Up, IPX:Up => IPv6 IPX
- IPv4:Up, IPv6:Down, IPX:Down => IPv4
- IPv4:Down, IPv6:Up , IPX:Down => IPv6
- IPv4:Down, IPv6:Down, IPX:Up => IPX

ssh

次の項目が表示されます。

- Compression
- Port
- TimeOut
- LoginTimeOut

AuthFree*1

次の項目が表示されます。

- IPv4

  AuthFree Entry [1]-[5]

- IPv6

  AuthFree Entry*2 [1]-[5]

- Parallel
- USB

*1 次の 3 条件を満たした場合にのみ、本項目が表示されます。ユーザー認証が有効な場合、プリンタージョブ認証が「簡易（限定）」に設定されている場合、機器管理者でログインされている場合。

*2 プリンタージョブ認証の除外対象となる IPv6 アドレスをアクセスレンジで設定している場合、「AutheFree Entry」には開始アドレスと終了アドレスが表示されます。プリンタージョブ認証の除外対象となる IPv6 アドレスをマスクレンジで設定している場合、「AutheFree Entry」には基準アドレスとマスク長が表示されます。

LPR

次の項目が表示されます。

- lprm check host
- lpr prnerrchk

Certificate

次の項目が表示されます。

- Verification

WS-MFP

次の項目が表示されます。

- Network Device Name
- Comments
- Location
- Presentation URL
- WSD (Device) TCP Port
- WSD (Printer) TCP Port
- WSD (Printer) Job Timeout
- WSD (Scanner) TCP Port
- SSL /TLS
- MetadataVersion
- UUID

IEEE 802.1X

次の項目が表示されます。

- User name
- Domain name
- EAP Type
- Password
- Phase 2 user name
- Phase 2 Method TTLS
- Phase 2 Method PEAP
- Server cert
- Intermediate CA
- Server ID
- Sub domain

Shell mode

「User mode」と表示されます。

メッセージ一覧

プリンターのシステムログ情報として記録されるメッセージと、ユーティリティーやコマンドの使用時に表示されるメッセージの一覧です。

システムログ情報

システムログ情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合

  rsh、rcp、ftp、sftp の syslog パラメーターを使います。

  Widows では、rsh/rcp が使用できません。

- telnet の場合

  syslog コマンドを使います。

メッセージ	内容と解決方法
Access to NetWare server ＜ファイルサーバー名＞ denied. Either there is no account for this print server on the NetWare server on password was incorrect.	プリントサーバーが作動しているとき、ファイルサーバーにログインすることができません。 ＜ファイルサーバー名＞上にプリントサーバーが登録されているか確認してください。 プリントサーバーにパスワードを設定している場合はパスワードを削除してください。
account is unavailable: same account name be used.	一般ユーザーアカウント名と管理者アカウント名が重複しているため、一般ユーザーアカウント名が無効になりました。どちらかのアカウント名を別のものにしてください。
account is unavailable: The authentication password is not set up.	認証パスワードが設定されておらず、暗号パスワードのみ設定されているため、アカウントが無効になりました。暗号パスワードを削除するか、認証パスワードを入力してください。
account is unavailable: encryption is impossible.	暗号化できないため、アカウントが無効になりました。以下の理由が考えられます。 • セキュリティーオプションが装着されていない。 • 暗号化パスワードが設定されていない。
add_sess_IPv4: bad trap addr: <IPv4 アドレス>, community: ＜コミュニティー名＞	コミュニティーのアクセスタイプが Trap の場合、IPv4 のアドレス 0.0.0.0 は無効です。 Trap 送信先ホストの IPv4 アドレスを指定してください。

メッセージ	内容と解決方法
add_sess_IPv6: bad trap addr: <IPv6 アドレス>, community: <コミュニティー名>	コミュニティーのアクセスタイプが Trap の場合、IPv6 のアドレス [: :]は無効です。Trap 送信先ホストの IPv6 アドレスを指定してください。
add_sess_IPv4: community <コミュニティー名> already defined.	コミュニティー名が重複しています。他のコミュニティー名と重複しない名前を設定してください。
add_sess_IPv6: community <コミュニティー名> already defined.	コミュニティー名が重複しています。他のコミュニティー名と重複しない名前を設定してください。
add_sess_IPX: bad trap addr: <IPX アドレス> community <コミュニティー名>	コミュニティーのアクセスタイプが Trap の場合、IPX アドレス 00:00:00:00:00:00 は無効です。Trap 送信先ホストの IPX アドレスを指定してください。
add_sess_IPX: community <コミュニティー名> already defined.	コミュニティー名が重複しています。他のコミュニティー名と重複しないコミュニティー名を設定してください。
adjust time server <NTP サーバー名> offset: xx sec.	ncsd が NTP サーバーとの時刻同期時に、システム時刻の修正結果を知らせます。 NTP サーバー：NTP サーバー名 offset：遅らせた秒数（マイナスの場合は進めた秒数）
Attach FileServer=<ファイルサーバー>	ニアレストサーバーとして<ファイルサーバー>にアタッチしました。
Attach to print queue <プリントキュー名>	プリントサーバーが動作しているとき、<プリントキュー名>にアタッチしました。
btd is disabled.	セキュリティーモードで btd が無効に設定されているため、Bluetooth 通信ができません。 セキュリティーモードで btd を有効にしてください。
centrod is disabled.	セキュリティーモード設定で centrod（パラレル）が無効に設定されている場合、centrod（パラレル）起動後に出力されます。この場合、パラレル通信はできません。セキュリティーモード設定で centrod（パラレル）を有効にしてください。
child process exec error ! (プロセス名)	ネットワーク関連のプロセス起動に失敗しました。電源を再投入しても回復しない場合は、サービス実施店にご連絡ください。
Connected DHCP server <DHCP サーバーアドレス>	DHCP サーバーからの IP アドレス取得に成功しました。

4

メッセージ	内容と解決方法
Connected DHCPv6 server ＜IPv6 アドレス＞	接続した DHCPv6 サーバーは、＜IPv6 アドレス＞です。本メッセージは、初回の DHCPv6 サーバー接続時にのみ表示されます。再接続時には表示されません。
connection from ＜IP アドレス＞	ホスト＜IP アドレス＞よりログインされました。
Could not attach to FileServer ＜エラー番号＞	リモートプリンターが起動しているとき、ファイルサーバーにアタッチできません。ファイルサーバーが何らかの理由で接続を拒否しています。
Could not attach to PServer ＜プリントサーバー名＞	リモートプリンターが起動しているとき、プリントサーバーにアタッチできません。プリントサーバーが何らかの理由で接続を拒否しています。
Current Interface Speed: xxx Mbps	現在の Ethernet I/F の速度です。（10Mbps、100Mbps、または 1Gbps）
Current IP address (＜現在の IP アドレス＞)	DHCP サーバーから取得した＜現在の IP アドレス＞で動作します。
Current IPX address ＜IPX アドレス＞	IPX アドレスが＜IPX アドレス＞です。
dpsd is disabled.	セキュリティーモード設定により PictBridge が無効に設定されている場合、DSC をプリンタに接続した際に出力されます。この場合、PictBridge は利用できません。セキュリティーモード設定にて、PictBridge を有効にしてください。
DHCP lease time expired.	DHCP リース切れになりました。DHCP Discover を再び行います。なお、使用していた IP アドレスが使用できなくなります。
DHCP server not found.	DHCP サーバーが見つかりませんでした。ネットワーク上に DHCP サーバーが起動していることを確認してください。
DHCPv 6 address LeaseTime expired	DHCPv6 アドレスのリース期限切れになりました。DHCPv6 サーバーに IPv6 アドレスを再度要求します。今まで使用していた DHCPv6 アドレスは使用できません。 ネットワーク上に DHCPv6 サーバーが起動していることを確認してください。

メッセージ	内容と解決方法
DHCPv 6 address not leased (StatusCode = <ステータスコード>)	なんらかの理由により、DHCPv6 サーバーから IPv6 アドレスを取得できませんでした。ステータスコードの内容を確認してください。 <ステータスコード>:DHCPv6 メッセージやオプションの状態を表します。エラー時のステータスコードには以下のものがあります。 UnspecFail(1)：原因不明のエラーの発生しています。あるメッセージに対して不適切なオプションを含めた場合、この状態コードが返ることがあります。 NoAddrsAvail(2)：割り当てられる IPv6 アドレスがありません。 NoBinding(3)：指定の IPv6 アドレスが指定の IPv6 アドレス集合内にありません。 NotOnLink(4)：指定の IPv6 アドレスのプレフィックスが不適切です。 UseMulticast(5)：メッセージ送信はマルチキャストで行ってください。
DHCPv 6 client started	DHCPv6 クライアントが起動しました。
DHCPv 6 address RenewTime =<更新間隔>(秒), LeaseTime =<リース時間>(秒)	DHCPv6 サーバーから取得した IPv6 アドレスの更新要求を出すまでの時間は<更新間隔>（秒)、有効期限は<リース時間>（秒）です。 <更新間隔>：DHCPv6 サーバから取得した IPv6 アドレスの更新要求を出すまでの時間 <リース時間>：リース時間が経過した場合、設定されていた IPv6 アドレスが使用できなくなります。
DHCPv 6 Parameter RefreshTime = <更新間隔>(秒)	DHCPv6 サーバから取得したパラメータの更新要求を出すまでの時間は<更新間隔>（秒）です。 パラメータとは、DNS サーバアドレス、DNS サーチパスなどの DHCPv6 アドレス以外の情報のことです。 <更新間隔>：パラメータの再取得要求までの時間
DHCPv 6 client terminated	DHCPv6 クライアントが終了しました。
DHCPv6 server not found	DHCPv6 サーバーがみつかりません。ネットワーク上に DHCPv6 サーバーが起動していることを確認してください。
Duplicate IP=< IP アドレス>(from <MAC アドレス>).	本機に設定された IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスが重複しています。IP アドレスはそれぞれ固有でなければなりません。表示された MAC アドレスの機器をチェックしてください。

メッセージ	内容と解決方法
Established SPX Connection with PServer, (RPSocket=<ソケット番号>, connID=<コネクション ID>)	リモートプリンターが起動しているとき、プリントサーバーとコネクションを確立しました。
exiting	lpd のサービスを終了しプロセスを EXIT しています。
Exit pserver	プリントサーバーが起動しているとき、必要な設定がされていないため、プリントサーバーを終了しました。
Frametype=<フレームタイプ名>	NetWare で使用するフレームタイプを<フレームタイプ名>に設定しました。
httpd start.	httpd が起動しました。
IEEE 802.11 Card does NOT support WPA.	WPA をサポートしていない無線 LAN ボードが装着されています。WPA 対応の無線 LAN ボードを装着してください。
IEEE 802.11 Card Firmware REV.<バージョン>	無線 LAN ボードファームウェアのバージョンです。
IEEE 802.11 current channel <チャンネル番号>	アドホックおよびインフラストラクチャモードでの無線 LAN 接続先変更時に表示される、現在動作中のチャネル番号です。
IEEE 802.11 MAC Address = <MAC アドレス>	無線 LAN インターフェースの MAC アドレスです。
IEEE 802.11 SSID <ssid> (AP MAC Address <MAC アドレス>)	インフラストラクチャモード時の接続したアクセスポイントの SSID およびアクセスポイントの MAC アドレスです。
IEEE 802.11 <通信モード> mode	IEEE 802.11 の通信モードを表示します。
(IKE phase-1) mismatched authentication type: local=<相手認証方式 1 > remote=<相手認証方式 2 >	IKE フェーズ 1 における本機の<相手認証方式 1>と通信相手の<相手認証方式 2>が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP 相手認証方式を一致させてください。
(IKE phase-1) mismatched encryption type: local=<暗号アルゴリズム 1 > remote=<暗号アルゴリズム 2 >	IKE フェーズ 1 における本機の<暗号アルゴリズム 1>と通信相手の<暗号アルゴリズム 2>が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA 暗号アルゴリズムを一致させてください。
(IKE phase-1) mismatched DH group: local=< DH グループ番号 1 > remote=< DH グループ番号 2 >	IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA Oakley グループ<DH グループ番号 1>と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループ<DH グループ番号 2>が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループを一致させてください。

メッセージ	内容と解決方法
(IKE phase-1) mismatched hash type: local=<ハッシュアルゴリズム 1 > remote=<ハッシュアルゴリズム 2 >	IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA <ハッシュアルゴリズム 1>と通信相手の ISAKMP SA <ハッシュアルゴリズム 2>が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA ハッシュアルゴリズムを一致させてください。
IKE [% s] is disable, set PSK text.	PSK 文字列が設定されていないため、対象の IKE エントリーを無効としました。対象 IKE エントリーの PSK 文字列を設定してください。
inetd start.	inetd を開始します。
Interface (インターフェース名): Duplicate IP Address (<IP アドレス>).	本体に指定された IPv4 または IPv6 アドレスが重複して使用されています。IP アドレスはそれぞれ固有のものでなければなりません。IP アドレスを再設定してください。
<インターフェース> started with IP: < IP アドレス>	インターフェースに IPv4 または IPv6 アドレスが設定されて、動作を開始しました。
<インターフェース>: Subnet overlap.	<インターフェース>に設定しようとした IPv4 アドレスと Netmask から導かれる Subnet 範囲が、ほかのインターフェースの Subnet 範囲と重なっています。各インターフェースの Subnet 範囲が重ならないように設定してください。
IPP cancel -job: permission denied.	ジョブのキャンセル時にユーザー名による認証に失敗しました。
IPP job canceled. jobid=%d.	エラーあるいはユーザー要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。
job canceled. jobid=<ジョブ ID >	エラーあるいはユーザー要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。
LeaseTime=<リース時間>(秒), RenewTime=<更新間隔>(秒).	DHCP サーバーから取得したリソースのリース時間は<リース時間>秒、更新時間は<更新間隔>秒です。
Login to fileserver <ファイルサーバー名> (<IPX|IP>), <NDS|BINDERY>	プリントサーバーが動作しているとき、<ファイルサーバー>に NDS または BINDERY モードでログインしました。使用しているトランスポートプロトコルも表示します。
Manual [%s] is disable, set authentication key.	認証鍵が設定されていないため、対象の手動 SA エントリーを無効としました。対象手動 SA エントリーの認証鍵を設定してください。
Manual [%s] is disable, set encryption key.	暗号鍵が設定されていないため、対象の手動 SA エントリーを無効としました。対象手動 SA エントリーの暗号鍵を設定してください。

メッセージ	内容と解決方法
Memory allocate error.	メモリーの取得に失敗しました。USB ケーブルの抜き差しを行ってください。
Name registration failed. name＝＜NetBIOS 名＞	＜NetBIOS 名＞の名前登録に失敗しました。NetBIOS 名を別の名前に変更してください。
Name registration success in Broadcast name＝＜NetBIOS 名＞	ブロードキャストによる＜NetBIOS 名＞の名前登録に成功しました。
Name registration success. WINS server＝＜WINS サーバーアドレス＞ NetBIOS Name＝＜NetBIOS 名＞	＜WINS サーバーアドレス＞への＜NetBIOS 名＞の名前登録が成功しました。
nbtd start.	nbtd（NetBIOS over TCP/IP Daemon)を起動しました。
npriter start. (NetWare)	プリントサーバーが動作しているとき、NetWare サービスをリモートプリンタモードで起動しました。
nwstart start. (NetWare)	NetWare プロトコルスタック設定サーバが起動しました。
Open log file ＜ファイル名＞	プリントサーバーが動作しているとき、監視ログファイルをオープンしました。
papd start. (AppleTalk)	papd（Printer Access Protocol Daemon)を起動しました。
permission denied.	ジョブのキャンセル時にユーザー名やホストアドレスによるチェックで権限なしと判定されました。(root 権限を除く)
Printer ＜プリンター名＞ has no queue	プリントサーバーが動作しているとき、＜プリンター名＞にプリントキューが割り当てられていません。NetWare アドミニストレーターで割り当て後、プリンターを再起動してください。
Print queue ＜プリントキュー名＞ cannot be serviced by printer 0, ＜プリントサーバー名＞	プリントサーバーが動作しているとき、＜プリンター名＞をサービスできません。プリントキューのボリュームが指定のファイルサーバー上に存在するか確認してください。
Print server ＜プリントサーバー名＞ has no printer	プリントサーバーが動作しているとき、＜プリントサーバー名＞にプリンターが割り当てられていません。NetWare アドミニストレーターで割り当て後、プリンターを再起動してください。
print sessions full	接続要求がフルです。しばらくしてから再接続してください。
pserver start. (NetWare)	プリントサーバーが動作しているとき、NetWare サービスをプリントサーバーモードで起動しました。

メッセージ	内容と解決方法
Required file server (<ファイルサーバー名>) not found	<ファイルサーバー名>で設定されたファイルサーバーが見つかりませんでした。
restarted.	LPD が開始しました。
sap enable. saptype=<SAP タイプ>, sapname=<SAP 名>	SAP 機能が起動されました。SAP(SAP タイプ、SAP 名)パケットを発行し、NetWare サーバー上の SAP テーブルにサービスの存在を登録します。
session_IPv4 <コミュニティー名> not defined.	認証不可のコミュニティー名で、設定要求を受けました。
session_IPv6 <コミュニティー名> not defined.	認証不可のコミュニティー名で、設定要求を受けました。
session_IPX <コミュニティー名> not defined.	認証不可のコミュニティー名で、設定要求を受けました。
Set context to <NDS コンテキスト名>	<NDS コンテキスト名>を設定しました。
shutdown signal received. network service rebooting...	ネットワークのリブート処理を行います。
smbd start. (NetBIOS)	smbd(Server Message Block Daemon)が起動しました。
SMTPC: failed to get smtp server ip-address.	SMTP サーバーの IP アドレスを取得できません。DNS サーバーを探せないか、DNS サーバーに指定した SMTP サーバーの IP アドレスがありません。DNS サーバーの IPv4 または IPv6 アドレスを確認してください。または SMTP サーバーの IP アドレスを確認してください。
SMTPC: failed to connect smtp server. timeout.	応答待ちでタイムアウトしたため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバー名が間違っている、ネットワークに接続されていない、またはネットワークの設定が間違っており、SMTP サーバーからの応答を取得できません。SMTP サーバー名とネットワークの接続と設定を確認してください。
SMTPC: refused connect by smtp server.	SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。

4

メッセージ	内容と解決方法
SMTPC: no smtp server. connection close.	SMTP プロトコルの応答が返ってこないため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。
SMTPC: failed to connect smtp server.	SMTP サーバーに接続できません。ネットワークに接続されていない、ネットワークの設定が間違っている、SMTP サーバー名が間違っている、DNS サーバーの指定が間違っている、DNS サーバーに指定された SMTP サーバーの IP アドレスがない、SMTP サーバーではないサーバーを指定した、または SMTP サーバーのポート番号が間違っています。DNS サーバーの IP アドレスと SMTP サーバーの IP アドレス、SMTP サーバー名と SMTP ポート番号、SMTP サーバーの SMTP ポート番号、ネットワークの接続と設定を確認してください。
SMTPC: username or password wasn't correct. [応答コード] (インフォメーション)	SMTP サーバーに認証接続できません。SMTP ユーザー名の指定が間違っているか、SMTP パスワードの指定が間違っています。SMTP ユーザー名、SMTP パスワードを確認してください。
Snmp over IPv4 is ready.	IPv4 上での SNMP 通信が可能です。
Snmp over IPv 4 over 1394 is ready.	IPv4 over 1394 上での通信が可能です。
Snmp over IPv6 is ready.	IPv6 上での SNMP 通信が可能です。
Snmp over IPX is ready.	IPX 上での SNMP 通信が可能です。
Snmpd Start.	snmpd が起動しました。(電源が入っている時のみ表示)
started.	BMLinkD が起動しました。
started.	ダイレクトプリントサービスを開始しました。
started.	IKE サービスが起動しました。
Started.	Rendezvous 機能が起動しました。
terminated.	手動 SA および IKE の設定がひとつも存在しないため、IKE サービスが停止しました。
Terminated.	Rendezvous 機能が終了しました。
There is problem in dhcp server operation.	複数の DHCP サーバーを設置している場合は、機器に配布する IP アドレスの設定に DHCP サーバー間で矛盾がないかを確認してください。

メッセージ	内容と解決方法
The print server received error <エラー番号> during attempt to log in to the network. Access to the network was denied. Verify that the print server name and password are correct.	プリントサーバーが動作しているとき、ファイルサーバーへのログインに失敗しました。 プリントサーバーが登録されていないか、パスワードが与えられています。プリントサーバーをパスワードなしで登録してください。
too many pictures.	一回の印刷で指定する画像数が多すぎるため、正常に印刷できませんでした。指定画像数を減らして印刷してください。
trap account is unavailable.	v3Trap 送信先ユーザーアカウント名が、機器が管理するユーザーアカウント名とは別のものが指定されているため、そのユーザーアカウントでは v3Trap は送信されません。送信先ユーザーアカウント名を機器が管理するユーザーアカウント名に変更してください。
Updated (オプション名) (値) via DHCPv6 Server	DHCPv6 サーバーから取得したパラメーターが更新されました。本メッセージは、新規で取得したパラメーターが以前に取得していたパラメーターから変更していたときに表示されます。
usbd is disabled.	セキュリティーモード設定時に usbd が使用不可に設定されている場合、usbd 起動後に出力されます。この場合、PnP 及び印刷はできません。セキュリティーモード設定にて、usbd を使用可にしてください。
WINS name registration: No response to server (WINS サーバーアドレス)	登録処理に対する応答がサーバーからありません。WINS サーバーアドレスに誤りがないか確認してください。または、WINS サーバーが正常に動作しているか確認してください。
WINS wrong scopeID=<スコープ ID>	不正なスコープ ID が使用されています。正常なスコープ ID を設定してください。
write error occurred. (diskfull)	スプールファイル書き込み中にディスクフルが検知されました。印刷処理が進み、HDD の空き容量が増えるのを待ってください。分割スプール対応以前のみ出力されます。
write error occurred. (fatal)	スプールファイル書き込み中に致命的なエラーが検知されました。電源再投入後に復帰しない場合は、サービスを依頼してください。
WSD (Device) started.	WS-Device（WSD（Device））が起動しました。
WSD (Printer) started.	WS-Printer（WSD（Printer））が起動しました。
WSD (Scanner) started.	WS-Scanner（WSD（Scanner））が起動しました。

5. 宛先・ユーザーを登録する

宛先やユーザーを登録する方法を説明します。

アドレス帳について

ユーザーごとにファクス宛先やメール宛先などを登録して一括管理することができます。

重要

- アドレス帳の登録データは、ハードディスクに記録されます。万一、本機のハードディスクに不具合が生じた場合、記録されたデータが消失することがあります。お客様のデータ消失による損害につきましては、当社は一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- アドレス帳の登録データはバックアップを取ることをお勧めします。バックアップの方法は、P.51「管理者用設定」のアドレス帳バックアップ/リストアを参照してください。
- セキュリティー機能を強化した設定で本機を使用しているときは、ファクスまたはスキャナー機能で、手入力したファクス番号、e メールアドレス、フォルダー宛先にファイルを送信できないことがあります。ユーザーはアドレス帳に登録された宛先にのみファイルを送信できます。
- セキュリティー機能を強化した設定で本機を使用しているときは、一般ユーザーによるアドレス帳への宛先登録が制限されていることがあります。
- PC ファクスドライバーを使用してファクス宛先を指定する場合、PC ファクスドライバーのヘルプを参照してください。

アドレス帳で登録・管理できる内容は次のとおりです。

登録情報

アドレス帳にユーザー名または宛先名、キー表示名、ヨミガナなどを登録します。

ユーザーや宛先を管理するための基本情報となります。ファクス宛先やメールアドレスなどをアドレス帳に登録するには、あらかじめ登録情報を登録する必要があります。

5

認証情報

利用者ごとに機能を制限し、使用状況を確認するためにユーザーコードを登録します。また、SMTP 認証、フォルダー認証、LDAP 認証の設定を行います。

認証保護

成りすまし送信やフォルダーへの未承認アクセスを防ぐための、使用対象、保護コード、保護対象を設定します。

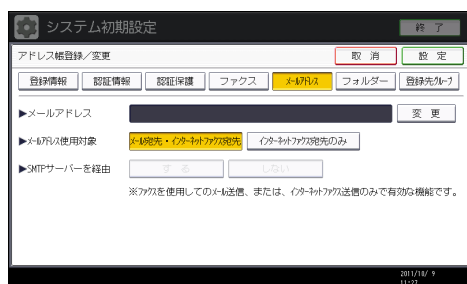
ファクス

ファクス番号、回線の種類、発信元名称などを登録し、宛名差し込みの有無を選択します。

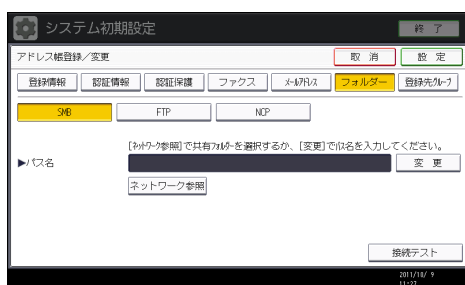
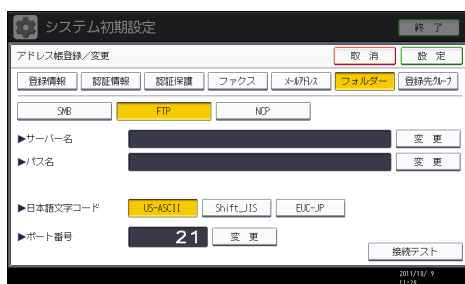
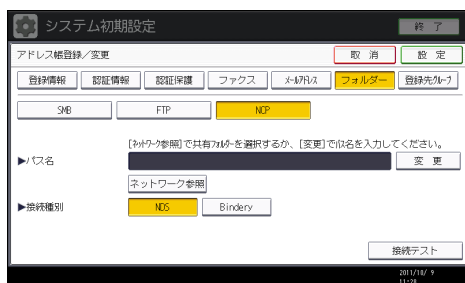
また、IP-ファクスでは、IP-ファクス宛先を登録し、プロトコルを選択します。

メールアドレス

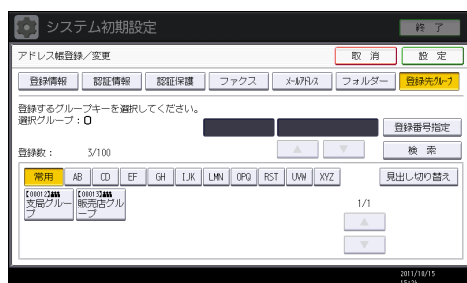
ユーザーや相手先のメールアドレスを登録します。

5

フォルダー

プロトコル、サーバー名、フォルダー階層を設定します。

- SMB

- FTP

- NCP

NCP の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。

登録先グループ

ファクス、メール、フォルダーの宛先をグループに登録します。

補足

- ネットワーク上のパソコンから Web Image Monitor を使用して、アドレス帳の登録、変更、消去をすることができます。
- Web Image Monitor を使って、アドレス帳に登録されている内容のバックアップをとることができます。バックアップをとってお使いいただくことをお勧めします。詳細については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。
- Web Image Monitor の操作方法については、Web Image Monitor のヘルプまたは P.101「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

ユーザー名や宛先を管理する

名前とキー表示名をあらかじめ登録しておくと、宛先キーを押すだけで相手を指定できるので、ファクス、メール、フォルダーを選択するときに便利です。

補足

- ユーザー情報の登録方法は、P.197「ユーザー情報の登録」を参照してください。

ワンタッチでファクスを送信する

アドレス帳にファクス番号を登録しておくと、ファクスを送信するとき、ファクス初期画面に表示される相手先を選択するだけでファクス番号が指定できます。また、宛名差し込みを「ON（使用する）」に設定すると、登録した名前の後に「様」を付けて相手先の受信紙の先端に印字できます。

アドレス帳に IP-ファクス宛先を登録しておくと、IP-ファクス送信するとき、ファクス初期画面に表示される相手先を選択するだけで IP-ファクス宛先が指定できます。

登録されたファクス宛先は、送信者のものとしても使うことができ、相手先の受信紙の先端に印字できます。

補足

- ファクス宛先の登録方法は、P.210「ファクス宛先について」を参照してください。

ワンタッチでメールを送信する

アドレス帳にメールアドレスを登録しておくと、メール送信やインターネットファクス送信するときにファクス初期画面に表示される相手先を選択するだけでメールアドレスが指定できます。

またスキャナー機能で読み取った文書をメールで送信するとき、スキャナー初期画面に表示される相手先を選択するだけでメールアドレスを指定することができます。登録されたメールアドレスは、送信者のものとしても使うことができ、メールヘッダーの From:フィールドには送信者のメールアドレスが自動的に入力されます。

補足

- メール宛先の登録方法は、P.223「メール宛先について」を参照してください。

ワンタッチでファイルをフォルダーに直接送信する

アドレス帳にパス名、ユーザー名、パスワードなどを登録しておくと、ファクスを送信するとき、ファクス初期画面に表示される相手先を選択するだけでフォルダーが指定できます。またスキャナー機能で読み取った文書を直接共有フォルダーに送信するとき、スキャナー初期画面に表示される相手先を選択するだけで共有フォルダーに接続できます。Windows および Mac OS 上でフォルダーを共有したいときは SMB プロトコルを選択します。

FTP サーバーのフォルダーを登録するときは FTP プロトコルを選択します。

NetWare サーバーのフォルダーを登録するときは NCP プロトコルを選択します。

補足

- 共有フォルダーの登録方法は、P.229「共有フォルダーを登録する」を参照してください。

成りすまし送信や、本機から共有フォルダーへの未承認アクセスを防ぐ

認証保護の使用対象を設定し、宛先保護コードを登録しておくと、ファクス宛先、IP-ファクス宛先、メール宛先、メール送信者名、フォルダー宛先が他の人に使われないようにすることができます。

また未承認ユーザーが本機から登録フォルダーにアクセスできないようにすることができます。

5

補足

- 認証保護の設定方法は、P.255「認証保護について」を参照してください。

本機の利用者及び使用状況を管理する

ユーザーコードを登録し、ユーザーコード認証を設定しておくと、以下の機能ごとに使用者を制限し、使用状況を確認することができます。

- コピー機能
- ドキュメントボックス機能
- ファクス機能
- プリンター機能
- スキャナー機能
- ブラウザー機能

5

補足

- ユーザーコード認証の設定方法は、P.202「ユーザーコード認証について」を参照してください。

ユーザー情報の登録

名前や見出しなどのユーザー情報を登録します。

ユーザー情報を登録しておくと、ファクス宛先やメール宛先、フォルダー登録などでユーザーを選択するだけで登録できます。

名前の登録は 2000 件まで登録できます。

名前を登録する

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [アドレス帳管理] を押します。
3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
4. [新規登録] を押します。
5. 「名前」の [変更] を押します。

   名前を入力する画面が表示されます。
6. 名前を入力し、[OK] を押します。

   文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。
7. ユーザーを分類しておきたい「見出し選択」の見出しキーを押します。

8. [設定] を押します。
9. [閉じる] を押します。
10. [初期設定／カウンター] キーを押します。

補足

- ヨミガナは名前を入力した文字が自動で登録されます。自動登録されたヨミガナを後から変更することもできます。

5

- ヨミガナを登録しておくと、名前を検索するときに便利です。検索するときは、ヨミガナの全角・半角を区別します。
- Web Image Monitor から登録するとき、ヨミガナの自動登録はできません。
- 名前は、ドキュメントボックス機能で文書につけるユーザー名として使用できます。
- [見出し選択] で選択できるキーは次のとおりです。
    - [常用]：最初に表示されるページに登録されます。
    - [あ] - [わ]、[AB] - [XYZ]、[1] - [5]：それぞれの見出しのついたページに表示されます。
- [見出し選択] では「常用」と各見出しごとにもう 1 つ選択できます。
- ドキュメントボックス機能については『コピー/ドキュメントボックス』「ドキュメントボックス機能」を参照してください。

5

名前を変更する

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。

2. [アドレス帳管理] を押します。

3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。

4. 変更したいユーザーを選択します。

変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

5. 名前、キー表示名またはヨミガナを変更するときは、名前、キー表示名またはヨミガナの [変更] を押します。

6. 名前、キー表示名またはヨミガナを入力し、[OK] を押します。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

7. 見出しを変更するときは、ユーザーを分類しておきたい見出し選択の見出しキーを押します。

8. [設定] を押します。

9. [閉じる] を押します。

10. [初期設定／カウンター] キーを押します。

登録番号を変更する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. 変更したいユーザーを選択します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。
5. 登録番号の［変更］を押します。
6. 登録番号をテンキーで入力し、［#］を押します。
7. ［設定］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

ユーザーの並び順を入れ替える

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［並び順入れ替え］を押します。
5. 移動させたいユーザーのキーを押します。

テンキーで登録番号を入力しても指定できます。

同じ見出し内の名前順を入れ替えることができますが、異なる見出しで名前を移動することはできません。例えば、［常用］見出しにある登録名を［AB］見出しに移動することはできません。

6. 移動したい場所にあるユーザーのキーを押します。

移動させたいユーザーのキーが選択した場所に移動し、選択した場所にあるユーザーのキーが前後に移動します。

移動させたいユーザーのキーを前に向かって移動させる場合、移動先にあるユーザーのキーは後に移動します。

移動させたいユーザーのキーを後に向かって移動させる場合、移動先にあるユーザーのキーは前に移動します。

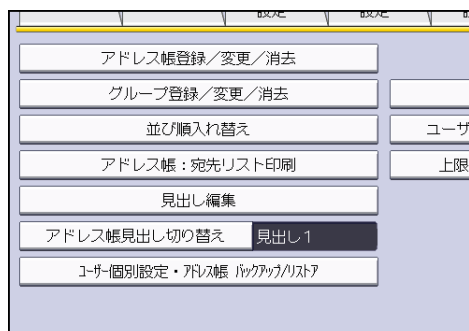
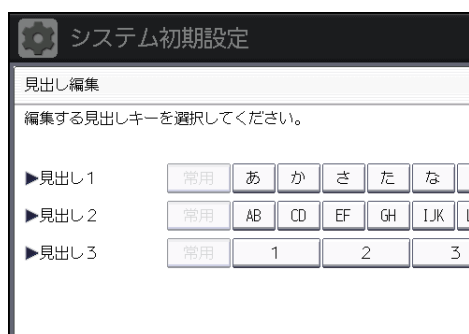
テンキーで登録番号を入力しても指定できます。

見出しを編集する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。

3. ［管理者用設定］を押します。

4. [見出し編集] を押します。

5. 移動させたいユーザーのキーを押します。

6. 変更する名称を入力し、[OK] を押します。
7. [設定] を押します。
8. [初期設定／カウンター] キーを押します。

ユーザーを消去する

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [アドレス帳管理] を押します。
3. [消去] を押します。
4. 消去したいユーザーを選択します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。
5. [消去する] を押します。
6. [閉じる] を押します。
7. [初期設定／カウンター] キーを押します。

ユーザーコード認証について

重要

- **ユーザーコードはすべての機能に共通です。ユーザーコードを変更、消去した場合、そのユーザーコードはすべての機能で管理、制限が無効になります。**

ユーザーコードを登録し、ユーザーコード認証を設定することによって、以下の機能ごとに使用者を制限し、使用状況を確認することができます。

- コピー機能
- ドキュメントボックス機能
- ファクス機能
- スキャナー機能
- プリンター機能
- ブラウザー機能

ユーザーごとの使用状況は、「ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷」で確認できます。また、ユーザーごとに印刷利用量を制限できます。印刷利用量の制限については、『セキュリティーガイド』を参照してください。

また、キーカードを装着することによって、さらに詳しい機能ごとの集計管理や利用者制限ができます。

補足

- ユーザーコードの登録は 1000 件まで登録できます。
- ファクス機能からドキュメントボックスに蓄積した文書の印刷枚数は、ユーザーコードごとにカウントされるので、各ユーザーごとに使用状況を確認できます。
- スキャナー機能を使って本機に読み込んだ枚数は、ユーザーコードごとにカウントされるので、各ユーザーごとに使用状況を確認できます。
- プリンタードライバーのユーザーコードを自動的に登録するときは、「ユーザー認証管理」の「プリンター」で「自動登録」を選択してください。プリンタードライバーにはシステム初期設定で登録したユーザーコードを設定します。詳細については、P.51「管理者用設定」を参照してください。
- プリンタードライバーのユーザーコードの設定については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- ユーザーコード認証の設定については、「セキュリティーガイド」を参照してください。

ユーザーコードを登録する

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。

2. ［アドレス帳管理］を押します。

3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

4. ユーザーコードを登録したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

5. ［認証情報］を押します。

6. ユーザーコードをテンキーで入力し、［#］キーを押します。

間違えたときは［クリア］または［クリア／ストップ］キーを押して入力し直します。

7. 「使用できる機能」が表示されるまで、［▼次へ］を押します。

8. 「使用できる機能」で、登録するユーザーに使用を許可する機能を選択します。

9. ［設定］を押します。

10. ［閉じる］を押します。

11. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- ユーザーコードは 1 桁から 8 桁まで指定できます。
- 名前の登録については、P.197「名前を登録する」を参照してください。

5

ユーザーコードを変更する

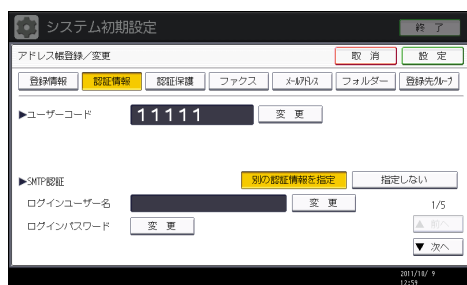
重要

- ユーザーコードを変更しても、カウンターの数値はクリアされません。

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [アドレス帳管理] を押します。
3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
4. 変更したいユーザーコードの登録されているユーザーを選択します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

5. [認証情報] を押します。
6. 「ユーザーコード」の [変更] を押して、新しいユーザーコードをテンキーで入力し直します。

7. [＃] を押します。
8. 「使用できる機能」が表示されるまで、[▼次へ] を押します。
9. キーを押して、使用を許可する機能を選択します。

   使用を許可する機能は、キーを押して反転表示させせます。

10. [設定] を押します。
11. [閉じる] を押します。
12. [初期設定／カウンター] キーを押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.198「名前を変更する」を参照してください。

ユーザーコードを消去する

重要

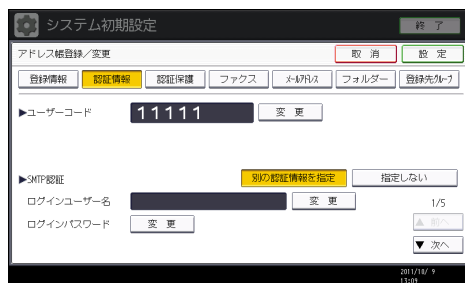
- ユーザーコードをクリアすると、カウンターの数値は自動的にクリアされます。

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [アドレス帳管理] を押します。
3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
4. 消去したいユーザーコードの登録されているユーザーを選択します。

   消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。
5. [認証情報] を押します。
6. 「ユーザーコード」の [変更] を押して、ユーザーコードを消去し、[#] を押します。

7. [設定] を押します。
8. [閉じる] を押します。
9. [初期設定／カウンター] キーを押します。

補足

- ユーザーごと消去したいときは、P.201「ユーザーを消去する」を参照してください。

ユーザー別にカウンターを表示する

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [システム初期設定] を押します。
3. [管理者用設定] を押します。
4. [ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷] を押します。

5

5. ［印刷］、［送信］、または［スキャナー］を押します。

ユーザーコードごとに機能別カウンターが表示されます。

6. カウンターを確認し、［閉じる］を押します。

ユーザー別カウンターを印刷する

印刷できるユーザー別カウンターは「コピー」、「プリンター」、「ファクス印刷」、「ファクス送信」、「スキャナー」、「印刷合計」です。

イラストの例は、「プリンター」、「ファクス送信」、「スキャナー」をそれぞれ印刷したものです。

【ユーザー別カウンター】

出力日 :2011年10月15日 02時16分

	ユーザー名	名前	プリンター		合計	
			A3/DLT	その他	ページ数	度数
1	0001	赤坂支店	0	0	0	0
2	0002	横浜事業所	0	0	0	0
3	0003	企画課	0	0	0	0
4	0004	ロサンゼルス支局	0	0	0	0
5	0015	user1	0	0	0	0
6	0016	user2	0	0	0	0
その他			1	94	95	95
合計			1	94	95	95

【ユーザー別カウンター】

出力日 :2011年10月15日 02時15分

	ユーザー名	名前	ファクス送信	
			枚数	金額(円)
1	0001	赤坂支店	0	0
2	0002	横浜事業所	0	0
3	0003	企画課	0	0
4	0004	ロサンゼルス支局	0	0
5	0015	user1	0	0
6	0016	user2	0	0
その他			0	0
合計			0	0

【ユーザー別カウンター】

出力日 :2011年10月15日 02時15分

	ユーザー名	名前	スキャナ(フルカラー)		スキャナ(白黒)		合計
			A3/DLT	その他	A3/DLT	その他	
1	0001	赤坂支店	0	0	0	0	0
2	0002	横浜事業所	0	0	0	0	0
3	0003	企画課	0	0	0	0	0
4	0004	ロサンゼルス支局	0	0	0	0	0
5	0015	user1	0	0	0	0	0
6	0016	user2	0	0	0	0	0
その他			0	0	50	5	55
合計			0	0	50	5	55

CKE001

ファクス送信で料金管理をするときは、次のことに注意してください。

- この機能で集計される料金はあくまで目安です。
- G4 ユニット装着時は G4 を使った料金が表示されます。
- G4 で海外送信したときの料金は、集計されません。
- ISDN 内線接続のときは、正しく集計されないことがあります。
- ファクス受信印刷は、「その他」として記載されます。

ユーザーごとのカウンターを印刷する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷］を押します。

5. 画面左側に表示されているユーザーコードを選択します。

ページに表示されているユーザーコードをすべて選択したいときは、［ページ内全選択］を押します。

6. 「ユーザー別」の［一覧印刷］を押します。

ページに表示されているユーザーコードをすべて選択したいときは、［ページ内全選択］を押します。

7. ［コピー］、［プリンター］、［ファクス印刷］、［ファクス送信］、［スキャナー］、［印刷合計］のうち、印刷する項目を押します。

8. ［印刷］を押します。

すべてのユーザーのカウンターを印刷する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷］を押します。

5

5.「全ユーザー」の［一覧印刷］を押します。

6.［コピー］、［プリンター］、［ファクス印刷］、［ファクス送信］、［スキャナー］、［印刷合計］のうち、印刷する項目を押します。

7.［印刷］を押します。

5

カウンターをクリアする

ユーザーごと、あるいはすべてのユーザーのカウンターをクリアします。

ユーザーごとのカウンターをクリアする

1.［初期設定／カウンター］キーを押します。

2.［システム初期設定］を押します。

3.［管理者用設定］を押します。

4.［ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷］を押します。

5. 画面左側に表示されているユーザーコードからクリアしたいユーザーコードを選択します。

ページに表示されているユーザーコードをすべて選択したいときは、［ページ内全選択］を押します。

6.「ユーザー別」の［クリア］を押します。

7.［コピー］、［プリンター］、［ファクス印刷］、［ファクス送信］、［スキャナー］、［全カウンター］のうち、クリアする項目を押します。

8.［実行］を押します。

5

すべてのユーザーのカウンターをクリアする

1.［初期設定／カウンター］キーを押します。

2.［システム初期設定］を押します。

3.［管理者用設定］を押します。

4.［ユーザー別カウンター表示／クリア／印刷］を押します。

5.「全ユーザー」の［クリア］を押します。

6.［コピー］、［プリンター］、［ファクス印刷］、［ファクス送信］、［スキャナー］、［全カウンター］のうち、クリアする項目を押します。

7.［実行］を押します。

ファクス宛先について

「ファクス宛先」を登録することによって、ファクス機能で読み取った文書をワンタッチでファクス送信することが可能になります。

- ファクス宛先には「名前」と「キー表示名」を同時に登録しておくと、宛先キーを押すだけで相手先を指定でき、ファクス宛先を選択するときに便利です。
- ファクス宛先は、グループに登録することができます。登録方法については、P.246「宛先をグループに登録する」を参照してください。
- ファクス宛先をリダイヤルから指定して登録することができます。
- ファクス宛先は送信者として使うことができます。またこのとき、他の人が使えないように宛先保護を設定することをお勧めします。設定方法については、P.255「認証保護について」を参照してください。

ファクス宛先には次の 2 種類があります。

- ファクス番号

  一般電話回線を用いた通常のファクスの送信をしたいときに設定します。

- IP-ファクス宛先

  ネットワークに接続された機器同士でファクスの送信をしたいときに設定します。

  ファイアウォールを設定している、別のネットワークに送信できないことがあります。

ファクス宛先で登録できる内容は次のとおりです。

ファクス宛先

相手先のファクス番号を登録します。最大 128 桁まで登録できます。登録の省略はできません。

F コード（SUB）

F コード（SUB）を付けて送信すれば、その F コード（SUB）を知っている関係者の間だけで安全に文書をやり取りすることができます。詳しくは、『ファクス』「F コード送信」を参照してください。

F コード（SEP）

F コード（SEP）を使うと、ポーリング送信機能のある他社のファクスから同じ F コード（SEP）の付いた相手先の原稿を受信できます。詳しくは、『ファクス』「F コード取り出し」を参照してください。

回線選択

G4 ユニットまたは増設 G3 ユニットを装着しているときは、宛先ごとに使用する回線を設定します。

海外送信モード

海外送信モードを「ON（使用する）」に設定すると、通信速度を遅くしてより確実に送信します。ただし、送信時間は長くなります。

発信元名称選択

登録した相手先に送信したときに、相手先の受信紙に印字させる発信元名称（印字用）を設定します。工場出荷時は「第 1 印字用名称」に設定されています。詳しくは、『ファクス』「発信元名称印字」を参照してください。

宛名差し込み

宛名差し込みを「ON（使用する）」に設定すると、登録した「宛先名」の後に「様」を付けて相手先の受信紙の先頭行に印字します。また、「宛先名」の次の行から 2 行にわたって定型文を印刷することができます。

発信元名称選択と宛名差し込みは、ファクス機能からのメール送信時にも印字されます。

工場出荷時に本機に登録されていない定型文を印字させるときは、あらかじめ定型文を登録しておきます。

IP-ファクス宛先で登録できる内容は次のとおりです。

IP-ファクス宛先

相手先の IP-ファクス宛先を登録します。最大 128 文字まで登録できます。登録の省略はできません。

IP-ファクス機能が使えるように設定しているときのみ、有効になります。

F コード（SUB）

F コード（SUB）を付けて送信すれば、その F コード（SUB）を知っている関係者の間だけで安全に文書をやり取りすることができます。詳しくは、『ファクス』「F コード送信」を参照してください。

F コード（SEP）

F コード（SEP）を使うと、ポーリング送信機能のある他社のファクスから同じ F コード（SEP）の付いた相手先の原稿を受信できます。詳しくは、『ファクス』「F コード取り出し」を参照してください。

回線選択

IP-ファクス通信時に使用するプロトコルを選択します。

IP-ファクス機能が使えるように設定しているときのみ、有効になります。

発信元名称選択

登録した相手先に送信したときに、相手先の受信紙に印字させる発信元名称（印字用）を設定します。工場出荷時は「第 1 印字用名称」に設定されています。詳しくは、『ファクス』「発信元名称印字」を参照してください。

宛名差し込み

宛名差し込みを「ON（使用する）」に設定すると、登録した「宛先名」の後に「様」を付けて相手先の受信紙の先頭行に印字します。また、「宛先名」の次の行から 2 行にわたって定型文を印刷することができます。

発信元名称選択と宛名差し込みは、ファクス機能からのメール送信時にも印字されます。

工場出荷時に本機に登録されていない定型文を印字させるときは、あらかじめ定型文を登録しておきます。

ファクス番号を登録する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. ファクス番号を登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   宛先を新規に登録する場合は［新規登録］を押します。宛先を新規に登録する場合は、名前を登録する必要があります。名前の登録方法については、P.197「名前を登録する」を参照してください。
5. ［ファクス］を押します。
6. 「ファクス宛先」の［変更］を押します。
7. ファクス番号をテンキーで入力し、［確定］を押します。

8. 必要に応じて、回線選択や発信元名称などを設定します。
   - 回線選択：宛先ごとに使用する回線を選択します。
   - 拡張宛先：F コード（SUB/SID/SEP/PWD）を設定します。
   - 海外送信モード：海外送信モードを使用するかどうかを設定します。

- 発信元名称選択：相手先の受信紙に印字させる発信元名称（印字用）を設定します。
- 宛名差し込み：相手先の受信紙に印字させる宛名を設定します。

9. ［設定］を押します。
10. ［閉じる］を押します。
11. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- グループが登録されている場合は、続けてグループに登録することができます。グループの登録方法については、P.246「宛先をグループに登録する」を参照してください。
- 登録したファクス番号は送信者（送信番号）として使用することができます。設定方法については、P.255「認証保護について」を参照してください。

ファクス番号を変更する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. 変更したいファクス番号の登録されているユーザーを選択します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。
5. ［ファクス］を押します。
6. 「ファクス宛先」の［変更］を押します。
7. ファクス番号をテンキーで入力し直し、［確定］を押します。
8. 必要に応じて回線選択や発信元名称などを設定し直します。
   - 回線選択：宛先ごとに使用する回線を選択します。
   - 拡張宛先：F コード（SUB/SID/SEP/PWD）を設定します。
   - 海外送信モード：海外送信モードを使用するかどうか設定します。
   - 発信元名称選択：相手先の受信紙に印字させる発信元名称（印字用）を設定します。
   - 宛名差し込み：相手先の受信紙に印字させる宛名を設定します。
9. ［設定］を押します。
10. ［閉じる］を押します。

11. [初期設定／カウンター] キーを押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.198「名前を変更する」を参照してください。
- 登録したファクス番号は送信者（送信番号）として使用することができます。設定方法については、P.255「認証保護について」を参照してください。

回線選択をするとき

1. [回線選択] を押します。

2. 使用する回線を選択して [設定] を押します。

F コード（SUB）を設定するとき

1. [拡張宛先] を押し、[F コード（SUB)] を押します。
2. 送信用 F コード（SUB）の [変更] を押します。
3. テンキーで送信用 F コード（SUB）を入力し、[確定] を押します。
4. パスワードを設定するときは、パスワード（SID）の [変更] を押します。
5. テンキーでパスワード（SID）を入力し、[確定] を押します。
6. [設定] を押します。

F コード（SEP）を設定するとき

1. [拡張宛先] を押し、[F コード（SEP)] を押します。
2. 取出し用 F コード（SEP）の [変更] を押します。
3. テンキーで取出し用 F コード（SEP）を入力し、[確定] を押します。
4. パスワードを設定するときは、パスワード（PWD）の [変更] を押します。

5. テンキーでパスワード（PWD）を入力し、［確定］を押します。
6. ［設定］を押します。

サブアドレスを設定するとき

重要

- G4 ユニットが必要です。

1. ［拡張宛先］を押し、［サブアドレス/UUI］を押します。
2. サブアドレスの［変更］を押します。
3. テンキーでサブアドレスを入力し、［確定］を押します。
4. UUI の［変更］を押します。
5. テンキーで UUI を入力し、［確定］を押します。
6. ［設定］を押します。

海外送信モードを設定するとき

1. 海外送信モードの［変更］を押します。
2. ［OFF］または［ON］を選択し、［設定］を押します。

発信元名称を選択するとき

発信元名称はファクス初期設定の「発信元情報登録」で登録できます。「発信元情報登録」については『ファクス』「発信元情報を登録する」を参照してください。

1. 発信元名称選択の［変更］を押します。
2. ［第 1 印字用名称］から［第 10 印字用名称］または［送信時のオプション設定］を選択し、［設定］を押します。

宛名差し込みを設定するとき

ON にすると、宛先名と定型文を相手先の受信紙の先端に印字します。

1. 宛名差し込みの［変更］を押します。
2. ［ON］を押します。
3. 2 行目の［変更］を押します。
4. 2 行目に印字する定型文を選択します。定型文以外の文章を印字させるときは［登録外文字列］を押します。

5. 文章を入力し、[OK]を押します。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

6. [設定]を押します。
7. 3 行目の[変更]を押します。
8. 定型文を選択し、[設定]を押します。
9. [設定]を押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.198「名前を変更する」を参照してください。

ファクス番号を消去する

重要

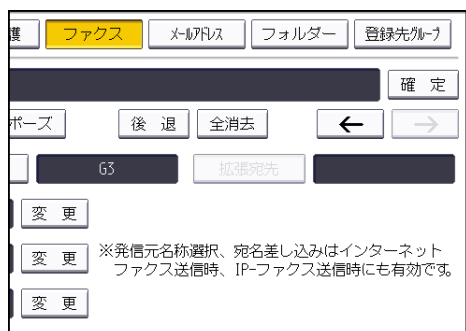
- ファクスの親展ボックスなどで配信先に指定した宛先を消去すると配信時に不達になってしまいます。消去する前にファクス機能での設定を確認してください。

1. [初期設定／カウンター]キーを押します。
2. [アドレス帳管理]を押します。
3. [登録／変更]が選択されていることを確認します。
4. ファクス番号を消去したいユーザーを選択します。

消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

5. [ファクス]を押します。
6. 「ファクス宛先」の[変更]を押します。

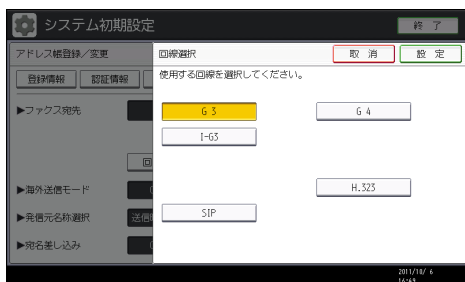
7. ［全消去］を押します。

8. ［確定］を押します。
9. ［設定］を押します。
10. ［閉じる］を押します。
11. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

- ユーザーごと消去したいときは、P.201「ユーザーを消去する」を参照してください。

IP-ファクス宛先を登録する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. IP-ファクス宛先を登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   宛先を新規に登録する場合は［新規登録］を押します。宛先を新規に登録する場合は、名前を登録する必要があります。名前の登録方法については、P.197「名前を登録する」を参照してください。
5. ［ファクス］を押します。

6. ［回線選択］を押して、［H.323］または［SIP］を押します。

7. ［設定］を押します。

8. ファクス宛先の［変更］を押します。

9. IP-ファクス宛先を入力します。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

5

10. ［OK］を押します。

11. 必要に応じて発信元名称などを設定します。

- 拡張宛先：F コード（SUB/SID/SEP/PWD）を設定します。
- 発信元名称選択：相手先の受信紙に印字させる発信元名称（印字用）を設定します。
- 宛名差し込み：相手先の受信紙に印字させる宛名を設定します。

12. ［設定］を押します。

グループが登録されている場合は、続けてグループに登録することができます。登録方法については、P.246「宛先をグループに登録する」を参照してください。

13. ［閉じる］を押します。

14. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- 名前の登録については、P.197「名前を登録する」を参照してください。
- 宛先をグループに登録する方法については、P.246「宛先をグループに登録する」を参照してください。
- 登録した IP-ファクス宛先は送信者（送信番号）として使用することができます。設定方法については、P.255「認証保護について」を参照してください。
- IP-ファクスで送信するときの操作方法については、『ファクス』「IP-ファクスで送る（IP-ファクス宛先）」を参照してください。

IP-ファクス宛先を変更する

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [アドレス帳管理] を押します。
3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
4. 変更したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。
5. [ファクス] を押します。
6. IP-ファクス宛先を変更するときは、ファクス宛先の [変更] を押します。

7. IP-ファクス宛先を入力し直し、[OK] を押します。

   文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。
8. 必要に応じて発信元名称などを設定し直します。
   - 拡張宛先：F コード（SUB/SID/SEP/PWD）を設定します。
   - 発信元名称選択：相手先の受信紙に印字させる発信元名称（印字用）を設定します。
   - 宛名差し込み：相手先の受信紙に印字させる宛名を設定します。
9. [設定] を押します。
10. [閉じる] を押します。
11. [初期設定／カウンター] キーを押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.198「名前を変更する」を参照してください。
- 宛先をグループに登録する方法については、P.246「宛先をグループに登録する」を参照してください。

- 登録した IP-ファクス宛先は送信者（送信番号）として使用することができます。設定方法については、P.255「認証保護について」を参照してください。
- IP-ファクスで送信するときの操作方法については、『ファクス』「IP-ファクスで送る（IP-ファクス宛先）」を参照してください。

F コード（SUB）を設定するとき

1. ［拡張宛先］を押し、［F コード（SUB)］を押します。
2. 送信用 F コード（SUB）の［変更］を押します。
3. テンキーで送信用 F コード（SUB）を入力し、［確定］を押します。
4. パスワードを設定するときは、パスワード（SID）の［変更］を押します。
5. テンキーでパスワード（SID）を入力し、［確定］を押します。
6. ［設定］を押します。

F コード（SEP）を設定するとき

1. ［拡張宛先］を押し、［F コード（SEP)］を押します。
2. 取り出し用 F コード（SEP）の［変更］を押します。
3. テンキーで取出し用 F コード（SEP）を入力し、［確定］を押します。
4. パスワードを設定するときは、パスワード（PWD）の［変更］を押します。
5. テンキーでパスワード（PWD）を入力し、［確定］を押します。
6. ［設定］を押します。

発信元名称を選択するとき

発信元名称はファクス初期設定の「発信元情報登録」で登録できます。「発信元情報登録」については『ファクス』「発信元情報を登録する」を参照してください。

1. 発信元名称選択の［変更］を押します。
2. ［第 1 印字用名称］から［第 10 印字用名称］または［送信時のオプション設定］を選択し、［設定］を押します。

宛名差し込みを設定するとき

IP-ファクスの宛名差し込みを設定するときに操作します。

ON にすると、宛先名と定型文を相手先の受信紙の先端に印字します。

1. 宛名差し込みの［変更］を押します。
2. ［ON］を押します。
3. 2 行目の［変更］を押します。
4. 2 行目に印字する定型文を選択します。定型文以外の文章を印字させるときは［登録外文字列］を押します。

   ［登録外文字列］を使用しない場合は、手順 6 に進んでください。
5. 文章を入力し、［OK］を押します。

   文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。
6. ［設定］を押します。
7. 3 行目の［変更］を押します。
8. 定型文を選択し、［設定］を押します。
9. ［設定］を押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.198「名前を変更する」を参照してください。

IP-ファクス宛先を消去する

登録した IP-ファクス宛先を消去します。

重要

- ファクスの親展ボックスなどで配信先に指定した宛先を消去すると配信時に不達になってしまいます。消去する前にファクス機能での設定を確認してください。

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. 消去したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。
5. ［ファクス］を押します。
6. ファクス宛先の［変更］を押します。
7. ［全消去］を押します。
8. ［確定］を押します。

5

9. [設定] を押します。

10. [閉じる] を押します。

11. [初期設定/カウンター] キーを押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.198「名前を変更する」を参照してください。
- ユーザーごと消去したいときは、P.201「ユーザーを消去する」を参照してください。

5

メール宛先について

「メール宛先」を登録することによって、メールアドレスを入力せずに、スキャナー機能やファクス機能で読み取った文書をメールで送信することが可能になります。

- メール宛先には「名前」と「キー表示名」を同時に登録しておくと、メール宛先を選択するときに便利です。
- メール宛先は、グループに登録することができます。
- メール宛先は、スキャナー機能やファクス機能から送信するときに、送信者のメールアドレスとして使うことができます。またこのとき、他の人が使えないように宛先保護を設定することをお勧めします。宛先保護についての詳細は、P.255「認証保護について」を参照してください。

補足

- メール宛先を登録するときは、LDAP サーバー上のアドレスをアドレス帳に登録することができます。詳しくは、『スキャナー』「読み取った文書をメールで送信する」を参照してください。
- メール宛先を登録して、送信者に設定すると、送信結果をメールで通知することができます。詳しくは、『ファクス』「送信結果をメールで確認する」を参照してください。

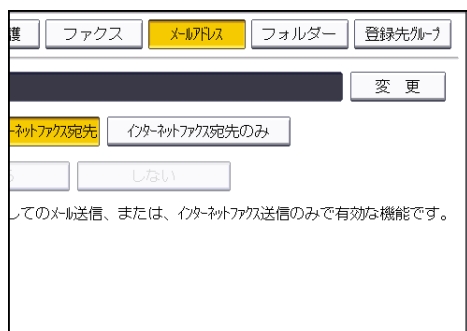
5

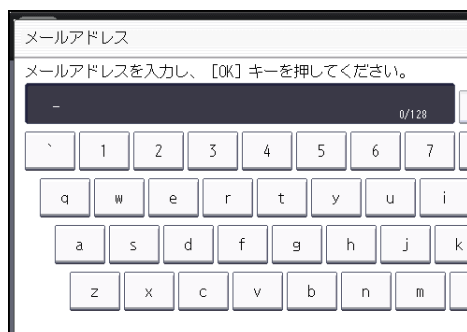
メール宛先を登録する

1. [初期設定／カウンター]キーを押します。
2. [アドレス帳管理]を押します。
3. [登録／変更]が選択されていることを確認します。
4. メール宛先を登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   宛先を新規に登録する場合は[新規登録]を押します。宛先を新規に登録する場合は、名前を登録する必要があります。名前の登録方法については、P.197「名前を登録する」を参照してください。

5. [メールアドレス]を押します。

6. 「メールアドレス」の［変更］を押します。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

7. メールアドレスを入力します。

8. ［OK］を押します。

9. メールアドレスの使用対象を選択します。

［メール宛先・インターネットファクス宛先］を選択した場合、登録したメールアドレスはファクス初期画面のインターネットファクス宛先表、メール宛先表に表示されます。また、スキャナー初期画面のメール宛先表にも表示されます。

［インターネットファクス宛先のみ］を選択した場合、登録したメールアドレスはファクス初期画面のインターネットファクス宛先表のみに表示されます。

10. インターネットファクスを使用するときは「SMTP サーバーを経由」するかしないかを設定します。

11. ［設定］を押します。

12. ［閉じる］を押します。

13. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- 名前の登録については、P.197「名前を登録する」を参照してください。

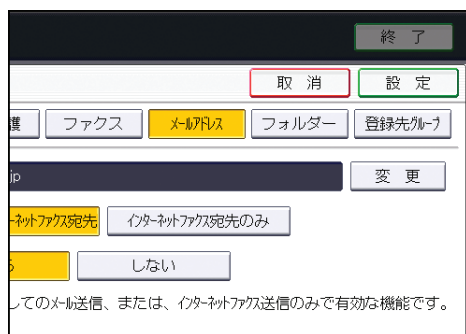
- 登録したメールアドレスは送信者（送信メールアドレス）として使用することができます。設定方法については、P.255「認証保護について」を参照してください。

メール宛先を変更する

登録したメール宛先を変更します。

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. 変更したいメール宛先の登録されているユーザーを選択します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。
5. ［メールアドレス］を押します。
6. メールアドレスの［変更］を押します。

7. メールアドレスを入力し直し、［OK］を押します。

   文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。
8. ［設定］を押します。
9. ［閉じる］を押します。
10. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.198「名前を変更する」を参照してください。
- 登録したメールアドレスは送信者（送信メールアドレス）として使用することができます。設定方法については、P.255「認証保護について」を参照してください。

5

メール宛先を消去する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. メールアドレスを消去したいユーザーを選択します。

   消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。
5. ［メールアドレス］を押します。
6. 「メールアドレス」の［変更］を押します。
7. ［全消去］を押します。
8. ［OK］を押します。
9. ［設定］を押します。
10. ［閉じる］を押します。
11. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- ユーザーごと消去したいときは、P.201「ユーザーを消去する」を参照してください。

メール本文を登録する

インターネットファクス、またはスキャナーで読み取った画像を添付したメールの本文に設定します。

送信メール本文を登録／変更する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［ファイル転送設定］を押します。

   ［▼次へ］を押します。
4. ［送信メール本文登録／変更／消去］を押します。

   ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
5. ［＊未登録］または変更したい送信メール本文を押します。
6. ［変更］を押します。
7. 名称を入力し、［OK］を押します。
8. ［編集］を押します。

   改行する場合は、［OK］を押してメール本文の画面に戻り、「編集行選択」の［▼］を押して改行してください。
9. 文章を入力し、［OK］を押します。

   文章は、1 行を全角 40 文字、半角 80 文字以内で入力してください。5 行まで使用できます。
10. ［設定］を押します。
11. ［閉じる］を押します。
12. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

送信メール本文を消去する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［ファイル転送設定］を押します。

   ［▼次へ］を押します。
4. ［送信メール本文登録／変更／消去］を押します。

5. ［消去］を押します。
6. 消去したい送信メール本文を押します。
7. ［消去する］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

共有フォルダーを登録する

フォルダーを登録することにより、スキャナー機能で読み取った画像や、ファクス機能で受信した原稿を直接共有フォルダーに送信できます。また、ファクス機能で読み取った文書をワンタッチでファイル送信（フォルダ送信）することが可能になります。

プロトコルには次の 3 種類があります。

- SMB

  Windows および Mac OS の共有フォルダーへ送信したいときに設定します。

- FTP

  FTP サーバーのフォルダーへ送信したいときに設定します。

- NCP

  NetWare サーバーのフォルダーへ送信したいときに設定します。

補足

- プロトコル、サーバー名、フォルダー階層についての詳細は、ネットワーク管理者へご確認ください。
- フォルダー宛先が接続されているとき、未認証ユーザーの本機からのフォルダー宛先アクセスができないように設定することができます。設定方法については、P.255「認証保護について」を参照してください。
- SMB、FTP または NCP を選択することができます。設定を終了した後にプロトコルを変更すると、登録内容がクリアされます。
- フォルダー宛先は、グループに登録することができます。
- ネットワーク設定の詳細については、P.44「ファイル転送設定」を参照してください。
- ファクス機能からのファイル送信の詳細については、『ファクス』「メモリー送信で送る」を参照してください。
- スキャナー機能からのフォルダー送信の詳細については、『スキャナー』「読み取った文書をフォルダーに送信する」を参照してください。

SMB のフォルダー宛先を登録する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

4. フォルダー宛先登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   宛先を新規に登録する場合は［新規登録］を押します。宛先を新規に登録する場合は、名前を登録する必要があります。名前の登録方法については、P.197「名前を登録する」を参照してください。

5. ［認証情報］を押し、［▼次へ］を押します。

6. フォルダー認証の［別の認証情報を指定］を押します。

7. 「ログインユーザー名」の［変更］を押します。

8. 送信先のパソコンのログインユーザー名を入力し、［OK］を押します。

   文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

9. 「ログインパスワード」の［変更］を押します。

10. 送信先のパソコンのパスワードを入力し、［OK］を押します。

11. 確認用にもう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。

12. ［フォルダー］を押します。

13. ［SMB］が選択されていることを確認します。

14. 「変更」または「ネットワーク参照」を押し、フォルダーを指定します。

   フォルダーの指定には、パス名を直接入力する方法と、ネットワークを参照してフォルダーを選択する方法があります。詳細については、P.231「SMB のフォルダーを直

接指定する」、P.232「SMB のフォルダーをネットワーク参照から指定する」を参照してください。

15. ［接続テスト］を押し、パスが正しく設定されたか確認します。

16. ［確認］を押します。

17. ［設定］を押します。

18. ［閉じる］を押します。

19. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

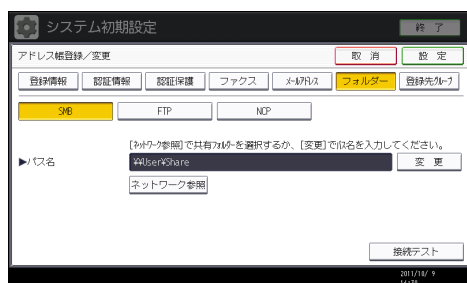
- 名前の登録については、P.197「名前を登録する」を参照してください。
- フォルダーの指定は、パスを直接指定するか、ブラウザーネットワークでフォルダーを選択します。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストを行ってください。
- ご利用のパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーに関わる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。その場合は、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定方法については、Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。
- 「フォルダー認証」で［指定しない］を選択した場合は、［ファイル転送設定］タブにある［送信初期ユーザー名・パスワード］で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。詳しくは P.44「ファイル転送設定」を参照してください。
- ユーザー認証を設定している場合は、管理者に確認してください。
- FTP サーバーのフォルダーを登録するときは、P.236「FTP のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。
- NetWare サーバーのフォルダーを登録するときは、P.240「NCP のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。

5

SMB のフォルダーを直接指定する

1. 「パス名」の［変更］を押します。

2. 「パス名」を入力します。

たとえば送信先のパソコンのコンピュータ名が“User”、フォルダー名が“Share”の場合のパスは、¥¥User¥Share となります。

IP アドレスを自動取得していない環境の場合、例えばコンピューターの IP アドレスが “192.168.0.191”、フォルダー名が “Share” の場合のパスは、¥¥192.168.0.191¥Share でも送信が可能です。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

3.［OK］を押します。

メッセージが表示されたときは［確認］を押し、再度パスを入力してください。

補足

- パス名は「¥¥パソコン名¥フォルダ名」の形式で入力します。「¥」は入力画面の［記号］を押してから、［学術］を押し、半角の「¥」を選択します。
- パス名は IPv4 アドレスも入力できます。

SMB のフォルダーをネットワーク参照から指定する

1.［ネットワーク参照］を押します。

同じネットワーク上のワークグループが表示されます。

アクセス認証されているフォルダー宛先だけがブラウザーネットワーク上に表示されます。

2. 送信先のパソコンのグループを選択します。

選択されたワークグループのコンピューターが表示されます。

3. 送信先のパソコンのコンピューター名を選択します。

共有フォルダーが表示されます。

［ひとつ上の階層へ］を押すと階層を切り替えることができます。

フォルダー認証を設定しない場合、またはフォルダー認証のユーザー名とパスワードが正しくない場合は、ログイン画面が表示されます。

ログイン画面が表示されたときは、認証されているユーザー名とパスワードを入力してログインしてください。

4. 登録したいフォルダーを選択します。

5. ［OK］を押します。

5

ログイン画面が表示されたとき

ネットワーク参照からフォルダーを指定するときにログイン画面が表示された場合の、ログイン方法について説明します。

フォルダー認証を設定しない場合、またはフォルダー認証のユーザー名とパスワードが正しくない場合は、ログイン画面が表示されます。

1. ユーザー名を入力し、［OK］を押します。

フォルダー認証で設定したログインユーザー名を入力します。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

2. パスワードを入力し、［OK］を押します。

ネットワーク参照画面が再度表示されます。

メッセージが表示されたときは［確認］を押し、再度ユーザー名とパスワードを入力してください。

SMBのフォルダー宛先を変更する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

2. ［アドレス帳管理］を押します。

3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

4. フォルダー宛先を変更するユーザーを選択します。

変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

5. ［フォルダー］を押します。

6. 指定方法を選択し、パスを指定し直します。

フォルダーの指定は、パスを直接指定するか、ネットワークを参照してフォルダーを選択します。詳細については、P.231「SMB のフォルダーを直接指定する」、P.232「SMB のフォルダーをネットワーク参照から指定する」を参照してください。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

7. ［接続テスト］を押してパスが正しく設定されているか確認します。

8. すべての情報を変更したら、［設定］を押します。

9. ［閉じる］を押します。

10. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.198「名前を変更する」を参照してください。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストを行ってください。
- ご利用のパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーに関わる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。その場合は、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定方法については、Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。

プロトコルを変更する

フォルダー宛先で使うプロトコルを SMB から FTP または NCP に変更します。

1. ［FTP］または［NCP］を押します。

確認画面が表示されます。

2. ［切り替える］を押します。
3. 各項目を再度入力します。

補足

- NCP の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。

SMB のフォルダー宛先を消去する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. フォルダー宛先を消去するユーザーを選択します。

   消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。
5. ［フォルダー］を押します。
6. 選択されていないプロトコルのキーを押します。

   確認画面が表示されます。
7. ［切り替える］を押します。
8. ［設定］を押します。
9. ［閉じる］を押します。
10. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- ユーザーごと消去したいときは、P.201「ユーザーを消去する」を参照してください。

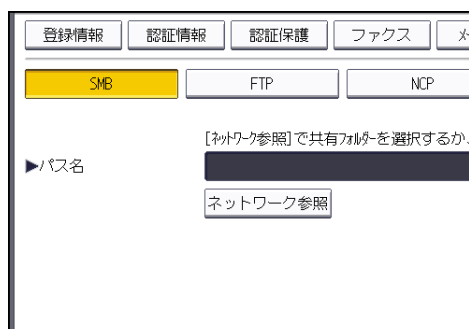
5

FTP のフォルダー宛先を登録する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. フォルダー宛先を登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

   宛先を新規に登録する場合は［新規登録］を押します。宛先を新規に登録する場合は、名前を登録する必要があります。名前の登録方法については、P.197「名前を登録する」を参照してください。

5. ［フォルダー］を押します。
6. ［FTP］を選択します。

7. 「サーバー名」の［変更］を押します。
8. サーバー名を入力し、［OK］キーを押します。

   文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

9. 「パス名」の［変更］を押します。
10. パス名を入力し、［OK］を押します。
11. 日本語文字コードを選択します。
12. 「ポート番号」の［変更］を押し、ポート番号をテンキーで入力し、［#］を押します。
13. ［接続テスト］を押し、パスが正しく設定されたか確認します。
14. ［確認］を押します。
15. ［認証情報］を押し、［▼次へ］を押します。

16. フォルダー認証の［別の認証情報を指定］を押します。

17.「ログインユーザー名」の［変更］を押します。

18. ログインユーザー名を入力し、［OK］を押します。

19.「ログインパスワード」の［変更］を押します。

20. パスワードを入力し、［OK］を押します。

21. 確認用にもう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。

22.［設定］を押します。

23.［閉じる］を押します。

24.［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- 名前の登録については、P.197「名前を登録する」を参照してください。
- 絶対パスで指定する場合は「¥（ユーザー）¥（ホーム）¥（ユーザー名）」の形式で入力します。相対パスで指定する場合は「(ディレクトリ¥サブディレクトリ)」の形式で入力します。「¥」は入力画面の［記号］を押してから、［学術］を押し、半角の「¥」を選択します。
- パスを指定しない場合は、ログインディレクトリが指定されます。
- パス名は IPv4 アドレスも入力できます。
- 「ポート番号」を変更するときは、「ポート番号」の［変更］を押し、テンキーで入力します。
- ポート番号は 1-65535 以内で指定できます。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストを行ってください。
- ご利用のパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーに関わる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。その場合は、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定方法については、Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。
- 「フォルダー認証」で［指定しない］を選択した場合は、［ファイル転送設定］タブにある［送信初期ユーザー名・パスワード］で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。詳しくは P.44「ファイル転送設定」を参照してください。
- ユーザー認証を設定している場合は、管理者に確認してください。
- Windows および Mac OS の共有フォルダーを登録するときは、P.229「SMB のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。
- NetWare サーバーのフォルダーを登録するときは、P.240「NCP のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。

FTP のフォルダー宛先を変更する

FTP のフォルダー宛先を変更します。

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. フォルダー宛先を変更するユーザーを選択します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。
5. ［フォルダー］を押します。
6. 項目を変更します。

   項目の変更については、P.238「FTP の項目を変更する」を参照してください。
7. ［接続テスト］を押してパスが正しく設定されているか確認します。
8. すべての情報を変更したら、［設定］を押します。
9. ［閉じる］を押します。
10. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.197「名前を登録する」を参照してください。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストを行ってください。
- ご利用のパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーに関わる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。その場合は、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定方法については、Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。

FTP の項目を変更する

1. 「ポート番号」の［変更］を押します。
2. ポート番号を入力し、［#］を押します。
3. 「サーバー名」の［変更］を押します。

4. **サーバー名を入力し、［OK］を押します。**

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

5. **「パス名」の［変更］を押します。**

6. **パスを入力し、［OK］を押します。**

プロトコルを変更する

フォルダー宛先で使うプロトコルを FTP から SMB または NCP に変更します。

1. **［SMB］または［NCP］を押します。**

2. **［切り替える］を押します。**

3. **各項目を再度入力します。**

- NCP の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。

FTP のフォルダー宛先を消去する

1. **［初期設定／カウンター］キーを押します。**

2. **［アドレス帳管理］を押します。**

3. **［登録／変更］が選択されていることを確認します。**

4. **フォルダー宛先を消去するユーザーを選択します。**

消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

5. **［フォルダー］を押します。**

5

6. 選択されていないプロトコルのキーを押します。

確認画面が表示されます。

7.［切り替える］を押します。

8.［設定］を押します。

9.［閉じる］を押します。

10.［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- ユーザーごと消去したいときは、P.201「ユーザーを消去する」を参照してください。

NCP のフォルダー宛先を登録する

1.［初期設定／カウンター］キーを押します。

2.［アドレス帳管理］を押します。

3.［登録／変更］が選択されていることを確認します。

4. フォルダー宛先を登録したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

宛先を新規に登録する場合は［新規登録］を押します。宛先を新規に登録する場合は、名前を登録する必要があります。名前の登録方法については、P.197「名前を登録する」を参照してください。

5.［フォルダー］を押します。

6. 接続種別を選択します。

NDS ツリーから指定する場合は［NDS］、NetWare サーバーから指定する場合は［Bindery］を押します。

7. フォルダーを指定します。

フォルダーの指定は、パスを直接指定するか、ネットワークを参照してフォルダーを選択します。詳細については、P.241「NCP のフォルダーを直接指定する」、P.242「NCP のフォルダーをネットワーク参照から指定する」を参照してください。

8.［接続テスト］を押し、パスが正しく設定されたか確認します。

9.［確認］を押します。

10.［認証情報］を押し、［▼次へ］を押します。

11. フォルダー認証の［別の認証情報を指定］を押します。

12.「ログインユーザー名」の［変更］を押します。

13. ログインユーザー名を入力し、［OK］を押します。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

14.「ログインパスワード」の［変更］を押します。

15. ログインパスワードを入力し、［OK］を押します。

16. 確認用に、もう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。

17.［設定］を押します。

18.［閉じる］を押します。

19.［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- NCP の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。
- 名前の登録については、P.197「名前を登録する」を参照してください。
- 接続種別で［NDS］を選択したときは、ユーザー名に続けてユーザーオブジェクトの存在するコンテキスト名を入力します。ユーザー名が“user”、コンテキスト名が“context”である場合の、入力するユーザー名は“user.context”になります。
- フォルダーの指定は、パスを直接指定するか、ブラウザーネットワークでフォルダーを選択します。
- 「フォルダー認証」で［指定しない］を選択した場合は、［ファイル転送設定］タブにある［送信初期ユーザー名・パスワード］で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。詳しくはP.44「ファイル転送設定」を参照してください。
- ユーザー認証を設定している場合は、管理者に確認してください。
- Windows および Mac OS の共有フォルダーを登録するときは、P.229「SMB のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。
- FTP サーバーのフォルダーを登録するときは、P.236「FTP のフォルダー宛先を登録する」を参照してください。

NCP のフォルダーを直接指定する

1.「パス名」の［変更］を押します。

2. パス名を入力します。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

3.［OK］を押します。

4.［接続テスト］を押し、パスが正しく設定されたか確認します。

5.［確認］を押します。

補足

- NCP の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。
- 接続種別で［NDS］を選択したとき、NDS ツリー名が“tree”、ボリュームの存在するコンテキスト名が“context”、ボリューム名が“volume”、フォルダー名が“folder”である場合のパスは“¥¥tree¥volume.context¥folder”となります。
- 接続種別で［Bindery］を選択したとき、NetWare サーバー名が“server”、ボリューム名が“volume”、フォルダー名が“folder”である場合のパスは、“¥¥server¥volume¥folder”となります。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度接続テストを行ってください。
- ご利用のパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーに関わる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。その場合は、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定方法については、Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。

5

NCP のフォルダーをネットワーク参照から指定する

1.［ネットワーク参照］を押します。

2. 接続種別で［NDS］を選択した場合は、NDS ツリーの一覧が表示されます。接続種別で［Bindery］を選択した場合は、NetWare サーバーの一覧が表示されます。

3. NDS ツリー、または NetWare サーバーの階層をたどり、登録するフォルダーを探します。

［ひとつ上の階層へ］を押すと階層を切り替えることができます。

4. 登録したいフォルダーを選択します。

5.［OK］を押します。

補足

- NCP の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。
- アクセス認証されているフォルダー宛先だけがブラウザーネットワーク上に表示されます。
- 使用する言語が本機と異なると、正しく表示されない場合があります。
- 一覧で表示されるのは最大で 100 件です。

NCP のフォルダー宛先を変更する

1. 初期設定／カウンターキーを押します。
2. [アドレス帳管理] を押します。
3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
4. フォルダー宛先を変更するユーザーを選択し、[フォルダー] を押します。

   変更したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。
5. 接続種別を選択します。

   NDS ツリーから指定する場合は［NDS］、NetWare サーバーから指定する場合は［Bindery］を押します。
6. 指定方法を選択し、パスを指定し直します。

   フォルダーの指定は、パスを直接指定するか、ネットワークを参照してフォルダーを選択し直します。詳細については、P.241「NCP のフォルダーを直接指定する」、P.242「NCP のフォルダーをネットワーク参照から指定する」を参照してください。

   文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。
7. [接続テスト] を押し、パスが正しく設定されたか確認します。
8. [確認] を押します。
9. [設定] を押します。
10. [閉じる] を押します。
11. [初期設定／カウンター] キーを押します。

補足

- NCP の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。
- 名前、キー表示名、見出しの変更については、P.198「名前を変更する」を参照してください。
- 接続テストが失敗したときは、設定を確認してからもう一度、接続テストを行ってください。
- ご利用のパソコンでファイアーウォールなどのセキュリティーに関わる設定がされていると、フォルダー送信ができないことがあります。その場合は、NetBIOS や本機の IP アドレスを例外設定にしてください。設定方法については、Windows のヘルプを参照するか、ファイアーウォールなどのソフトウェアのメーカーにお問い合わせください。

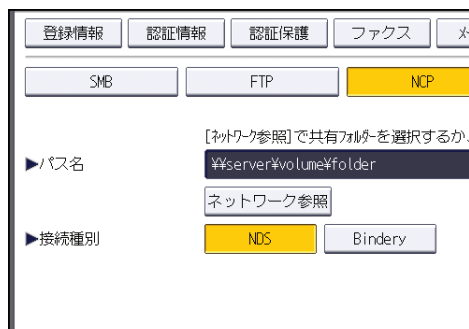
プロトコルを変更する

フォルダー宛先で使うプロトコルを NCP から SMB または FTP に変更します。

1. [SMB] または [FTP] を押します。

確認画面が表示されます。

2. [切り替える] を押します。
3. 各項目を再度入力します。

補足

- NCP の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。

NCP のフォルダー宛先を消去する

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [アドレス帳管理] を押します。
3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
4. フォルダー宛先を消去するユーザーを選択します。

消去したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

5. [フォルダー] を押します。
6. 選択されていないプロトコルのキーを押します。

確認画面が表示されます。

7. [切り替える] を押します。
8. [設定] を押します。
9. [閉じる] を押します。

5

10. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- NCP の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。
- ユーザーごと消去したいときは、P.201「ユーザーを消去する」を参照してください。

5

宛先をグループに登録する

グループにあらかじめ登録されている宛先を登録すると、ファクス宛先やメール宛先をそれぞれグループで管理できます。

宛先をグループに分けるためには、あらかじめグループを登録しておく必要があります。ここでは、グループの登録から説明します。

重要

- 50 以上のフォルダー宛先が登録されたグループにファイル送信はできません。
- 1 つのグループに登録できる宛先は最大 500 件です。

補足

- グループ内のフォルダー宛先には他の人がアクセスできないように認証保護を設定することをお勧めします。認証保護の設定方法については、P.255「認証保護について」を参照してください。

グループを登録する

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [システム初期設定] を押します。
3. [管理者用設定] を押します。
4. [グループ登録／変更／消去] を押します。
5. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
6. [新規登録] を押します。
7. グループ名の [変更] を押します。

8. グループ名を入力し、[OK] を押します。

   グループ名を入力すると、キー表示名とヨミガナも自動的に設定されます。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

9. **グループを分類しておきたい「見出し選択」の見出しキーを押します。**
10. **キー表示名を変更するときは［変更］を押し、キー表示名を入力して［OK］を押します。**
11. **［設定］を押します。**
12. **［閉じる］を押します。**
13. **［初期設定／カウンター］キーを押します。**

補足

- ［見出し選択］で選択できるキーは次のとおりです。
- ［常用］：最初に表示されるページに登録されます。
- ［あ］-［わ］、［AB］-［XYZ］、［1］-［5］：それぞれの見出しのついたページに表示されます。
- ［見出し選択］では「常用」と各見出しごとにもう 1 つ選択できます。

5

宛先をグループに登録する

メール宛先を新規登録しているときに、グループに登録することもできます。

1. **［初期設定／カウンター］キーを押します。**
2. **［システム初期設定］を押します。**
3. **［管理者用設定］を押します。**
4. **［グループ登録／変更／消去］を押します。**
5. **［登録／変更］が選択されていることを確認します。**
6. **グループに登録したいユーザーを選択します。**

   登録したいユーザーのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

7. **［登録先グループ］を押します。**

8. 登録したいグループを選択します。

選択したグループが反転表示されます。

9. ［設定］を押します。

10. ［閉じる］を押します。

11. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

グループを別のグループに登録する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。

3. ［管理者用設定］を押します。

4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。

5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

6. グループに登録したいグループを選択します。

   登録したいグループのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。グループは名前／ヨミガナから検索することができます。

7. ［登録先グループ］を押します。

8. 登録先のグループを選択します。

選択したグループが反転表示されます。

9. ［設定］を押します。
10. ［閉じる］を押します。
11. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

グループに登録されている宛先を確認する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. 登録ユーザーを確認したいグループを選択します。

   グループは名前／ヨミガナから検索することができます。

5

7. ［登録済ユーザー／グループ］を押します。

選択したグループに登録されている名前が一覧で表示されます。

8. 確認後、［設定］を押します。
9. ［閉じる］を押します。
10. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

登録した宛先をグループから削除する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. グループから削除したいユーザーを選択します。

削除したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

5. ［登録先グループ］を押します。
6. 削除したいグループを選択します。

選択したグループの反転表示が解除されます。

7. ［設定］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

登録したグループをグループから削除する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. グループから削除したいグループ名を選択します。

   削除したいグループのキーを押すか、登録番号をテンキーで入力します。グループは名前／ヨミガナから検索することができます。

7. ［登録先グループ］を押します。
8. 削除したいグループを選択します。

選択したグループの反転表示が解除されます。

9. ［設定］を押します。
10. ［閉じる］を押します。
11. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

グループ名を変更する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
6. 変更したいグループを選択します。

   グループは名前／ヨミガナから検索することができます。

7. グループ名、キー表示名、ヨミガナを変更するときは、グループ名、キー表示名、またはヨミガナの［変更］を押します。

8. グループ名、キー表示名、またはヨミガナを入力し直し、［OK］を押します。

   文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

9. 見出しを変更するときは、グループを分類しておきたい「見出し選択」の見出しキーを押します。
10. 登録番号を変更するときは、登録番号の［変更］を押します。
11. 登録番号をテンキーで入力し直します。
12. ［#］を押します。
13. ［設定］を押します。
14. ［閉じる］を押します。
15. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

グループを消去する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。
5. ［消去］を押します。
6. 消去したいグループを選択します。

   グループは名前／ヨミガナから検索することができます。
7. ［消去する］を押します。
8. ［閉じる］を押します。
9. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

宛先リストを印刷する

アドレス帳に登録した宛先のリストを印刷します。

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［システム初期設定］を押します。
3. ［管理者用設定］を押します。
4. ［アドレス帳：宛先リスト印刷］を押します。
5. 印刷形式を選択します。

   リストを両面に印刷するときは［両面に印刷する］を押します。
6. ［スタート］キーを押します。

認証保護について

送信者名やフォルダー宛先を選択するときに認証保護コードを入力するように設定することができます。

宛先保護は以下の項目に設定できます。

- フォルダー宛先（SMB プロトコルを使って接続するとき）
- 送信者

ユーザーに認証保護を設定する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。
2. ［アドレス帳管理］を押します。
3. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。
4. 認証保護を設定するユーザーを選択します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

5. ［認証保護］を押します。

6. 設定するユーザーの使用対象を選択します。

［宛先］と［送信者］両方を選択することもできます。

7. フォルダー宛先に認証保護を設定するときは、保護対象の［フォルダー宛先］を押します。

使用対象の［宛先］を選択している必要があります。

8. 送信者に認証保護を設定するときは、保護対象の［送信者］を押します。

使用対象の［送信者］を選択している必要があります。

9. ［保護コード］の［変更］を押します。

10. 保護コードをテンキーで入力し、［#］を押します。

11. ［設定］を押します。

12. ［閉じる］を押します。

13. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- 保護コードは 1 桁から 8 桁まで指定できます。

グループに認証保護を設定する

1. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

2. ［システム初期設定］を押します。

3. ［管理者用設定］を押します。

4. ［グループ登録／変更／消去］を押します。

5. ［登録／変更］が選択されていることを確認します。

6. 宛先保護を設定するグループを選択します。

グループは名前／ヨミガナから検索することができます。

7. ［認証保護］を押します。

8. 「保護対象」の［フォルダー宛先］を押します。

9.「保護コード」の［変更］を押します。

10. 保護コードをテンキーで入力し、［#］を押します。

11. ［設定］を押します。

12. ［閉じる］を押します。

13. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

- 保護コードは 8 桁まで指定できます。

5

アドレス帳の認証情報

本機のアドレス帳にある認証情報について説明します。

SMTP 認証

SMTP サーバーを使用するときに SMTP 認証を設定することによって、ユーザーごとにユーザー名とパスワードを設定します。

SMTP サーバーを利用するには、あらかじめ SMTP サーバーを登録しておく必要があります。SMTP サーバーの登録方法について詳細は、P.44「ファイル転送設定」を参照してください。

重要

- SMTP 認証を設定しない場合は、[ファイル転送設定] タブにある [SMTP 認証] の設定が有効になります。
- ユーザー認証を設定している場合は、管理者に確認してください。

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [アドレス帳管理] を押します。
3. [登録／変更] が選択されていることを確認します。
4. SMTP 認証を設定したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

   ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。
5. [認証情報] を押します。
6. SMTP 認証の [別の認証情報を指定] を押します。
7. 「ログインユーザー名」の [変更] を押します。

8. ログインユーザー名を入力し、[OK]を押します。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

9.「ログインパスワード」の[変更]を押します。

10.「ログインパスワード」を入力し、[OK]を押します。

11. 確認用にもう一度パスワードを入力し、[OK]を押します。

12. [設定]を押します。

13. [閉じる]を押します。

14. [初期設定／カウンター]キーを押します。

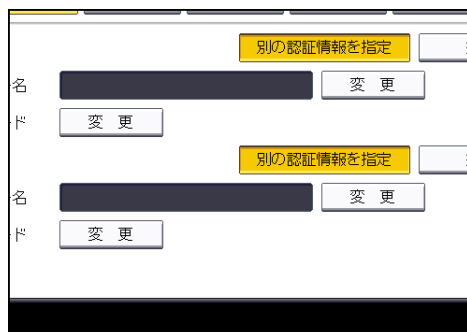
補足

- 名前の登録については、P.197「名前を登録する」を参照してください。

LDAP 認証

LDAP サーバーを使用するときに LDAP 認証を設定することによって、ユーザーごとにユーザー名とパスワードを設定します。

LDAP サーバーを利用するには、あらかじめ LDAP サーバーを登録しておく必要があります。LDAP サーバーの登録方法については P.62「LDAP サーバーを設定する」を参照してください。

重要

- **LDAP 認証を設定しない場合は、[管理者用設定]タブにある[LDAP サーバー登録／変更／消去]で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。**
- **ユーザー認証を設定している場合は、管理者に確認してください。**

1. [初期設定／カウンター]キーを押します。

2. [アドレス帳管理]を押します。

3. [登録／変更]が選択されていることを確認します。

ユーザーは、名前／ヨミガナ、ユーザーコード、ファクス番号、フォルダー名、メールアドレス、IP ファクス宛先から検索することができます。

4. LDAP 認証を設定したいユーザーのキーを押すか、テンキーで登録番号を押します。

5. [認証情報]を押し、[▼次へ]を押します。

6. LDAP 認証の[別の認証情報を指定]を押します。

7.「ログインユーザー名」の［変更］を押します。

8. ログインユーザー名を入力し、［OK］を押します。

文字の入力方法については、『本機のご利用にあたって』「文字の入力のしかた」を参照してください。

5

9.「ログインパスワード」の［変更］を押します。

10. パスワードを入力し、［OK］を押します。

11. 確認用にもう一度パスワードを入力し、［OK］を押します。

12. ［設定］を押します。

13. ［閉じる］を押します。

14. ［初期設定／カウンター］キーを押します。

補足

- 名前の登録については、P.197「名前を登録する」を参照してください。
- ［指定しない］を選択した場合は、［管理者用設定］タブにある［LDAP サーバー登録／変更／消去］で設定したユーザー名とパスワードが有効になります。

使用できる機能を確認する

ユーザー認証では、ログインユーザー名、ログインパスワードにより個人やグループ単位でのアクセス制限を設定しています。

それぞれのユーザー、グループは、認証により本機へのアクセスを許可され、管理者によってアクセス権を与えられた機能だけを使用できます。

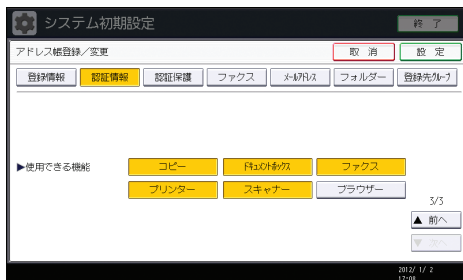
ユーザーが使用できる機能

ユーザーが使用できる機能は、コピー／ドキュメントボックス、プリンター、スキャナー、ファクスを使った印刷や蓄積、送信などです。

[システム初期設定]、[コピー／ドキュメントボックス初期設定]、[プリンター初期設定]、[スキャナー初期設定]、[ファクス初期設定] など、機器の管理・調整に関する設定は、管理者が使用します。

ユーザー認証で、使用できる機能が制限されているときは、次の手順で使用できる機能を確認できます。

5

1. [初期設定／カウンター] キーを押します。
2. [アドレス帳管理] を押します。
3. ユーザーを選択します。
4. [認証情報] を押します。
5. 「使用できる機能」で使用できる機能を確認します。

項目が表示されていない場合は、[▼次へ] を押します。

6. [設定] を押します。
7. [閉じる] を押します。
8. [初期設定／カウンター] キーを押します。

6. Windows からファイルを直接印刷する

Windows でコマンド（lpr、ftp、sftp）を使用したファイル直接印刷の方法についての説明です。

重要

- この方法で印刷できるファイルは、本機が搭載しているエミュレーション用に作られたファイルです。エミュレーション用に作られたファイルとは、例えば PostScript 3 用のポストスクリプトファイルなどです。
- 搭載していないエミュレーションのファイルは印刷できません。

セットアップの流れ

Windows からファイル直接印刷するための、環境設定の方法の説明です。

1. **本機の操作部で TCP/IP プロトコルを有効にし、IP アドレスなど TCP/IP に関するネットワーク環境を設定します。**

   本機の TCP/IP プロトコルは、工場出荷時は有効に設定されています。

2. **Windows に TCP/IP プロトコルを組み込み、ネットワーク環境を設定します。**

   ネットワークに関する設定内容はネットワーク管理者の方に確認してください。

3. **Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 で lpr を使って印刷する場合は、ネットワークソフトウェアとして「UNIX 用印刷サービス」を組み込みます。**

補足

- IP アドレスの設定方法については、P.81「ネットワークの設定」を参照してください
- 詳細は P.291「DHCP を使用する」を参照してください。

6

IP アドレスの代わりにホスト名を使用する

ホスト名が定義されていると、IP アドレスの代わりにホスト名を使ってプリンターを指定することができます。使用するホスト名はネットワーク環境により異なります。

DNS を使用している場合

DNS サーバー上のデータファイルに設定したホスト名を使用します。

DHCP を使用してプリンターの IP アドレスを設定している場合

システム設定リストの「プリンター名」に印刷された名前をホスト名として使用します。

補足

- システム設定リストの印刷方法については、『プリンター』「テスト印刷する」を参照してください。

その他の場合

印刷を行うコンピューターの hosts ファイルに、ネットワークプリンターの IP アドレスとホスト名を追加します。追加のしかたは OS により異なります。

6

1. **メモ帳などで hosts ファイルを開きます。**

   hosts ファイルは以下の場所にあります。

   Windows 2000 の場合

   ¥WINDOWS¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥HOSTS

   Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 の場合

   ¥WINDOWS¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥HOSTS

2. **hosts ファイルに IPv4 と IPv6 のアドレスとホスト名を以下の形式で追加します。**

   IPv4 の場合

   192.168.15.16 ricoh # NP

   192.168.15.16 は IPv4 アドレスの例、ricoh はプリンターのホスト名、#から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。IPv6 の場合

   2001:DB::100 ricoh # NP

   2001:DB::100 は IPv6 アドレスの例、ricoh はプリンターのホスト名、#から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

3. **ファイルを上書き保存します。**

補足

- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- IPv6 対応の OS は、Windows XP SP2 と Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2、および Windows Vista/7 です。

印刷方法

lpr、ftp、sftp コマンドを使った印刷方法の説明です。

コマンドはコマンドプロンプト ウィンドウで入力します。各 Windows でのコマンドプロンプトの場所は次のとおりです。

Windows 2000 の場合：

［スタート］-［プログラム］-［アクセサリ］-［コマンドプロンプト］

Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 の場合：

［スタート］-［すべてのプログラム］-［アクセサリ］-［コマンドプロンプト］

補足

- 印刷するファイルのデータ形式とプリンターのエミュレーションモードを合わせてください。
- 「print requests full」のメッセージが表示されたときは、印刷要求がフルの状態です。印刷要求が少なくなってから印刷し直してください。各コマンドを使用したときの最大セッション数は次のとおりです。
    - lpr：10
    - ftp：3
    - sftp：3
- ファイル名はコマンドを実行するディレクトリからのパスを含めた形で入力してください。
- エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

lpr コマンドで印刷する

IP アドレスを使ってプリンターを指定する場合

c:> lpr -S プリンターの IP アドレス［-P オプション］［-ol］¥パス名¥ファイル名

IP アドレスの代わりにホスト名を使用する場合

c:> lpr -S プリンターのホスト名［-P オプション］［-ol］¥パス名¥ファイル名

バイナリーファイルを印刷する場合は -o l（小文字の O と、小文字の L）オプションを付けてください。

ホスト名が ricoh のプリンターに、C:¥PRINT ディレクトリにある、名前が file1 の PostScript ファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

c:> lpr -Sricoh -Pfiletype=RPS -o l C:¥PRINT¥file1

仮想プリンターから印刷する場合

c:> lpr -S プリンターの IP アドレス（またはホスト名）[-P 仮想プリンター名］［-ol］¥パス名¥ファイル名

補足

- 仮想プリンターの設定については、『プリンター』「仮想プリンターを使用する」を参照してください。

ftp/sftp コマンドで印刷する

印刷するファイル数に応じて put または mput コマンドを使います。

印刷するファイルが 1 つの場合

ftp> put ¥パス名¥ファイル名［オプション］

仮想プリンターから印刷する場合

ftp> put ¥パス名¥ファイル名［仮想プリンター名］

印刷するファイルが複数の場合

ftp> mput ¥パス名¥ファイル名［¥パス名¥ファイル名...］

ftp を起動してから印刷するまでの手順は次のようになります。ここでは ftp で説明します。

1. **本機の IP アドレス（または hosts ファイルに設定した本機のホスト名）を引数にして ftp コマンドを起動します。**

   % ftp 本機の IP アドレス（またはホスト名）

2. **ユーザー名とパスワードを入力し、［Enter］キーを押します。**

   User:

   Password:

   ユーザー名とパスワードは管理者に確認してください。

   ユーザー認証が設定されているときは、ユーザー名にログインユーザー名を、パスワードにログインパスワードを入力します。

3. **バイナリーファイルを印刷するときは、ファイルのモードをバイナリーモードにします。**

   ftp> bin

   バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷されないことがあります。

4. **印刷するファイルを指定します。**

   以下は C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 という名前の PostScript ファイルを印刷する例と、file1 と file2 を印刷する例です。

6

ftp> put C:¥PRINT¥file1 filetype=RPS

ftp> mput C:¥PRINT¥file1 file2

5. ftp を終了します。

ftp> bye

補足

- ファイル名に「=」、「,」、「_」および「;」は使用できません。ファイル名をオプション文字列と判断してしまいます。
- mput コマンドではオプションを指定できません。
- ftp をご使用の場合は、pwd コマンドではオプションを指定できません。
- sftp をご使用の場合は、cd コマンドではオプションを指定できません。
- sftp をご使用の場合は、pwd コマンドではオプションを指定できません。
- sftp をご使用の場合は、ssh 設定の公開鍵を作成しておく必要があります。公開鍵の作成方法については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。
- 個人認証（ベーシック認証・Windows 認証・LDAP 認証・統合サーバー認証）が有効になっている場合は、未認証ユーザー（正しくログインユーザー名とログインパスワードを入力しても認証されないユーザー）ではログインできません。
- mput コマンドではファイル名に「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷されないことがあります。
- C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 という名前のファイルを RPDL で印刷する例
    - ftp> put C:¥PRINT¥file1 filetype=R00
- hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法について詳しくは、P.264「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。
- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者に確認してください。
- 仮想プリンターの設定については、『プリンター』「仮想プリンターを使用する」を参照してください。

6

7. UNIX で印刷する

本機を UNIX 環境で使用する場合の設定方法を説明します。

セットアップ（UNIX）

UNIX でネットワークプリンターとして使用する場合の、設定方法の説明です。

本機は LPD プロトコルをサポートしており、RFC1179 に準拠した LPD 搭載のホストから使用することができます。

設定方法は各 OS に搭載された LPD システムによって異なっています。

代表的な UNIX-OS 上で LPD 印刷環境の構築するためのシェルスクリプトを、ウェブサイト（http://www.ricoh.co.jp/）からダウンロードすることができます。適用 OS をウェブサイト上でご確認のうえ、ダウンロードしてください。また、インストールシェルの使用方法等に関しては、ウェブサイトにて提供している説明資料を参照してください。

LPD の設定方法

BSD ベースのリモートプリンターの設定方法、および Solaris2.x におけるネットワークプリンターの設定方法を説明します。

補足

- コマンド例は、使用している OS によって多少異なります。本書の説明内容を参考に、それぞれの OS のマニュアルを参照してください。

BSD ベースの LPD システム

システム上でスーパーユーザー（root 権限）、またはそれに準ずるシステム管理者権限が必要です。

重要

- **適用する OS 上で LPD 印刷をサポートしている**
- **本機に IPv4 アドレスが設定されており、ネットワーク上で有効なことが確認できている**
- **本機の設定における TCP/IP プロトコルおよび LPD プロトコルがともに有効になっている**

/etc/printcap へのエントリー追加

lpr コマンドを使って LPD 印刷ができるように、/etc/printcap を修正します。

ここでは、プリンター名、ホスト名、論理プリンター名が以下のように設定されているものとします。

プリンター名：ricoh_prn

ホスト名：printer_host

論理プリンター名：filetype=RPS

- エントリー追加例

  ricoh_prn Ricoh Network Printer:¥

  :lp=:¥

  :rm=printer_host:¥

  :rp=filetype=RPS:¥

  :sd=/usr/spool/lpd/ricoh_prn:¥

  :lf=/var/log/ricoh-lpd-errs:¥

  :mx#0:

補足

- 「ricoh_prn | Ricoh Network Printer:¥」のフィールドは、プリンターの識別名（プリンター名）となります。lpr コマンドから指定するプリンター名は、ここで指定する識別名となります。
- 「ricoh_prn | Ricoh Network Printer:¥」のフィールドでは、「 | 」を使っていくつものプリンター識別名を記載することができます。
- :lp=:¥以降のフィールドは、プリンター属性に関する記載となります。ケーパビリティの名称で表されます。
  - lp

    本機を接続する際のデバイス名となります。本機をネットワークプリンターとして使用する場合には、通常このフィールドには何も指定しません。（なお、プリンターをワークステーション上に直接接続する際には、デバイスファイル名を記載します。）
  - rm

    本機のホスト名を指定します。必要に応じて/etc/hosts ファイルにホスト名を事前に記載する必要があります。
  - rp

    論理プリンター名を指定します。本機では、印刷時のオプション指定文字列を指定します。特に必要がなければ、lp（デフォルト）を指定します。

    登録したプログラム番号の指定方法については、P.275「エミュレーションとプログラム」を参照してください。
  - sd

    印刷を行う際に一時的に使用するスプールディレクトリのパス名を指定します。スプールディレクトリはネットワークプリンターごとに必要になり、/etc/printcap に記載するエントリー毎に作成しなければなりません。

- lf

  ログを格納するファイルのフルパス名を指定します。

- mx

  スプールディレクトリにコピー可能なファイルの最大サイズを指定します。

  通常、何も指定しないか適当な値を設定します。0 を指定すると無制限、指定しないと 1024K バイトとなります。

スプールディレクトリの作成

ターミナル上でスプールディレクトリを作成します。root 権限が必要です。

（例）

```
# mkdir/user/spool/lpd
# cd/user/spool/lpd
# mkdir ricoh_prn
# chown daemon ricoh_prn
# chgrp daemon ricoh_prn
# chmod 770 ricoh_prn
```

LPD システムを再起動します（LPD システムの再起動方法については、OS ごとに方法が異なります。詳細は OS に添付のドキュメントをご確認ください）。

（例）

```
# lpc restart ricoh_prn
```

印刷動作の確認

ここまでに作成したプリンターが正しく動作するかを確認します。

Usage: lpr -P プリンター名 ファイル名[ファイル名...]

（例）

```
% lpr -Pricoh-prn file1
```

補足

- プリンター名には、/etc/printers.conf にエントリーを追加した際のプリンター名を指定します。
- ファイル名には、「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- 「print requests full」のメッセージが表示された場合は、印刷要求がフルで受け付けることが出来ない状態です。最大 10 セッションです。

Solaris の LP システム

システム上でスーパーユーザー（root 権限）、またはそれに準ずるシステム管理者権限が必要です。

重要

- **適用する OS 上で LPD 印刷をサポートしている**
- **本機に IPv4 アドレスが設定されており、ネットワーク上で有効なことが確認できている**
- **本機の設定における TCP/IP プロトコル及び LPD プロトコルがともに有効になっている**

プリンターの作成

Solaris では、ネットワークプリンターとリモートプリンターの 2 種類のプリンターを作成することができます。

ここでは、プリンター名、ホスト名、論理プリンター名が以下のように設定されているものとします。

プリンター名：ricoh_prn

ホスト名：printer_host

論理プリンター名：filetype_RPS

- リモートプリンターの作成方法

  # /usr/sbin/lpadmin -p ricoh_prn -s printer_host!lp -T dumb -I（大文字のアイ） any（非 PS プリンター設定）

  または

  # /usr/sbin/lpadmin -p ricoh_prn -s printer_host!filetype_RPS -T PS -I（大文字のアイ） postscript （PS プリンター設定）

- ネットワークプリンターの作成方法

  # lpadmin -p ricoh_prn -m netstandard -o protocol=bsd -o dest=printer_host:lp -v /dev/null -T unknown -I（大文字のアイ） any （非 PS プリンター）

  または

  # lpadmin -p ricoh_prn -m netstandard -o protocol=bsd -o dest=printer_host:filetype_RPS -v /dev/null -T PS -I（大文字のアイ）postscript（PS プリンター）

補足

- 詳細は、Solaris に付属のドキュメントを参照して確認してください。
- 非 PS プリンター設定で、印刷時に使用するプログラムを指定する場合は、lp を filetype=P1 などと置き換えてください。

プリンターの有効化

作成したプリンターを有効化し、プリンターが動作できる状態にします。

accept printer

destination printer "printer" now accepting requests

enable printer

printer "printer" now enabled

印刷動作の確認

作成されたプリンターが正しく動作しているか、コマンドを入力して確認します。

Usage : lp -d プリンター名 ファイル名 [ファイル名 ...]

% lp -d ricoh_prn file1

補足

- プリンター名には、/etc/printers.conf にエントリーを追加した際のプリンター名を指定します。
- ファイル名には、「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- 「print requests full」のメッセージが表示された場合は、印刷要求がフルで受け付けることが出来ない状態です。最大 10 セッションです。
- PostScript プリンターを作成した場合には、ファイル名で指定されるファイルは PostScript データでなければ、正しく出力されない場合があります。
- バナーページが出力される場合がありますので、不要な場合には、コマンドラインで「-o nobanner」指定により付加せずに出力できます。

オプション指定

ここでは、RPDL/PS3/PDF からの印刷オプション指定について記載しています。

PCL、RPGL、RTIFF エミュレーションからも印刷オプションを指定できます。PCL、RPGL、RTIFF の印刷オプションについては、『エミュレーション』を参照してください。

オプションを使うことにより、本機固有のプリンター機能を使った印刷ができます。指定可能なオプションの種類と動作は、エミュレーションにより異なります。

オプションに入力できる文字列について

- 本機が認識できるオプション文字列は最大 512 バイトです。
- PostScript 3 をご使用の場合、本機が認識できるオプション文字列は最大 256 バイトです。
- OS によってはオプションとして入力できる文字数に制限があります。オプションの省略形を使っても文字数の制限を超えてしまう場合は、本機のプログラム登録を使ってください。

オプションを指定するコマンドを入力する場合

- 複数のオプションを指定するときはカンマ（,）で区切って入力します。
- 印刷するファイルの中にオプション指定を制御するコマンドが含まれている場合は、その内容が優先します。
- イコール（=）を含まないオプションを単独で指定するときは、オプションの先頭にカンマ（,）を追加します。

オプション指定の方法に制限がある OS の場合

オプション指定にイコール（=）が使用できない OS では、イコールの代わりにアンダーライン（_）が使用できます。

例えば、filetype をオプションに指定するときは、filetype_RPS（省略形は fil_RPS）のように入力してください。

また、オプション指定にカンマ（,）が使用できない OS では、カンマの代わりにセミコロン（；）が使用できます。

Solaris 2.6 以上で指定できるオプションの数について

Solaris 2.6 以上でオプションを指定するときは、プリンターの種類やコマンドによって、指定できるオプション数が異なります。

- lpr
    - リモートプリンターの場合

      文字列制限の範囲内で複数指定可能
    - ネットワークプリンターの場合

      コマンドにかかわらず一つのみ指定可能
- rsh

7

文字列制限の範囲内で複数指定可能

- rcp

  コマンドにかかわらず一つのみ指定可能

- ftp

  文字列制限の範囲内で複数指定可能

補足

- RPGL、または RTIFF エミュレーションから印刷オプションを指定できます。RPGL の印刷オプションについては、『RP-GL/2 編』、RTIFF の印刷オプションについては、『RTIFF 編』を、それぞれご確認ください。

エミュレーションとプログラム

印刷時に使用するエミュレーションまたはプログラムを指定します。お使いの拡張エミュレーションカードによって設定できるエミュレーションの指定値が異なります。

filetype（または fil）＝エミュレーションの指定値（またはプログラム登録番号の指定値）

- エミュレーション：指定値

  RPCS：RCS または RPCS

  PostScript 3：RPS または POSTSCRIPT

  GL/GL2（GL モード）：RGL

  GL/GL2（RPGL2 モード）：GL2

  R16：R16

  R55：R55

  R98：R98

  RTIFF：RTF

  RPDL：R00

  PictBridge：PICTBRIDGE

  PCL5c：PCL

  PCL XL: PCLXL

  BMLinkS：BMLINKS

  PDF：PDF

- プログラム登録番号：指定値

  プログラム 1：P1

  プログラム 2：P2

  プログラム 3：P3

7

プログラム 4：P4

プログラム 5：P5

プログラム 6：P6

プログラム 7：P7

プログラム 8：P8

プログラム 9：P9

プログラム 10：P10

プログラム 11：P11

プログラム 12：P12

プログラム 13：P13

プログラム 14：P14

プログラム 15：P15

プログラム 16：P16

PostScript 3 で印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh ファイル名 file1）

- <rsh> % rsh ricoh print filetype=RPCS < file1
- <rcp> % rcp file1 ricoh:filetype=RPCS
- <ftp> ftp> put file1 filetype=RPCS

ftp の cd コマンドの利用

ftp で印刷する場合は、cd コマンドでオプションを指定しておけば、put または mput コマンド使用時にそのオプションが有効になります。

ftp> cd オプション

- 搭載していないエミュレーションは指定しても無効です。

補足

- 現在設定されているオプションを表示するには pwd コマンドを使います。
- ftp> pwd

漢字フィルター

漢字フィルターを使用すると、作成したテキストファイルと同じ漢字コードで印刷できます。

重要

- **エミュレーションが RPDL のときに有効です。漢字フィルターを指定するときはエミュレーションとして RPDL（filetype=R00）を指定します。**

filter（または flt）＝漢字コード指定値

- 漢字コード：指定値（省略値）

  EUC：EUC（E）

  JIS：JIS（J）

  シフト JIS：SJIS（S）

EUC 漢字コードのテキストファイルを印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh、ファイル名 file1）

<rsh> % rsh ricoh print filetype=R00,filter=EUC < file1

<rcp> % rcp file1ricoh:filetype=R00,filter=EUC

<ftp> ftp> put file1 filetype=R00,filter=EUC

給紙トレイ

給紙トレイを指定します。お使いのオプションによっては、設定できる給紙トレイの指定値が異なります。

重要

- **エミュレーションが RPDL、PostScript 3、または PDF のときに有効です。**
- **増設していないトレイを指定しても無効です。**

RPDL

- tray=給紙トレイの指定値（給紙トレイ：指定値）

  給紙トレイ 1：1

  給紙トレイ 2：2

  給紙トレイ 3：3

  給紙トレイ 4：4

  LCT：5

  手差しトレイ：T
- 給紙トレイの指定値は機器情報で得られる給紙トレイ番号に対応しています。
- 給紙トレイ 2 の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh、ファイル名 file1）

  <rsh> %rsh ricoh print tray=2 < file1

  <rcp> %rcp file1 ricoh:tray=2

  <ftp> ftp> put file1 tray=2

PostScript 3、PDF

- tray=給紙トレイの指定値（給紙トレイ：指定値）

給紙トレイ 1：tray1

給紙トレイ 2：tray2

給紙トレイ 3：tray3

給紙トレイ 4：tray4

LCT：lct

手差しトレイ：bypass

自動トレイ選択：all

- トレイ 2 の用紙に印刷する場合のコマンド例（プリンターのホスト名 ricoh ファイル名 file1）

  <rsh> % rsh ricoh print tray=tray2 < file1

  <rcp> % rcp file1 ricoh:tray=tray2

  <ftp> ftp> put file1 tray=tray2

用紙サイズ

用紙サイズを指定します。お使いの機種によっては、設定できる用紙サイズの指定値が異なります。

重要

- **エミュレーションが RPDL または PostScript 3 のときだけ有効です。**
- **存在していない用紙サイズは指定しても無効です。**

RPDL

- paper=用紙サイズの指定値（指定値：用紙サイズ）

  A3R：A3（ヨコ）

  A4R：A4（ヨコ）

  A4：A4（タテ）

  A5R：A5（ヨコ）

  A5：A5（タテ）

  B4R：B4（ヨコ）

  B5R：B5（ヨコ）

  B5：B5（タテ）

  B6R：B6（ヨコ）

  A6R：A6（ヨコ）

  PCR：ハガキ（ヨコ）

  DLR：11×17（ヨコ）

LGR：81/2×14（ヨコ）

LTR：81/2×11（ヨコ）

LT：81/2×11（タテ）

HLR：51/2×81/2（ヨコ）

28NR：12×18（ヨコ）

WPC：往復ハガキ（タテ）

WPCR：往復ハガキ（ヨコ）

- A3 の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh ファイル名 file1）

  <rsh> % rsh ricoh print paper=A3R < file1

  <rcp> % rcp file1 ricoh:paper=A3R

  <ftp> ftp> put file1 paper=A3R

PostScript 3

- paper=用紙サイズの指定値

  指定値：a3（A3）、a4（A4）、a5（A5）、a6（A6）、jisb4（B4）、jisb5（B5）、jisb6（B6）、ledger（11×17）、letter（81/2×11）、halfletter（51/2×81/2）、legal（81/2×14）、jpost（ハガキ）、executive（71/4×101/2）、fgl（8×13）、governmentlg（81/4×14）、glt（8×101/2）、foolscap（８ 1/2×13）、folio（81/4×13）、k8（8 開）、k16（16 開）、inch11x14（11×14）、engquatro（8×10）、inch11x15（11×15）、bd（取立用紙 BD182×210）、inch10x15（10×15）、lineslider1（ラインスライダー 1）、lineslider2（ラインスライダー 2）

- A3 の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh ファイル名 file1）

  <rsh> % rsh ricoh print paper=a3 < file1

  <rcp> % rcp file1 ricoh:paper=a3

  <ftp> ftp> put file1 paper=a3

用紙種類

用紙の種類を指定します。

★重要

- **エミュレーションが RPDL、PostScript 3、または PDF のときに有効です。**
- **対応していない用紙種類は指定しても無効です。**
- **RPDL の場合、用紙サイズに付加して用紙種類を指定します。**

RPDL

- paper= 用紙サイズの指定値+用紙種類の指定値

.Plain（普通紙）、.Recycled（再生紙）、.Special（特殊紙）、.Letterhead（レターヘッド付き用紙）、.Transparency（OHPフィルム）、.Tabstock（インデックス紙）.Translucent（トレーシングペーパー）、.Labels（ラベル紙）、.Plainduplexbackside（普通紙裏紙）、.Thickduplexbackside（厚紙裏紙）、.Usercolor 1（色紙1）、.Usercolor 2（色紙2）、.Thick（厚紙）、.Thick2（厚紙2）、.Middlethick（中厚口）、.Envelope（封筒）

- A3再生紙の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名ricoh、ファイル名file1）

  <rsh> % rsh ricoh print paper=A3R.recycled < file1

  <rcp> % rcp file1 ricoh:paper=A3R.recycled

  <ftp> ftp> put file1 paper=A3R.recycled

PostScript 3、PDF

- mediatype=用紙種類の指定値

  plain（普通紙）、recycled（再生紙）、plainorrecycled（普通紙／再生紙）、special（特殊紙）、letterhead（レターヘッド付き用紙）、transparency（OHPフィルム）、tabstock（インデックス紙）、labels（ラベル紙）、translicent（トレーシングペーパー）、usercolor1（色紙1）、usercolor2（色紙2）、thick（厚紙）、thick2（厚紙2）、middlethick（中厚口）、envelope（封筒）、auto（自動選択）

- 再生紙の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名ricoh、ファイル名file1）

  <rsh> % rsh ricoh print mediatype=recycled < file1

  <rcp> % rcp file1 ricoh:mediatype=recycled

  <ftp> ftp> put file1 mediatype=recycled

排紙トレイ

排紙トレイを指定します。

- **エミュレーションがRPDL、PostScript 3、またはPDFのときだけ有効です。**
- **増設していないトレイを指定しても無効です。**

RPDL

bin=排紙トレイの指定値

排紙トレイ番号2のトレイに排紙する場合のコマンド例（本機のホスト名ricoh、ファイル名file1）

<rsh> % rsh ricoh print bin=2 < file1

<rcp> % rcp file1 ricoh:bin=2

<ftp> ftp> put file1 bin=2

- 排紙トレイの指定値は機器情報（例：ftp の get info -）で得られる排紙トレイ番号に対応しています。
- 機器情報は、次の手順で見ることができます。
    1. コンソールを使用できるようにします。
    2. 「ftp（本機の IP アドレス）」と入力し、[Return] キーを押します。
    3. [Return] キーを 2 回押します。
    4. 「get info -」と入力し、[Return] キーを押します。
       プリンター情報が表示されます。
    5. 「bye」と入力し、[Return] キーを押します。
    6. 「exit」と入力し、[Return] キーを押します。
       ワークステーションの画面に戻ります。

PostScript 3、PDF

- outbin=排紙トレイの指定値

  upper、finisherproof、finishershift、finisherbooklet、optionaloutputbin1～10、manual、foldproof
- upper に排紙する場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh、ファイル名 file1）

  <rsh> % rsh ricoh print outbin=upper < file1

  <rcp> % rcp file1 ricoh:outbin=upper

  <ftp> ftp> put file1 outbin=upper

印刷部数

印刷部数を指定します。

重要

- **エミュレーションが RPDL、PostScript 3、または PDF のときに有効です。**
- **漢字フィルターを指定すると、印刷部数の指定は無効になります。**
- **PostScript 3 または PDF の場合は、「qty」と同時に指定しないでください。**

copies=印刷部数（1 999）

10 部印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh ファイル名 file1）

<rsh> % rsh ricoh print copies=10 < file1

<rcp> % rcp file1 ricoh:copies=10

<ftp> ftp> put file1 copies=10

ソート部数

ソートする印刷部数を指定します。

重要

- エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。
- 「copies」と同時に指定しないでください。

qty=ソート部数（PostScript 3、PDF ：1 999）

10 部ソートして印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh、ファイル名 file1）

<rsh> % rsh ricoh print qty=10 < file1

<rcp> % rcp file1 ricoh:qty=10

<ftp> ftp> put file1 qty=10

両面印刷

用紙の両面に印刷できます。

重要

- エミュレーションが RPDL、PostScript 3、または PDF のときに有効です。

RPDL

- bothside または bothleft（左とじ）

  bothright（右とじ）

  flip（上とじ）

  singleside（両面印刷の解除：片面印刷）

- 左とじで両面印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh、ファイル名 file1）

  <rsh> % rsh ricoh print bothside < file1

  <rcp> % rcp file1 ricoh:bothside

  <ftp> ftp> put file1 bothside

PostScript 3、PDF

- duplex=on（両面印刷する）

  duplex=off（両面印刷しない）

  binding=longedge（両面印刷時の綴じ位置の設定：長辺）

  binding=shortedge（両面印刷時の綴じ位置の設定：短辺）

  binding=left（両面印刷時の綴じ位置の設定：左）

  binding=top（両面印刷時の綴じ位置の設定：上）

binding＝right（両面印刷時の綴じ位置の設定：右）

- 両面印刷で綴じ位置を長辺にする場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh、ファイル名 file1）

  ＜rsh＞ % rsh ricoh print duplex＝on、binding＝longedge ＜ file1

  ＜rcp＞ % rcp file1 ricoh:duplex＝on、binding＝longedge

  ＜ftp＞ ftp＞ put file1 duplex＝on、binding＝longedge

補足

- RPDL で印刷オプションに漢字フィルターを指定している場合、両面印刷されないことがあります。このようなときは、漢字フィルターの指定をしないでください。
- 印刷データによって印刷したあと両面印刷が解除されないことがあります。次の印刷時にも両面印刷されるときは singleside を指定してください。

解像度

印刷する解像度を指定します。

重要

- **エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。お使いの機種によっては、設定できる解像度の指定値が異なります。**

resolution＝解像度（300,400,600,1200）

600dpi で印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh、ファイル名 file1）

＜rsh＞ % rsh ricoh print resolution＝600 ＜ file1

＜rcp＞ % rcp file1 ricoh:resolution＝600

＜ftp＞ ftp＞ put file1 resolution＝600

ステープル

印刷物をステープルで綴じるときに指定します。

重要

- **フィニッシャーが必要です。**
- **エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときだけ有効です。**

staple＝ステープル位置の指定値（ステープル位置：指定値）

左上 1 カ所：lefttop、lefttopslantport、lefttopslantland、lefttopvertport、lefttopvertland、lefttophorizport、lefttophorizland

右上 1 カ所：righttop、righttopvertport、righttopvertland、righttopslantport、righttopslantland、righttophorizport、righttophorizland

左 2 カ所：left2port、left2land

右 2 カ所：right2port、right2land

上 2 カ所：top2port、top2land

中 2 カ所：booklet

- 左上 1 カ所をステープルで綴じる場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh、ファイル名 file1）

  ＜rsh＞ % rsh ricoh print staple＝lefttop ＜ file1

  ＜rcp＞ % rcp file1 ricoh:staple＝lefttop

  ＜ftp＞ ftp＞ put file1 staple＝lefttop

指定値	ステープル位置	ステープル方向の優先順位
lefttop		給紙方向が優先されます。 給紙方向＞斜め＞水平（垂直）の順で、優先的に印刷されます。
righttop		
lefttopslantport lefttopslantland lefttopphorizport lefttopphorizland lefttopvertport lefttopvertland		斜めステープルが優先されます。 斜め＞給紙方向＞水平（垂直）の順で、優先的に印刷されます。
righttopslantport righttopslantland righttopphorizport righttopphorizland righttopvertport righttopvertland		
left2port left2land		
right2port right2land		
top2port top2land		
booklet		

パンチ

印刷物にパンチ穴をあけるときに指定します。

重要

- フィニッシャー、および2穴パンチユニットが必要です。
- エミュレーションがPostScript 3、またはPDFのときだけ有効です。

punch=パンチ位置の指定値（パンチ位置：指定値）

左：leftport または leftland

右：rightport または rightland

上：topport または topland

用紙の左側にパンチする場合のコマンド例（本機のホスト名 ricoh、ファイル名 file1）

<rsh> % rsh ricoh print punch=leftport < file1

<rcp> % rcp file1 ricoh:punch=leftport

<ftp> ftp> put file1 punch=leftport

本機の用紙方向	印刷データの方向	指定値	パンチ位置
	タテ	leftport leftland	R
		rightport rightland	R
	ヨコ	topport topland	R
	タテ	topport topland	R
	ヨコ	leftport leftland	R
		rightport rightland	R

ユーザーコード

ユーザーコードを指定できます。

書式

usercode = "ユーザーコード"

説明

- ユーザーコードには半角数字 8 文字を指定できます。
- ユーザーコードの前後に""を指定する必要があります。
- Windows の FTP クライアントの場合、usercode は指定できません。

補足

- OS によってはダブルクォーテーションは送信されないため、バックスラッシュ "¥"（0x5c）などのエスケープ記号が必要となる場合があります。たとえば rsh の場合、次のような書式となります。
- rsh hostname print usercode=¥"12345¥" < 印刷ファイル
- ftp でユーザーコードを指定する場合は、以下のように大文字で指定してください。
- ftp> put filename USERCODE=¥"12345¥"

オプション指定の変更方法

lpr で印刷するときにはインストールシェル実行時に指定したオプションが使われます。

一度設定したオプションを変更したい場合は、使用しているワークステーションに応じて次のように操作します。

BSD 系 UNIX ワークステーション

/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを削除し、もう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。

または、/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを探し、その rp ケーパビリティを新しいオプション指定に変更します。

Solaris、HP-UX

変更するプリンターのエントリーを削除し、もう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。プリンターのエントリーを削除するには、以下のように操作します。

1. スケジューラーを停止します。

   # /usr/sbin/lpshut

2. プリンターを削除します。

   # /usr/sbin/lpadmin -x プリンターの名前

3. スケジューラーを再起動します。

   # /usr/lib/lp/lpsched

7

本機の状態表示

BSD 系 UNIX ワークステーションの場合、以下のコマンドを使ってプリンターの状態や情報を表示したりファイルにコピーすることができます。

表示する場合

本機の状態を表示するためのコマンドの説明です。

- lpq コマンドを使って本機の状態（ステータス）と印刷ジョブ情報を表示できます。

  % lpq -P 本機の名前

- rsh、rcp、ftp を使って、指定したパラメーターに応じた内容を表示できます。

  % rsh 本機のホスト名 パラメーター

  % ftp 本機のホスト名

  User: ユーザー名

  password: パスワード

  ftp> get パラメーター

- rsh、rcp、ftp、sftp で指定できるパラメーターには次の種類があります。

  stat: 機器の状態（ステータス）

  stat: 印刷ジョブの情報（印刷ジョブ情報）

  info: 給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション（機器情報）

  prnlog: これまでに印刷した記録（プリントログ情報）

  syslog: ネットワークインターフェースボードに関して発生したメッセージの記録（システムログ情報）

ファイルにコピーする場合

rcp、ftp を使って、指定したパラメーターに応じた内容をファイルにコピーできます。

% rcp プリンターのホスト名：パラメーター ファイル名

% ftp プリンターのホスト名

User: ユーザー名

password: パスワード

ftp> get パラメーター ファイル名

補足

- パラメーターの種類は、表示する場合と同じです。

7

8. 付録

Windows ターミナルサービス／Citrix Presentation Server を使用する

Windows ターミナルサービス／Citrix Presentation Server を使用する方法の説明です。

動作環境

使用可能な OS と Citrix Presentation Server との組み合わせは次のとおりです。

Citrix Presentation Server 4.0, 4.5/XenApp 5.0/6.0

- Windows 2000 Server
- Windows Server 2003/2003 R2
- Windows Server 2008/2008 R2

対応プリンタードライバー

Windows ターミナルサービスがインストールされている環境で使用できるプリンタードライバーは、次のとおりです。

- RPCS ドライバー
- PCL ドライバー
- PS3 ドライバー

制限

動作が制限される環境についての説明です。

「Windows ターミナルサービス」動作時

［スタート］メニューから Windows 2000 Server ファミリーでターミナルサービスを実行している環境で Ridoc IO Navi をインストールする場合は、必ずインストールモードでインストールを行ってください。インストールモードでインストールを行うには、次の 2 通りの方法があります。

1. ［コントロールパネル］の［アプリケーションの追加と削除］を使用して Ridoc IO Navi をインストールします。
2. MS-DOS コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

   CHANGE USER /INSTALL

8

インストールモードを終了するには、MS-DOS コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

CHANGE USER /EXECUTE

詳しくは Windows のヘルプを参照してください。

印刷時

サイズの大きな画像や、フォントが大量に含まれたデータを印刷すると、画像や文字抜けが発生する場合があります。事前検証のうえ、運用してください。

「クライアントプリンタの自動作成機能」使用時

「クライアントプリンタの自動作成機能」とは、Citrix サーバーにログオンする時に、クライアント側で使用しているローカルプリンタの情報を基にして、Citrix サーバー側にて、そのクライアント専用の論理プリンタが自動的に作成される機能です。事前検証のうえ、運用してください。

- 大容量の画像データを印刷したり、ISDN などの電話回線を利用した WAN 環境でお使いになる場合、事前検証のうえ、運用してください。
- 「Citrix 管理コンソール」より、「クライアントプリンターで使用可能な帯域幅」をお使いの環境に合わせて設定して、使用してください。

サーバー側で印刷エラーが発生し、印刷ジョブや「クライアントプリンタの自動作成機能」で作成されたプリンターが削除されない場合、次の対処方法を行ってください。

- 「Citrix 管理コンソール」の「プリンタの管理」のプロパティにて「ログオフ時に保留中の印刷ジョブを削除する」設定を実施します。

「プリンタードライバーの複製機能」使用時

事前検証のうえ、運用してください。

正しく複製されない場合は、各サーバーにプリンタードライバーをインストールして、運用してください。

補足

- 制限事項について詳しくは、リコーホームページを参照してください。

DHCP を使用する

本機を DHCP 環境で使用することができます。WINS サーバーが稼働している環境では、同時にプリンター名を WINS サーバーに登録することができます。

動作対象の DHCPv4 サーバーは、Windows 2000 Server 日本語版、Windows server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 日本語版、NetWare、および UNIX に標準添付されている DHCP サーバーです。

動作対象の DHCPv6 サーバーは、Windows server 2008/2008 R2 日本語版、NetWare、および UNIX に標準添付されている DHCP サーバーです。

WINS サーバーは DHCPv6 に対応していません。

WINS サーバーを使用する場合は、本機の設定項目で［WINS 設定］を［使用する］に設定してください。

WINS サーバーを使用することで、リモートネットワークのプリンターポートでホスト名を使用できます。

WINS サーバーを使用しない場合は、毎回同じ IPv4 アドレスが割り当てられるように、本機に割り当てる IPv4 アドレスを DHCP サーバーで予約してください。

複数の DHCP サーバーが存在する場合は、すべての DHCP サーバーに同じ予約をしてください。本機は最初に応答した DHCP サーバーからの情報で動作します。

ネットワークに ISDN 回線を接続している環境で DHCP リレーエージェントを使用した場合、本機からパケットが送出されるたびに ISDN 回線が接続され、多大な通信料がかかることがあります。

補足

- 本機が DHCP から取得した IPv4 アドレスは、システム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、『プリンター』「テスト印刷する」を参照してください。

AutoNet 機能を使用する

DHCP サーバーから IPv4 アドレスが割り当てられなかった場合、本機は、臨時に 169.254.xxx.xxx ではじまるネットワーク上で使用されていない IPv4 アドレスを自動選択して使用できます。

補足

- AutoNet 機能で自動選択された IPv4 アドレスは、DHCP サーバーが IPv4 アドレスの割り当てを再開すると、DHCP サーバーから割り当てられた IPv4 アドレスを優先的に使用します。このとき、本機が再起動するため、一時的に印刷ができなくなります。
- 本機が使用している IPv4 アドレスはシステム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、『プリンター』「テスト印刷する」を参照してください。

- AutoNet モードで動作中の場合、WINS サーバーへのプリンター名の登録は行われません。
- AutoNet 機能で起動している機器以外とは通信できません。ただし、Mac OS X 10.2.3 以降が稼働している Macintosh とは通信できます。

WINS サーバーを使用する

プリンターの起動時に、プリンターのプリンター名を WINS（Windows Internet Name Service）サーバーに登録することができます。WINS サーバーにプリンター名を登録すると、DHCP 環境で使用している場合、Ridoc IO Navi のポート名にプリンターのプリンター名を使用して印刷できます。

ここでは、プリンターが WINS サーバーを使用できるようにする設定について説明します。サポートする WINS サーバーは、Windows 2000 Server の WINS マネージャーです。

WINS サーバーの設定については、Windows のヘルプを参照してください。

WINS サーバーが応答しない場合、ブロードキャストによるプリンター名の登録が行われます。登録できるプリンター名は、半角英数字で 15 バイト以内です。

Web ブラウザーを使用する方法

1. **Web ブラウザーを起動します。**
2. **Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス）もしくは（ホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。**

   Web Image Monitor のトップページが表示されます。
3. **［ログイン］をクリックします。**

   ログインユーザー名とログインパスワードを入力するダイアログが表示されます。
4. **ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。**

   ログインユーザー名とログインパスワードについては管理者に確認してください。

   お使いのブラウザーの設定により、ログイン名、パスワードがブラウザーに保存される場合があります。これを防ぐためにはブラウザーでログイン名、パスワードを保存しないように設定してください。
5. **メニューエリアの［機器の管理］から［設定］をクリックします。**
6. **「ネットワーク」の［IPv4］をクリックします。**
7. **［イーサネット＋無線 LAN］の［WINS］が「有効」になっていることを確認し、［プライマリ WINS サーバー］と［セカンダリ WINS サーバー］にそれぞれ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。**
8. **［OK］をクリックします。**
9. **「設定の書き換え中」画面が表示されます。1〜2 分経過してから［OK］をクリックします。**
10. **Web ブラウザーを終了します。**

補足

- ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者に確認してください。
- telnet を使用しても WINS の設定ができます。
- 詳細は P.101「Web ブラウザーを使う」または P.161「wins」を参照してください。

ダイナミック DNS 機能を使用する

ダイナミック DNS とは、DNS サーバーが管理しているレコード（A レコード、AAAA レコード、CNAME および PTR レコード）を動的に更新（登録・削除）する機能です。本機が接続されているネットワーク環境に DNS サーバーがあり、本機が DNS クライアントである場合、ダイナミック DNS 機能によって動的にレコードを更新することができます。

更新処理について

本機の IP アドレスが静的か DHCP から取得しているかによって、更新処理の動作が異なります。

ダイナミック DNS 機能を使用しない場合、本機の IP アドレスが変更されると、DNS サーバーで管理しているレコードを手動で更新する必要があります。

本機でレコードの更新を実行する場合、DNS サーバーの設定が次のどちらかになっている必要があります。

- セキュリティー設定がされていない
- セキュリティー設定で、更新を許可するクライアント（本機）を IP で指定している

静的 IPv4 設定の場合

IPv4 アドレス、ホスト名が変更された場合、本機が A レコード、および PTR レコードを更新します。

また、A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- イーサネット、IEEE 802.11 a/b/g の場合

  PRNXXXXXX（PRNXXXXXX は MAC アドレスの下位 3 バイトの 16 進数）

  ただし、ホスト名が CNAME と同じ（PRNXXXXXX）場合は、CNAME は登録されません。

DHCPv4 設定の場合

DHCPv4 サーバーが本機の代理でレコードを更新します。次のどちらかになります。

- 本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、DHCPv4 サーバーが A レコードと PTR レコードを更新
- 本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、本機が A レコードを更新し、DHCPv4 サーバーが PTR レコードを更新

A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- イーサネット、IEEE 802.11 a/b/g の場合

  PRNXXXXXX（PRNXXXXXX は MAC アドレスの下位 3 バイトの 16 進数）

IPv6 設定

本機が AAAA レコードおよび PTR レコードを更新します。

また、AAAA レコードを更新する際に、CNAME も登録します。

ステートレスアドレスが新たに設定された場合は、DNS サーバーに追加登録されます。

補足

- メッセージ認証を用いた動的更新（TSIG、SIG（0））はサポートしていません。

動作対象の DNS サーバー

静的 IPv4 設定の場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

DHCPv4 設定の場合で本機が A レコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

DHCPv4 設定の場合で、DHCPv4 サーバーがレコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降
- NetWare 6.5J 以降に標準添付の DNS サーバー

IPv6 設定の場合

- Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND9.2.3 以降

動作対象の DHCPv4 サーバー

本機の代理で A レコード、および PTR レコードを更新することができる DHCPv4 サーバーは次のとおりです。

- Windows 2000 Server（Service Pack 3 以降）、Windows Server 2003/2003 R2/2008 に標準添付の Microsoft DHCPv4 サーバー
- ISC DHCP 3.0 以降

- NetWare 6.5J 以降に標準添付の DHCPv4 サーバー

ダイナミック DNS 機能の設定方法

telnet で dns コマンドを使用して設定します。

- 詳細は P.131「dns」を参照してください。

使用上の注意

ネットワークインターフェースボードを使用する場合は、次の事項に注意してください。設定が必要な場合は、正しく設定してからお使いください。

ネットワークに ISDN 回線を接続している場合

リコー製のネットワークユーティリティーには周期的に装置と通信を行うものがあり、設定したアドレスの値によっては ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。装置のネットワークアドレスを設定するとき、及びネットワークユーティリティーの通信先のアドレスを指定するときは、回線の接続が発生しない値に設定してください。

リモート側のネットワーク上に NetWare のファイルサーバーが存在している場合、本機から送出されるパケットにより ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。これは NetWare の仕様によるものなので、この問題を回避するには次に示すネットワーク管理上での対応が必要です。ネットワーク管理上対応できない場合は、本機の設定で対応してください。

補足

- NetWare の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。

8

ネットワーク管理上の対応方法

ISDN ルーターで本機のパケットをフィルタリングし、本機のパケットが ISDN 回線に流れないように設定してください。

フィルタリングする本機の MAC アドレス（物理アドレス）は、本機から印刷するシステム設定リストの「イーサネットアドレス」に記載されています。

ルーターの設定を変更できない場合は、次の手順で対応してください。

プリンターの設定による対応方法（NetWare を使用する場合）

1. **本書のセットアップ方法にしたがい、必ずファイルサーバーを指定します。**
2. **NetWare の使用環境に合わせてフレームタイプを固定します。**

プリンターの設定による対応方法（NetWare を使用しない場合）

1. **ネットワークインターフェースボードは印刷していない間もネットワーク上にパケットを発行します。プロトコルの選択で NetWare を無効にします。**

補足

- システム設定リストの印刷方法については、『プリンター』「テスト印刷する」を参照してください。

- NetWare の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。

ダイヤルアップ関連機器をご使用の場合

重要

- **ダイヤルアップルーターを経由して配信サーバーと接続するように設定されている場合、配信サーバーへの接続時に回線の接続が発生し、通信料がかかることがあります。**

本機をネットワークに接続してご使用になるときは、セットアップ時や設定の変更時などに、次のことに注意してください。

具体的な設定項目などについては、Ridoc Document Router、Ridoc Desk Navigator の使用説明書やヘルプを参照してください。

ネットワーク環境にダイヤルアップルーターが接続されている場合

本機、Ridoc Document Router、Ridoc Auto Document リンク、Ridoc Desk Navigator においては、接続する配信サーバーを適切に設定してください。さらに、Ridoc Document Router の配信管理ツールで行う I/O 機器設定においては、その他の接続機器を適切に設定してください。

ネットワーク環境を変更したときは、接続機器やクライアントコンピュータの配信管理ツール、Ridoc Auto Document リンク、Ridoc Desk Navigator で、接続する配信サーバーを正しく設定しなおし、配信管理ツールの I/O 機器設定で、接続機器を正しく設定しなおしてください。

ダイヤルアップ接続しているパソコンをお使いの場合

- Ridoc Document Router は、ダイヤルアップ接続しているパソコンにインストールしないでください。
- ダイヤルアップ接続しているパソコンで、Ridoc Document Router、Ridoc DeskNavigator、Ridoc Auto Document リンク、TWAIN ドライバーを使用する場合、設定によっては配信サーバーや機器との接続のためにダイヤルアップ接続が行われることがあります。パソコンからインターネットに自動的に接続するように設定していると、接続確認のダイアログボックスが表示されずに回線がインターネットに接続され、通信料が発生することがあります。不要なダイヤルアップ接続を行わないために、必ず接続確認を表示する設定で運用してください。また、これらのソフトウェアを使用中に不要なダイヤルアップ接続が行われていないかを確認してください。

補足

- NetWare の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。

NetWare 環境で印刷する場合

重要

- IPv6 環境ではご使用になれません。

補足

- NetWare の設定には、オプションの NetWare カードが必要です。

フォームフィードの設定

NetWare 上で用紙送り（フォームフィード）の設定をしないでください。Windows のプリンタードライバーで改ページの制御を行っているため、NetWare 上で設定する必要はありません。設定していると正しく印刷できない場合があります。

用紙送りしないようにするには、使用している OS に応じて次のように設定します。

- Windows 2000/XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合は、プリンターのプロパティの［NetWare 設定］タブで［フォームフィード］のチェックを外します。

バナーページの設定

NetWare 上でバナーページの設定をしないでください。Windows のプリンタードライバーで改ページの制御を行っているため、NetWare 上で設定する必要はありません。

バナーページを付けないようにするには、使用している OS に応じて次のように設定します。

- Windows 2000/XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合は、プリンターのプロパティの［NetWare 設定］タブで［バナーの使用］のチェックを外します。

本機のリセット後に印刷するとき

リモートプリンターとして使用している本機をリセットすると、プリンターは 30〜40 秒後にいったんプリントサーバーから切断され、そのあと再び接続されます。リセット後、切断されるまでの間も印刷ジョブは受け付けられますが、このジョブは実際には削除されて印刷されないことがあります。これは NetWare の仕様によるものです。

プリンターをリモートプリンターとして使用していて、リセットした直後に印刷するときは、プリントサーバー上でプリンターのステータスが未接続になったことを確認するか、リセットしてから 2 分ほど待って印刷してください。

Ridoc IO Navi で IPP を使用する場合

Ridoc IO Navi で IPP を使用する際の注意事項です。

本機能を使用する場合は、Ridoc IO Navi が必要です。Ridoc IO Navi は、リコーのホームページからダウンロードできます。詳しくは、『本機のご利用にあたって』「ソフトウェアのダウンロードについて」を参照してください。

- 本機が受け付ける Ridoc IO Navi からの印刷ジョブは、1 件のみです。本機が印刷中のとき、他のユーザーが Ridoc IO Navi を使用して続けて接続しようとしても、先に行っている印刷が完了するまでは接続できません。この場合、後から接続しようとしたユーザーの Ridoc IO Navi は、リトライ設定時間経過ごとに接続を試みます。
- Ridoc IO Navi が本機に接続できずタイムアウトになると、印刷ジョブが削除されます。この場合、印刷の操作をもう一度やり直す必要があります。
- 他のパソコンから出された印刷ジョブは、プロトコルにかかわらず、プリンターのアイコンをダブルクリックして開くウィンドウに表示されません。
- 複数のユーザーが Ridoc IO Navi を使用して印刷しようとした場合、本機に接続しようとした順に印刷が始まらない場合があります。
- IPP の印刷ポート名に IP アドレスは使用できません。Ridoc IO Navi がポート名として IP アドレスを使用するため、ポートの競合が発生します。
- SSL を使用する場合、本機にアクセスするときは、「https://（本機の IP アドレス）もしくは（ホスト名）/printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。
- 本機にアクセスする場合、[セキュリティの警告] が表示されたときは、ご使用のパソコンに証明書をインストールする必要があります。この場合、[証明書のインポートウィザード] で証明書ストアの場所は、[証明書をすべて次のストアに配置する] を選択し、[信頼されたルート] の [ローカルコンピュータ] を選択します。

補足

- SSL（暗号化通信）について詳しくは、『セキュリティーガイド』を参照してください。

拡張無線 LAN ボードご使用時の注意

無線 LAN インターフェースを使ってネットワークに接続するときの注意点を説明します。無線 LAN では、LAN ケーブルの代わりに電波を利用して情報のやりとりを行います。無線 LAN の電波は、一定の範囲内であれば壁などの障害物も越えて到達するため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生することがあります。

個人情報の漏洩

- ID、パスワード、クレジットカードの番号やメールの内容などが、第三者に盗み見られる。

ネットワークへの不正侵入

- ウィルスなどによってデータやシステムを破壊・改ざんされる。

- 特定の人物になりすまして不正な情報を流される。
- 機密情報が持ち出される。

これらの問題が発生するのを少なくするためには、本機や無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に搭載されている機能を確認し、セキュリティーに関する設定を行うことをお奨めします。

ネットワークの電波状態が悪いとき

電波状態が悪いと、接続が途切れたり、接続できなくなったりします。本機の「電波状態」とアクセスポイントの電波状態を確認し、電波状態が悪いときは、次の点に注意して対処してください。

- 本機とアクセスポイントを近づける。
- アクセスポイントと本機の間の見通しをよくする。
- アクセスポイントや本機の近くから電子レンジなど電波の発する機器を遠ざける。

TCP/IP プロトコル（IPv4/IPv6 について）

IP アドレスとは TCP/IP ネットワーク上で機器を判別するための、重複しない特定の番号（アドレス）です。

その中で IPv4 というプロトコルに基づく 32 ビットのアドレス空間を「IPv4」（xxx.xxx.xxx.xxx の形で表される）、IPv6 というプロトコルに基づくアドレス空間を「IPv6」（xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx の形で表される）といいます。

本機では「IPv6」の工場出荷時の設定は「無効」になっているので、IPv6 環境でご使用になる場合は、本体パネルにて「IPv6」の設定を「有効」にしてください。その場合でも IPv4 は使用できます。

IPv6 環境では、本体の電源を入れたときにネットワークケーブルが本体に接続されていれば、自動で本体にローカルのアドレスが設定されます。これを「リンクローカルアドレス」と呼び、IPv4 環境での Autonet に相当します。

補足

- アクセスポイントの電波状態は、使用しているアクセスポイントの使用説明書を参照して確認してください。

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報を記載しています。

AppleTalk

Boost

expat について

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

- expat に関する情報は次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。http://expat.sourceforge.net/

FreeBSD 4.6.2 について

Copyright (c) 1984, 1985, 1986, 1987, 1993

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Modifications Copyright (c) 1995, Mike Mitchell

Modifications Copyright (c) 1995, John Hay

Heimdal

Copyright (c) 1997-2008 Kungliga Tekniska Högskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden). All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR

ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

ILU

Copyright (c) 1991-1999 Xerox Corporation. All Rights Reserved.

Unlimited use, reproduction, modification, and distribution of this software and modified versions thereof is permitted. Permission is granted to make derivative works from this software or a modified version thereof. Any copy of this software, a modified version thereof, or a derivative work must include both the above copyright notice of Xerox Corporation and this paragraph. Any distribution of this software, a modified version thereof, or a derivative work must comply with all applicable United States export control laws. This software is made available AS IS, and XEROX CORPORATION DISCLAIMS ALL WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING WITHOUT LIMITATION THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, AND NOTWITHSTANDING ANY OTHER PROVISION CONTAINED HEREIN, ANY LIABILITY FOR DAMAGES RESULTING FROM THE SOFTWARE OR ITS USE IS EXPRESSLY DISCLAIMED, WHETHER ARISING IN CONTRACT, TORT (INCLUDING NEGLIGENCE) OR STRICT LIABILITY, EVEN IF XEROX CORPORATION IS ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

JPEG LIBRARY

- The software installed on this product is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

libxml2

Copyright (C) 1998-2003 Daniel Veillard. All Rights Reserved.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE DANIEL VEILLARD BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT

OF OR IN CON-NECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE

Lua

License for Lua 5.0 and later versions

The m17n library

http://www.m17n.org/index.html

The m17n library 1.2.0 release

MD4

License to copy and use this software is granted provided that it is identified as the "RSA Data Security, Inc. MD4 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing this software or this function.

License is also granted to make and use derivative works provided that such works are identified as "derived from the RSA Data Security, Inc. MD4 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either the merchantability of this software or the suitability of this software for any particular purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty of any kind.

These notices must be retained in any copies of any part of this documentation and/or software.

MD5

Copyright (c) 1991-2, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All rights reserved.

License to copy and use this software is granted provided that it is identified as the "RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing this software or this function.

License is also granted to make and use derivative works provided that such works are identified as "derived from the RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either the merchantability of this software or the suitability of this software for any particular purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty of any kind.

These notices must be retained in any copies of any part of this documentation and/or software.

nana

Copyright (c) 1995,1996,1997,1998 Phil Maker All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Net-SNMP

Various copyrights apply to this package, listed in various separate parts below. Please make sure that you read all the parts.

---- Part 1: CMU/UCD copyright notice: (BSD like) -----

Copyright 1989, 1991, 1992 by Carnegie Mellon University

Derivative Work - 1996, 1998-2000

Copyright 1996, 1998-2000 The Regents of the University of California

All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of CMU and The Regents of the University of California not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific written permission.

CMU AND THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA DISCLAIM ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL CMU OR THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM THE LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

---- Part 2: Networks Associates Technology, Inc copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) 2001-2003, Networks Associates Technology, Inc

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without

modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* Neither the name of the Networks Associates Technology, Inc nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 3: Cambridge Broadband Ltd. copyright notice (BSD) -----

Portions of this code are copyright (c) 2001-2003, Cambridge Broadband Ltd.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* The name of Cambridge Broadband Ltd. may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN

CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 4: Sun Microsystems, Inc. copyright notice (BSD) -----

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Use is subject to license terms below.

This distribution may include materials developed by third parties.

Sun, Sun Microsystems, the Sun logo and Solaris are trademarks or registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and other countries.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* Neither the name of the Sun Microsystems, Inc. nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 5: Sparta, Inc copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) 2003-2008, Sparta, Inc

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* Neither the name of Sparta, Inc nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 6: Cisco/BUPTNIC copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) 2004, Cisco, Inc and Information Network

Center of Beijing University of Posts and Telecommunications.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without

modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* Neither the name of Cisco, Inc, Beijing University of Posts and Telecommunications, nor the names of their contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING

NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 7: Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG, 2003

oss@fabasoft.com

Author: Bernhard Penz <bernhard.penz@fabasoft.com>

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* The name of Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG or any of its subsidiaries, brand or product names may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetBSD

1. Copyright Notice of NetBSD

For all users to use this product: This product contains NetBSD operating system:

For the most part, the software constituting the NetBSD operating system is not in the public domain; its authors retain their copyright.

The following text shows the copyright notice used for many of the NetBSD source code. For exact copyright notice applicable for each of the files/binaries, the source code tree must be consulted.

A full source code can be found at http://www.netbsd.org/.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

   This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.
4. Neither the name of The NetBSD Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE NETBSD FOUNDATION, INC. AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

2. Authors Name List

All product names mentioned herein are trademarks or registered trade-marks of their respective owners.

The following notices are required to satisfy the license terms of the software that we have mentioned in this document:

- This product includes software developed by the University of California,Berkeley and its contributors.
- This product includes software developed by the NetBSD Foundation.
- This product includes software developed by The NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.
- This product includes software developed for the NetBSD Project. See http://www.netbsd.org/ for information about NetBSD.

- This product contains software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD project.
- This product contains software written by Ignatios Souvatzis and MichaelL. Hitch for the NetBSD project.
- This product contains software written by Michael L. Hitch for the NetBSD project.
- This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@cryptsoft.com)
- This product includes cryptographic software written by Eric Young(eay@mincom.oz.au)
- This product includes software designed by William Allen Simpson.
- This product includes software developed at Ludd, University of Lulea,Sweden and its contributors.
- This product includes software developed at Ludd, University of Lulea.
- This product includes software developed at the Information Technology Division, US Naval Research Laboratory.
- This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
- This product includes software developed by David Jones and Gordon Ross.
- This product includes software developed by Gordon W. Ross and Leo Weppelman.
- This product includes software developed by Hellmuth Michaelis and Joerg Wunsch.
- This product includes software developed by Internet Research Institute, Inc.
- This product includes software developed by Leo Weppelman and Waldi Ravens.
- This product includes software developed by Mika Kortelainen.
- This product includes software developed by Aaron Brown and Harvard University.
- This product includes software developed by Adam Ciarcinski for the NetBSD project.
- This product includes software developed by Adam Glass and Charles M.Hannum.
- This product includes software developed by Adam Glass.
- This product includes software developed by Advanced Risc Machines Ltd.
- This product includes software developed by Alex Zepeda, and Colin Wood for the NetBSD Projet.
- This product includes software developed by Alex Zepeda.
- This product includes software developed by Alistair G. Crooks.
- This product includes software developed by Alistair G. Crooks. for the NetBSD project.
- This product includes software developed by Allen Briggs.
- This product includes software developed by Amancio Hasty and Roger Hardiman.
- This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
- This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
- This product includes software developed by Bill Paul.

- This product includes software developed by Bodo Moeller. (If available, substitute umlauted o for oe)
- This product includes software developed by Boris Popov.
- This product includes software developed by Brad Pepers
- This product includes software developed by Bradley A. Grantham.
- This product includes software developed by Brini.
- This product includes software developed by Causality Limited.
- This product includes software developed by Charles D. Cranor and Seth Widoff.
- This product includes software developed by Charles D. Cranor and Washington University.
- This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, and the University of California, Berkeley and its contributors.
- This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, the University of California, Berkeley and its contributors.
- This product includes software developed by Charles D. Cranor.
- This product includes software developed by Charles Hannum.
- This product includes software developed by Charles M. Hannum, by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A.Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California,Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.
- This product includes software developed by Charles M. Hannum.
- This product includes software developed by Christian E. Hopps, Ezra Story, Kari Mettinen, Markus Wild, Lutz Vieweg and Michael Teske.
- This product includes software developed by Christian E. Hopps.
- This product includes software developed by Christian Limpach
- This product includes software developed by Christopher G. Demetriou for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Christopher G. Demetriou.
- This product includes software developed by Christos Zoulas.
- This product includes software developed by Chuck Silvers.
- This product includes software developed by Colin Wood for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Colin Wood.
- This product includes software developed by Cybernet Corporation and Nan Yang Computer Services Limited
- This product includes software developed by Daishi Kato
- This product includes software developed by Dale Rahn.

- This product includes software developed by Daniel Widenfalk and Michael L. Hitch.
- This product includes software developed by Daniel Widenfalk for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Darrin B. Jewell
- This product includes software developed by David Miller.
- This product includes software developed by Dean Huxley.
- This product includes software developed by Eduardo Horvath.
- This product includes software developed by Eric S. Hvozda.
- This product includes software developed by Eric S. Raymond
- This product includes software developed by Eric Young (eay@@mincom.oz.au)
- This product includes software developed by Eric Young (eay@cryptsoft.com)
- This product includes software developed by Eric Young (eay@mincom.oz.au)
- This product includes software developed by Ezra Story and by Kari Mettinen.
- This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen and by Bernd Ernesti.
- This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, Michael Teske and by Bernd Ernesti.
- This product includes software developed by Ezra Story, by Kari Mettinen, and Michael Teske.
- This product includes software developed by Ezra Story.
- This product includes software developed by Frank van der Linden for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Gardner Buchanan.
- This product includes software developed by Gary Thomas.
- This product includes software developed by Gordon Ross
- This product includes software developed by Gordon W. Ross
- This product includes software developed by HAYAKAWA Koichi.
- This product includes software developed by Harvard University and its contributors.
- This product includes software developed by Harvard University.
- This product includes software developed by Herb Peyerl.
- This product includes software developed by Hubert Feyrer for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Iain Hibbert
- This product includes software developed by Ian F. Darwin and others.
- This product includes software developed by Ian W. Dall.
- This product includes software developed by Ichiro FUKUHARA.

- This product includes software developed by Ignatios Souvatzis for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Internet Initiative Japan Inc.
- This product includes software developed by James R. Maynard III.
- This product includes software developed by Jared D. McNeill.
- This product includes software developed by Jason L. Wright
- This product includes software developed by Jason R. Thorpe for And Communications, http://www.and.com/
- This product includes software developed by Joachim Koenig-Baltes.
- This product includes software developed by Jochen Pohl for The NetBSD Project.
- This product includes software developed by Joerg Wunsch
- This product includes software developed by John Birrell.
- This product includes software developed by John P. Wittkoski.
- This product includes software developed by John Polstra.
- This product includes software developed by Jonathan R. Stone for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Jonathan Stone and Jason R. Thorpe for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Jonathan Stone.
- This product includes software developed by Jukka Marin.
- This product includes software developed by Julian Highfield.
- This product includes software developed by Kazuhisa Shimizu.
- This product includes software developed by Kazuki Sakamoto.
- This product includes software developed by Kenneth Stailey.
- This product includes software developed by Kiyoshi Ikehara.
- This product includes software developed by Klaus Burkert,by Bernd Ernesti, by Michael van Elst, and by the University of California, Berkeley and its contributors.
- This product includes software developed by LAN Media Corporation and its contributors.
- This product includes software developed by Leo Weppelman for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Leo Weppelman.
- This product includes software developed by Lloyd Parkes.
- This product includes software developed by Luke Mewburn.
- This product includes software developed by Lutz Vieweg.
- This product includes software developed by MINOURA Makoto, Takuya Harakawa.
- This product includes software developed by Manuel Bouyer.

- This product includes software developed by Marc Horowitz.
- This product includes software developed by Marcus Comstedt.
- This product includes software developed by Mark Brinicombe for the NetBSD project.
- This product includes software developed by Mark Brinicombe.
- This product includes software developed by Mark Murray
- This product includes software developed by Mark Tinguely and Jim Lowe
- This product includes software developed by Markus Wild.
- This product includes software developed by Martin Husemann and Wolfgang Solfrank.
- This product includes software developed by Masanobu Saitoh.
- This product includes software developed by Masaru Oki.
- This product includes software developed by Mats O Jansson and Charles D.Cranor.
- This product includes software developed by Mats O Jansson.
- This product includes software developed by Matt DeBergalis
- This product includes software developed by Matthew Fredette.
- This product includes software developed by Matthias Pfaller.
- This product includes software developed by Michael Graff for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Michael Graff.
- This product includes software developed by Michael L. Hitch.
- This product includes software developed by Michael Shalayeff.
- This product includes software developed by Michael Smith.
- This product includes software developed by Mike Glover and contributors.
- This product includes software developed by Mike Pritchard.
- This product includes software developed by Minoura Makoto.
- This product includes software developed by Nan Yang Computer Services Limited.
- This product includes software developed by Niels Provos.
- This product includes software developed by Niklas Hallqvist, Brandon Creighton and Job de Haas.
- This product includes software developed by Niklas Hallqvist.
- This product includes software developed by Onno van der Linden.
- This product includes software developed by Paul Kranenburg.
- This product includes software developed by Paul Mackerras.
- This product includes software developed by Per Fogelstrom
- This product includes software developed by Peter Galbavy.
- This product includes software developed by Phase One, Inc.

- This product includes software developed by Philip A. Nelson.
- This product includes software developed by Philip L. Budne.
- This product includes software developed by RiscBSD.
- This product includes software developed by Roar Thronaes.
- This product includes software developed by Rodney W. Grimes.
- This product includes software developed by Roger Hardiman
- This product includes software developed by Roland C. Dowdeswell.
- This product includes software developed by Rolf Grossmann.
- This product includes software developed by Ross Harvey for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Ross Harvey.
- This product includes software developed by Scott Bartram.
- This product includes software developed by Scott Stevens.
- This product includes software developed by Shingo WATANABE.
- This product includes software developed by Softweyr LLC, the University of California, Berkeley, and its contributors.
- This product includes software developed by Soren S. Jorvang.
- This product includes software developed by Stephan Thesing.
- This product includes software developed by Steve Woodford.
- This product includes software developed by Takashi Hamada
- This product includes software developed by Takumi Nakamura.
- This product includes software developed by Tatoku Ogaito for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Terrence R. Lambert.
- This product includes software developed by Tetsuya Isaki.
- This product includes software developed by Thomas Gerner
- This product includes software developed by Thomas Klausner for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Tobias Weingartner.
- This product includes software developed by Todd C. Miller.
- This product includes software developed by Tohru Nishimura and Reinoud Zandijk for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Tohru Nishimura for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by Tohru Nishimura. for the NetBSD Project.
- This product includes software developed by TooLs GmbH.
- This product includes software developed by Toru Nishimura.
- This product includes software developed by Trimble Navigation, Ltd.

- This product includes software developed by WIDE Project and its contributors.
- This product includes software developed by Waldi Ravens.
- This product includes software developed by Wasabi Systems for Zembu Labs, Inc. http://www.zembu.com/
- This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.
- This product includes software developed by Wolfgang Solfrank.
- This product includes software developed by Yasushi Yamasaki
- This product includes software developed by Zembu Labs, Inc.
- This product includes software developed by the Alice Group.
- This product includes software developed by the Center for Software Science at the University of Utah.
- This product includes software developed by the Charles D. Cranor, Washington University, University of California, Berkeley and its contributors.
- This product includes software developed by the Computer Systems Engineering Group at Lawrence Berkeley Laboratory.
- This product includes software developed by the David Muir Sharnoff.
- This product includes software developed by the Harvard University and its contributors.
- This product includes software developed by the Kungliga Tekniska Hogskolan and its contributors.
- This product includes software developed by the Network Research Group at Lawrence Berkeley Laboratory.
- This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.OpenSSL.org/)
- This product includes software developed by the PocketBSD project and its contributors.
- This product includes software developed by the RiscBSD kernel team
- This product includes software developed by the RiscBSD team.
- This product includes software developed by the SMCC Technology Development Group at Sun Microsystems, Inc.
- This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors, as well as the Trustees of Columbia University.
- This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.
- This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory.

- This product includes software developed by the University of Illinois at Urbana and their contributors.
- This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman.
- This product includes software developed by the University of Vermont and State Agricultural College and Garrett A. Wollman, by William F. Jolitz, and by the University of California, Berkeley, Lawrence Berkeley Laboratory, and its contributors.
- This product includes software developed for the FreeBSD project
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Bernd Ernesti.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Christopher G. Demetriou.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Christos Zoulas
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Emmanuel Dreyfus.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Frank van der Linden
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Ignatios Souvatzis.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Jason R. Thorpe.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by John M. Vinopal.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Matthias Drochner.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Michael L. Hitch.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Perry E. Metzger.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Scott Bartram and Frank van der Linden
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Allegro Networks, Inc., and Wasabi Systems, Inc.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Genetec Corporation.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Jonathan Stone.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Piermont Information Systems Inc.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by SUNET,Swedish University Computer Network.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Shigeyuki Fukushima.
- This product includes software developed for the NetBSD Project by Wasabi Systems, Inc.

- This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom Opsycon AB for RTMX Inc, North Carolina, USA.
- This product includes software developed under OpenBSD by Per Fogelstrom.
- This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz,TeleMuse.
- This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems. "Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD", "FreeBSD", "Mach" (by CMU).
- This software includes software developed by the Computer Systems Labora-tory at the University of Utah.
- This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (http://www.cmu.edu/computing/).
- This product includes software developed by Allen Briggs.
- In the following statement, "This software" refers to the Mitsumi CD-ROM driver:
- This software was developed by Holger Veit and Brian Moore for use with "386BSD" and similar operating systems. "Similar operating systems" includes mainly non-profit oriented systems for research and education, including but not restricted to "NetBSD" , "FreeBSD" , "Mach" (by CMU).
- In the following statement, "This software" refers to the parallel port driver:
- This software is a component of "386BSD" developed by William F. Jolitz, TeleMuse.

Open LDAP

Copyright (c) 1999-2003 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved. Permission to copy and distribute verbatim copies of this document is granted.

The OpenLDAP Public License Version 2.8, 17 August 2003.

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions in source form must retain copyright statements and notices,
2. Redistributions in binary form must reproduce applicable copyright statements and notices, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution, and
3. Redistributions must contain a verbatim copy of this document.

The OpenLDAP Foundation may revise this license from time to time. Each revision is distinguished by a version number. You may use this Software under terms of this license revision or under the terms of any subsequent revision of the license.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENLDAP FOUNDATION AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENLDAP FOUNDATION, ITS CONTRIBUTORS, OR THE AUTHOR(S) OR OWNER(S) OF THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The names of the authors and copyright holders must not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealing in this Software without specific, written prior permission. Title to copyright in this Software shall at all times remain with copyright holders.

Open SSH

The licences which components of this software fall under are as follows. First, we will summarize and say that all components are under a BSD licence, or a licence more free than that.

OpenSSH contains no GPL code.

1)

Copyright (c) 1995 Tatu Ylonen <ylo@cs.hut.fi>, Espoo, Finland All rights reserved

As far as I am concerned, the code I have written for this software can be used freely for any purpose. Any derived versions of this software must be clearly marked as such, and if the derived work is incompatible with the protocol description in the RFC file, it must be called by a name other than "ssh" or "Secure Shell".

[Tatu continues]

However, I am not implying to give any licenses to any patents or copyrights held by third parties, and the software includes parts that are not under my direct control. As far as I know, all included source code is used in accordance with the relevant license agreements and can be used freely for any purpose (the GNU license being the most restrictive); see below for details.

[However, none of that term is relevant at this point in time. All of these restrictively licenced software components which he talks about have been removed from OpenSSH, i.e.,

- RSA is no longer included, found in the OpenSSL library

- IDEA is no longer included, its use is deprecated

- DES is now external, in the OpenSSL library
- GMP is no longer used, and instead we call BN code from OpenSSL
- Zlib is now external, in a library
- The make-ssh-known-hosts script is no longer included
- TSS has been removed
- MD5 is now external, in the OpenSSL library
- RC4 support has been replaced with ARC4 support from OpenSSL
- Blowfish is now external, in the OpenSSL library

[The licence continues]

Note that any information and cryptographic algorithms used in this software are publicly available on the Internet and at any major bookstore, scientific library, and patent office worldwide. More information can be found e.g. at "http://www.cs.hut.fi/crypto".

The legal status of this program is some combination of all these permissions and restrictions. Use only at your own responsibility. You will be responsible for any legal consequences yourself; I am not making any claims whether possessing or using this is legal or not in your country, and I am not taking any responsibility on your behalf.

NO WARRANTY

BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

2)

The 32-bit CRC compensation attack detector in deattack.c was contributed by CORE SDI S.A. under a BSD-style license.

Cryptographic attack detector for ssh - source code

Ariel Futoransky <futo@core-sdi.com>

<http://www.core-sdi.com>

3)

One component of the ssh source code is under a 3-clause BSD license, held by the University of California, since we pulled these parts from original Berkeley code.

4)

Remaining components of the software are provided under a standard 2-term BSD licence with the following names as copyright holders:

Markus Friedl

Theo de Raadt

Niels Provos

Dug Song

Kevin Steves

Daniel Kouril

Wesley Griffin

Per Allansson

Jason Downs

Solar Designer

Todd C. Miller

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

5)

Portable OpenSSH contains the following additional licenses:

c) Compatibility code (openbsd-compat)

Apart from the previously mentioned licenses, various pieces of code in the openbsd-compat/ subdirectory are licensed as follows:

Some code is licensed under a 3-term BSD license, to the following copyright holders:

Todd C. Miller

Theo de Raadt

Damien Miller

Eric P. Allman

The Regents of the University of California

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Open SSL

OpenSSL ツールキットはデュアルライセンスとなっており、OpenSSL ライセンスとオリジナル SSLeay ライセンスの条件は、両方ともツールキットに適用されます。

実際のライセンスについては以下を参照してください。

ライセンスは両方とも BSD スタイルオープンソースライセンスです。 OpenSSL に関連するライセンスに問題がある場合は、openssl-core@openssl.org に連絡してください。

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2008 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:

   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:

   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULARPURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;

LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)

HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)

ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

- この製品には、Eric Young（eay@cryptsoft.com）によって書かれた暗号ソフトウェアが含まれています。
- この製品には、Tim Hudson（tjh@cryptsoft.com）によって作成されたソフトウェアが含まれています。

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL

documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.

If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.

This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

   "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"

   The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:

   "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)

HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

- このコードのすべての公的に利用可能なバージョンまたは派生物のライセンスおよび配布条件は変更できません。すなわち、このコードを単にコピーし、別の配布ライセンスの下に置くことはできません[GNU 一般公衆利用許諾書を含む]。

racoon

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE PROJECT AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE PROJECT OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

RSA BSAFE®

- This product includes RSA BSAFE (c) cryptographic software from RSA Security Inc.
- RSA, BSAFE are either registered trademarks or trademarks of RSA Security Inc. in the United States and/or other countries.

Sablotron (Version 0.82)

a) The application software installed on this product includes the Sablotron software Version 0.82 (hereinafter, "Sablotron 0.82"), with modifications made by the product manufacturer. The original code of the Sablotron 0.82 is provided by Ginger Alliance Ltd., the initial developer, and the modified code of the Sablotron 0.82 has been derived from such original code provided by Ginger Alliance Ltd.

b) The product manufacturer provides warranty and support to the application software of this product including the Sablotron 0.82 as modified, and the product manufacturer makes Ginger Alliance Ltd., the initial developer of the Sablotron 0.82, free from these obligations.

c) The Sablotron 0.82 and the modifications thereof are made available under the terms of Mozilla Public License Version 1.1 (hereinafter, "MPL 1.1"), and the application software of this product constitutes the "Larger Work" as defined in MPL 1.1. The application software of this product except for the Sablotron 0.82 as modified is licensed by the product manufacturer under separate agreement (s).

d) The source code of the modified code of the Sablotron 0.82 is available at: http://support-download.com/services/device/sablot/notice082.html

e) The source code of the Sablotron software is available at: http://www.gingerall.com

f) MPL 1.1 is available at: http://www.mozilla.org/MPL/MPL-1.1.html

samba

本製品に搭載している SMB 送信機能では samba を使用しています。

For SMB transmission, this machine uses Samba. Copyright (c) Andrew Tridgell 1994-1998.

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 675 Mass Ave, Cambridge, MA 02139, USA.

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USAEveryone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software-- to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License.

The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty

(or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.) The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the

Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royaltyfree redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two

goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW . EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND /OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE . THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER , OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the program's name and a brief idea of what it does. Copyright (C)

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

- 本製品に搭載している SMB 送信機能に関するソースコードは次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。http://support-download.com/services/scbs

8

SASL について

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name "Carnegie Mellon University" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission.

   For permission or any other legal details, please contact:

   Office of Technology Transfer

Carnegie Mellon University

5000 Forbes Avenue

Pittsburgh, PA 15213-3890

(412) 268-4387, fax: (412) 268-7395

tech-transfer@andrew.cmu.edu

4. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (http://www.cmu.edu/computing/)."

CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL CARNEGIE MELLON UNIVERSITY BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

SHA1

Copyright (C) The Internet Society (2001). All Rights Reserved.

This document and translations of it may be copied and furnished to others, and derivative works that comment on or otherwise explain it or assist in its implementation may be prepared, copied, published and distributed, in whole or in part, without restriction of any kind, provided that the above copyright notice and this paragraph are included on all such copies and derivative works. However, this document itself may not be modified in any way, such as by removing the copyright notice or references to the Internet Society or other Internet organizations, except as needed for the purpose of developing Internet standards in which case the procedures for copyrights defined in the Internet Standards process must be followed, or as required to translate it into languages other than English.

The limited permissions granted above are perpetual and will not be revoked by the Internet Society or its successors or assigns.

This document and the information contained herein is provided on an "AS IS" basis and THE INTERNET SOCIETY AND THE INTERNET ENGINEERING TASK FORCE DISCLAIMS ALL WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY WARRANTY THAT THE USE OF THE INFORMATION HEREIN WILL NOT INFRINGE ANY RIGHTS OR ANY IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

SPX/IPX

TinyScheme

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither the name of Dimitrios Souflis nor the names of the contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

TrouSerS

THE ACCOMPANYING PROGRAM IS PROVIDED UNDER THE TERMS OF THIS COMMON PUBLIC LICENSE ("AGREEMENT"). ANY USE, REPRODUCTION OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM CONSTITUTES RECIPIENT'S ACCEPTANCE OF THIS AGREEMENT.

1. DEFINITIONS

"Contribution" means:

a) in the case of the initial Contributor, the initial code and documentation distributed under this Agreement, and

b) in the case of each subsequent Contributor:

i) changes to the Program, and

ii) additions to the Program;

where such changes and/or additions to the Program originate from and are distributed by that particular Contributor. A Contribution 'originates' from a Contributor if it was added to the Program by such Contributor itself or anyone acting on such Contributor's behalf. Contributions do not include additions to the Program which: (i) are separate modules of software distributed in conjunction with the Program under their own license agreement, and (ii) are not derivative works of the Program.

"Contributor" means any person or entity that distributes the Program.

"Licensed Patents " mean patent claims licensable by a Contributor which are necessarily infringed by the use or sale of its Contribution alone or when combined with the Program.

"Program" means the Contributions distributed in accordance with this Agreement.

"Recipient" means anyone who receives the Program under this Agreement, including all Contributors.

2. GRANT OF RIGHTS

a) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free copyright license to reproduce, prepare derivative works of, publicly display, publicly perform, distribute and sublicense the Contribution of such Contributor, if any, and such derivative works, in source code and object code form.

b) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free patent license under Licensed Patents to make, use, sell, offer to sell, import and otherwise transfer the Contribution of such Contributor, if any, in source code and object code form. This patent license shall apply to the combination of the Contribution and the Program if, at the time the Contribution is added by the Contributor, such addition of the Contribution causes such combination to be covered by the Licensed Patents. The patent license shall not apply to any other combinations which include the Contribution. No hardware per se is licensed hereunder.

c) Recipient understands that although each Contributor grants the licenses to its Contributions set forth herein, no assurances are provided by any Contributor that the Program does not infringe the patent or other intellectual property rights of any other entity. Each Contributor disclaims any liability to Recipient for claims brought by any other entity based on infringement of intellectual property rights or otherwise. As a condition to exercising the rights and licenses granted hereunder, each Recipient hereby assumes sole responsibility to secure any other intellectual property rights needed, if any. For example, if a third party patent license is required to allow Recipient to distribute the Program, it is Recipient's responsibility to acquire that license before distributing the Program.

d) Each Contributor represents that to its knowledge it has sufficient copyright rights in its Contribution, if any, to grant the copyright license set forth in this Agreement.

3. REQUIREMENTS

A Contributor may choose to distribute the Program in object code form under its own license agreement, provided that:

a) it complies with the terms and conditions of this Agreement; and

b) its license agreement:

i) effectively disclaims on behalf of all Contributors all warranties and conditions, express and implied, including warranties or conditions of title and non-infringement, and implied warranties or conditions of merchantability and fitness for a particular purpose;

ii) effectively excludes on behalf of all Contributors all liability for damages, including direct, indirect, special, incidental and consequential damages, such as lost profits;

iii) states that any provisions which differ from this Agreement are offered by that Contributor alone and not by any other party; and

iv) states that source code for the Program is available from such Contributor, and informs licensees how to obtain it in a reasonable manner on or through a medium customarily used for software exchange.

When the Program is made available in source code form:

a) it must be made available under this Agreement; and

b) a copy of this Agreement must be included with each copy of the Program.

Contributors may not remove or alter any copyright notices contained within the Program.

Each Contributor must identify itself as the originator of its Contribution, if any, in a manner that reasonably allows subsequent Recipients to identify the originator of the Contribution.

4. COMMERCIAL DISTRIBUTION

Commercial distributors of software may accept certain responsibilities with respect to end users, business partners and the like. While this license is intended to facilitate the commercial use of the Program, the Contributor who includes the Program in a commercial product offering should do so in a manner which does not create potential liability for other Contributors. Therefore, if a Contributor includes the Program in a commercial product offering, such Contributor ("Commercial Contributor") hereby agrees to defend and indemnify every other Contributor ("Indemnified Contributor") against any losses, damages and costs (collectively "Losses") arising from claims, lawsuits and other legal actions brought by a third party against the Indemnified Contributor to the extent caused by the acts or omissions of such Commercial Contributor in connection with its distribution of the Program in a commercial product offering. The obligations in this section do not apply to any claims or Losses relating to any actual or alleged intellectual property infringement. In order to qualify, an Indemnified Contributor must: a) promptly notify the Commercial Contributor in writing of such claim, and b) allow the Commercial Contributor to control, and cooperate with the Commercial Contributor in, the defense and any related settlement negotiations. The Indemnified Contributor may participate in any such claim at its own expense.

For example, a Contributor might include the Program in a commercial product offering, Product X. That Contributor is then a Commercial Contributor. If that Commercial Contributor then makes performance claims, or offers warranties related to Product X, those performance claims and warranties are such Commercial Contributor's responsibility alone. Under this section, the Commercial Contributor would have to defend claims against the other Contributors related to those performance claims and warranties, and if a court requires any other Contributor to pay any damages as a result, the Commercial Contributor must pay those damages.

5. NO WARRANTY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, THE PROGRAM IS PROVIDED ON AN "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, EITHER

EXPRESS OR IMPLIED INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTIES OR CONDITIONS OF TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Each Recipient is solely responsible for determining the appropriateness of using and distributing the Program and assumes all risks associated with its exercise of rights under this Agreement, including but not limited to the risks and costs of program errors, compliance with applicable laws, damage to or loss of data, programs or equipment, and unavailability or interruption of operations.

6. DISCLAIMER OF LIABILITY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, NEITHER RECIPIENT NOR ANY CONTRIBUTORS SHALL HAVE ANY LIABILITY FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING WITHOUT LIMITATION LOST PROFITS), HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM OR THE EXERCISE OF ANY RIGHTS GRANTED HEREUNDER, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

7. GENERAL

If any provision of this Agreement is invalid or unenforceable under applicable law, it shall not affect the validity or enforceability of the remainder of the terms of this Agreement, and without further action by the parties hereto, such provision shall be reformed to the minimum extent necessary to make such provision valid and enforceable.

If Recipient institutes patent litigation against a Contributor with respect to a patent applicable to software (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit), then any patent licenses granted by that Contributor to such Recipient under this Agreement shall terminate as of the date such litigation is filed. In addition, if Recipient institutes patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Program itself (excluding combinations of the Program with other software or hardware) infringes such Recipient's patent(s), then such Recipient's rights granted under Section 2(b) shall terminate as of the date such litigation is filed.

All Recipient's rights under this Agreement shall terminate if it fails to comply with any of the material terms or conditions of this Agreement and does not cure such failure in a reasonable period of time after becoming aware of such noncompliance. If all Recipient's rights under this Agreement terminate, Recipient agrees to cease use and distribution of the Program as soon as reasonably practicable. However, Recipient's obligations under this Agreement and any licenses granted by Recipient relating to the Program shall continue and survive.

Everyone is permitted to copy and distribute copies of this Agreement, but in order to avoid inconsistency the Agreement is copyrighted and may only be modified in the following manner. The Agreement Steward reserves the right to publish new versions (including revisions) of this Agreement from time to time. No one other than the Agreement Steward has the right to modify this Agreement. IBM is the initial Agreement Steward. IBM may

assign the responsibility to serve as the Agreement Steward to a suitable separate entity. Each new version of the Agreement will be given a distinguishing version number. The Program (including Contributions) may always be distributed subject to the version of the Agreement under which it was received. In addition, after a new version of the Agreement is published, Contributor may elect to distribute the Program (including its Contributions) under the new version. Except as expressly stated in Sections 2(a) and 2(b) above, Recipient receives no rights or licenses to the intellectual property of any Contributor under this Agreement, whether expressly, by implication, estoppel or otherwise. All rights in the Program not expressly granted under this Agreement are reserved.

This Agreement is governed by the laws of the State of New York and the intellectual property laws of the United States of America. No party to this Agreement will bring a legal action under this Agreement more than one year after the cause of action arose. Each party waives its rights to a jury trial in any resulting litigation.

- 本製品に搭載している TrouSerS（Version 0.27）に関するソースコードは、次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。
- http://www.ricoh.com/support/trousers/index.html
- TrouSerS は sourceforge の CVS でバージョン管理されています。ソースコードの入手方法については次の URL が示す WWW サイトでご確認ください。
- http://sourceforge.net/cvs/ ?group_id=126012

8

WIDE-DHCP6

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE PROJECT AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE PROJECT OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR

CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

WPA Supplicant

Copyright (c) 2003-2010, Jouni Malinen <j@w1.fi> and contributors All Rights Reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and /or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name (s) of the above-listed copyright holder (s) nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Zilb

Copyright notice:

(C) 1995-2004 Jean-loup Gailly and Mark Adler

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.

2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly

jloup@gzip.org

Mark Adler

madler@alumni.caltech.edu

8

ネットワークの設定一覧

ネットワークの設定一覧

システム初期設定のネットワーク設定項目を説明します。使用する機能や、接続するインターフェースに応じて各設定項目を設定してください。

●: 必須

○: 必要に応じて設定

見出し	設定項目	使用する機能																	
		プリンター／PC ファクス機能		インターネットファクス機能		IP- ファクス機能		メール送信機能		ファイル送信機能		ネットワーク配信機能		WSD 送信機能		ネットワーク TWAIN スキャナー機能		ドキュメントボックス機能	
		イーサネット	無線 LAN	イーサネット	無線 LAN	イーサネット	無線 LAN	イーサネット	無線 LAN	イーサネット	無線 LAN	イーサネット	無線 LAN	イーサネット	無線 LAN	イーサネット	無線 LAN	イーサネット	無線 LAN
インターフェース設定／ネットワーク	本体 IPv4 アドレス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	IPv4 ゲートウェイアドレス	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○
	本体 IPv6 アドレス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	IPv6 ゲートウェイアドレス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	IPv6 ステートレスアドレス自動設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	DHCPv6 設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	DNS 設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	DDNS 設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	IPsec	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ドメイン名	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	WINS 設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	有効プロトコル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	NCP 配信時プロトコル	○	○											○	○				
	NW フレームタイプ	○	○											○	○				
	SMB コンピューター名	○	○											○	○				
	SMB ワークグループ	○	○											○	○				
	ネットワークインターフェース選択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	イーサネット速度	○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	SNMPv3 通信許可設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	SSL/TLS 通信許可設定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ホスト名	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	本体名	○	○											○	○				
	イーサネット用 IEEE 802.1X 認証	○		○		○		○		○		○		○		○		○	
インターフェース設定／無線 LAN	通信モード		●		●		●		●		●		●		●		●		●
	SSID 設定		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	アドホックチャンネル		○		○		○		○		○		○		○		○		○
	セキュリティー方式選択		○		○		○		○		○		○		○		○		○
ファイル転送設定	配信オプション											●	●						
	ファクス受信文書配信設定											○	○						
	SMTP サーバー			●	●			●	●										
	SMTP 認証			○	○			○	○										
	POP before SMTP			○	○			○	○										
	受信プロトコル			○	○			○	○										
	POP3/IMAP4 設定			○	○			○	○										
	管理者メールアドレス			○	○			○	○										
	メール通信ポート設定			●	●			○	○										
	メール受信感覚時間設定			○	○														
	受信メールサイズ制限			○	○														
	サーバー側メール保持			○	○														
	送信初期ユーザー名・パスワード									○	○								
	送信メール本文登録／変更／消去			○	○			○	○										
	ファクスメールアカウント			●	●														
	スキャナー再送信間隔時間							○	○	○	○	○	○						
	スキャナー再送信回数							○	○	○	○	○	○						

補足：

- ［有効プロトコル］は、使用するプロトコルが［有効］に設定されていることを確認してください。
- ［無線 LAN］と［ネットワークインターフェース選択］は、拡張無線 LAN ボードを装着したときに表示されます。イーサネットと無線 LAN が両方接続されているときは、設定されているインターフェースが有効になります。
- ［SMTP サーバー］と［ファクスメールアカウント］は、インターネットファクスの送信機能を使うために最低限必要な設定項目です。
- ［POP before SMTP］を［する］に設定する場合は、［受信プロトコル］と［POP3/IMAP4 設定］も設定してください。
- ［SMTP 認証］を［使用する］に設定する場合は、［管理者メールアドレス］も設定してください。
- ［メール通信ポート設定］と［ファクスメールアカウント］は、インターネットファクスの受信機能を使うために最低限必要な設定項目です。
- ［POP before SMTP］を［する］に設定する場合は、［メール通信ポート設定］にある［POP3］のポート番号を確認してください。
- ［配信オプション］が［あり］のときは、IPv4 アドレスが設定されていることを確認してください。

CKC007